裁縫教科書 完

3759
K701B
資料室

41295
教科書文庫
4
920
42-1919
01304
49286

375.9
Kyo18
資料室
中央図書館

大正八年五月十二日
文部省檢定濟
女子師範學校高等女學校用教科書

共立女子職業學校 楊友會裁縫研究部編

裁縫新教科書 下卷

東京 大日本圖書株式會社

廣島大學圖書
廣島大學圖書
広島大学図書
21580
図書
広島大学図書
0130449286

目次

第一章 絹布・毛織……一
第一 絹布單衣……一
第二 毛織單衣……三
第三 絹布・毛織の繕ひ方……四
第二章 腹合帶……九
第一 腹合帶標附け方……九
第二 腹合帶縫ひ方順序……一〇
附 女兒帶……一三
第三章 本裁男單羽織……一四

第一　本裁男單羽織裁ち方・積り方……一四
第二　本裁男單羽織標附け方……一六
第三　本裁男單羽織縫ひ方順序……一九

第四章　本裁被布……二二
第一　被布各部の名稱……二二
第二　本裁被布普通仕立上げ寸法……二三
第三　本裁綿入被布裁ち方・積り方……二三
第四　部分縫　小衿……二五
第五　本裁綿入被布標附け方……二八
第六　本裁綿入被布縫ひ方順序……三〇
第七　本裁綿入被布各種裁ち方・積り方……三五

第五章　中裁・小裁被布……三七
第一　中裁・小裁被布普通仕立上げ寸法……三七
第二　中裁・小裁被布裁ち方・積り方……三七

第三　中裁・小裁被布標附け方・縫ひ方順序……四二

第六章　本裁コート……四二
第一　コート各部の名稱……四二
第二　本裁單コート普通仕立上げ寸法……四四
第三　本裁單コート縫ち方・積り方……四四
第四　部分縫　隱し・小衿(下前)……四七
第五　本裁單コート標附け方……五一
第六　本裁單コート縫ひ方順序……五三
附　本裁單合羽……五五
第一　本裁單合羽裁ち方・積り方……五五
第二　本裁單合羽標附け方・縫ひ方順序……五六

第七章　本裁男袴……五八
第一　男袴各部の名稱……五八

第二　本裁男袴普通仕立上げ寸法及び割り出し方……六一
第三　本裁男袴裁ち方・積り方……六二
第四　部分縫　袴の腰板……六四
第五　本裁男單袴標附け方……七一
第六　本裁男袴縫ひ方順序……七七
第七　十布遣ひ男袴……八一
第八　半十布遣ひ男袴……八三
第九　本裁男袴各種裁ち方・積り方……八四

第八章　中裁・小裁男袴……八六
第一　中裁・小裁男袴普通仕立上げ寸法及び割り出し方……八六
第二　中裁・小裁男袴裁ち方・積り方……八七
第三　中裁・小裁男袴標附け方・縫ひ方順序……九二

第九章　丸帶・男帶……九二
第一　丸帶……九二

第二　男帶……九三

第十章　本裁女小袖……九六
第一　本裁女小袖裁ち方・積り方及び標附け方……九六
第二　本裁女小袖縫ひ方……九七

第十一章　本裁女小袖重ね……九九
第一　本裁女小袖重ね下著寸法詰め方……一〇〇
第二　本裁無垢の裁ち方・積り方……一〇〇
第三　本裁女小袖重ね標附け方……一〇五
第四　本裁女小袖重ね縫ひ方順序……一〇六

第十二章　本裁單衣重ね……一〇六
第一　本裁單衣重ね裁ち方・積り方……一〇七
第二　本裁單衣重ね標附け方……一〇七
第三　本裁單衣重ね縫ひ方順序……一〇八

第十三章　比翼……一一二
第一　本裁比翼裁ち方・積り方……一一二
第二　本裁比翼標附け方……一一三
第三　本裁比翼縫ひ方順序……一一七
第十四章　夜著・蒲團……一二三
第一節　夜著……一二三
第一　夜著各部の名稱……一二三
第二　中夜著普通仕立上げ寸法……一二六
第三　中夜著裁ち方・積り方……一二六
第四　中夜著標附け方……一二七
第五　中夜著縫ひ方順序……一三一
第六　大夜著・小夜著……一三二
第二節　蒲團……一三五

第十五章　蚊帳……一三六
第一　蚊帳各部の名稱……一三六
第二　蚊帳積り方……一三七
第三　蚊帳縫ひ方順序……一三九
第十六章　股引……一四一
第一　股引各部の名稱……一四一
第二　本裁股引普通裁ち切り寸法及び割り出し方……一四三
第三　本裁股引(袷)裁ち方・積り方……一四五
第四　本裁股引(袷)縫ひ方順序……一四七
第十七章　足袋……一四九
第一　足袋裁ち方……一四九
第二　足袋縫ひ方順序……一五一
第十八章　ミシン使用法……一五四

第十九章　涎掛……一五九
第一　涎掛裁ち方……一五九
第二　涎掛縫ひ方順序……一六〇
第二十章　割烹前掛……一六二
第一　割烹前掛各部の名稱……一六二
第二　割烹前掛裁ち方・積り方……一六三
第三　孔紐り……一六三
第四　割烹前掛縫ひ方順序……一六四
第二十一章　小兒前掛……一六六
第一節　小兒前掛(二・三歳用)……一六六
第一　小兒前掛(二・三歳用)裁ち方……一六七
第二　小兒前掛(二・三歳用)縫ひ方順序……一六八
第三節　小兒前掛(四・五歳用)……一六九

第一　小兒前掛(四・五歳用)裁ち方……一六九
第二　小兒前掛(四・五歳用)縫ひ方順序……一七〇
第二十二章　シャツ……一七一
第一節　本裁シャツ……一七一
第一　本裁シャツ各部の名稱……一七一
第二　本裁シャツ普通裁ち切り寸法……一七二
第三　本裁シャツ裁ち方・積り方……一七三
第四　本裁シャツ縫ひ方順序……一七七
第二節　中裁・小裁シャツ……一八〇
第一　中裁・小裁シャツ普通裁ち切り寸法……一八〇
第二　中裁・小裁シャツ裁ち方・積り方……一八二
第二十三章　ズボン下……一八四
第一節　本裁紐附ズボン下……一八四

第一　本裁紐附ズボン下各部の名稱……一八四
第二　本裁紐附ズボン下普通裁ち切り寸法……一八四
第三　本裁紐附ズボン下裁ち方・積り方……一八五
第四　本裁紐附ズボン下縫ひ方順序……一八七
第二節　本裁胴廻し附ズボン下……一九一
第一　本裁胴廻し附ズボン下裁ち方・積り方……一九一
第二　本裁胴廻し附縫ひ方順序……一九二
第三節　中裁・小裁ズボン下……一九三
第一　中裁・小裁ズボン下普通裁ち切り寸法……一九四
第二　中裁・小裁ズボン下裁ち方・積り方……一九五
第二十四章　小兒帽子……一九八
第一節　夏帽子……一九八
第一　夏帽子(三・四歳用)裁ち方……一九八

第二　夏帽子(三・四歳用)縫ひ方順序……二〇〇
第二節　雪帽子……二〇二
第一　雪帽子(一・二歳用)裁ち方……二〇二
第二　雪帽子(一・二歳用)縫ひ方順序……二〇三
附錄
第一章　女兒洋服……二〇五
第一節　女兒洋服寸法取り方……二〇八
第二節　女兒洋服製型法……二一〇
第一　身頃元型……二一〇
第二　袖元型……二一四
第三節　女兒股引……二一六
第一　女兒股引寸法取り方……二一六

第二　女兒股引製型法……二一七
第三　女兒股引積り方・裁ち方……二二〇
第四　女兒股引縫ひ方順序……二二一
第四節　女兒襦袢……二二三
第一　女兒襦袢裁ち方……二二四
第二　女兒繻袢縫ひ方順序……二二五
第五節　胸繼形女兒洋服(四・五歳用)……二二七
第一　胸繼形女兒洋服積り方……二二七
第二　胸繼形女兒洋服裁ち方……二二九
第三　胸繼形女兒洋服縫ひ方順序……二三〇
第二章　男兒洋服……二三四
第一節　男兒洋服寸法取り方……二三四
第二節　男兒洋服製型法……二三七

第一　身頃元型……二三七
第二　袖元型……二四〇
第三　半ズボン元型……二四一
第三節　折衿男兒洋服(四・五歳用)……二四五
第一　折衿男兒洋服裁ち方……二四五
第二　折衿男兒洋服縫ひ方順序……二四八
第四節　廻し外套……二五八
第一　廻し外套裁ち方……二五八
第二　廻し外套縫ひ方順序……二六一

——(目次終)——

廣島大學圖書之印

裁縫新教科書 下卷

第一章　絹布毛織

第一　絹布單衣

總べて絹物の地伸しをなすには、耳の張れる品は、烙鏝にて引き伸ばし、尙ほ充分ならざるときは、耳の所々に鋏を入れて、總體に火熨斗をかくべし。耳の弛める品は、乾きたる白布を敷きて、其の上に濡れたる布を當て、又は直に濡紙を當て、其の上より火熨斗をかくべし。

絹布單衣の裁ち方・積り方・仕立上げ寸法・標附け方等は綿布單

衣に同じ。

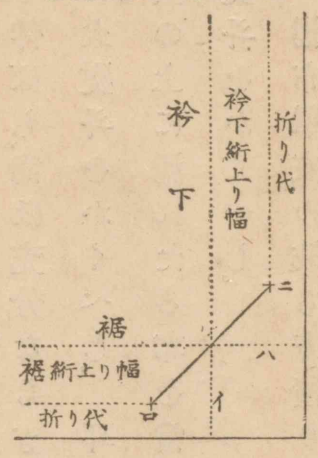
縫ひ方も亦略綿布單衣に同じと雖も、其の異れる所を擧ぐれば、總體に針目を細かくし、縫ひ目に烙鏝をかくること、脇・衽・振りの縫ひ込みの耳を折りて、紡け附くること、又衽の褄先を額緣になすこと等なり。

額緣の標附け方は上圖の如し。

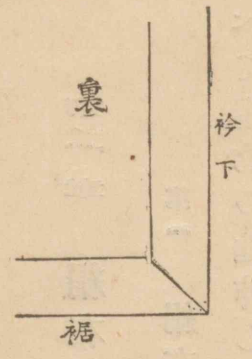
縫ひ方は圖のロとニとを合せて待針を打ち、標通り半返しに縫ひ、縫ひ目を割りて、常の如く衿下及び裾を紡けるなり。

仕上げをなすには大幅二尺許りの新モスの切れを用ひ、其の

方け附標の緣額先褄



褄先の額緣



上より火熨斗又はアイロンを掛くるなり。

透織の如き薄物の場合には肩當・居敷當を用ひず、脊の縫ひ代に共切れを當てゝ脊縫をなし、縫ひ代を包みて、縫ひ目に紡け附くるなり。

第二　毛織單衣

一、**標附け方**　布の据る方は綿布の時と異なることなし。

但し、袖は內袖の方を五厘程引きて、二つに折り、標を附くるなり。標を附くるには箆の代りに「チョーク」を用ひて切り、躾をなすべし。

二、**縫ひ方順序**　縫ひ方の順序は、綿布單衣に同じ。

褄先は額緣となし、脊・脇・袖附は半返しに縫ふべし。

ネル地の場合には、袖附と脇縫とは縫ひ目を割り、袖口・衿下・裾は三つ折りになし、脇・衽・袖下・振り等の縫ひ込みは其の儘にし、總べて千鳥をかくべし。

セル地の場合には、袖附と脇縫とはネル地の如く縫ひ目を割り、脇・衽・袖下・振り等の縫ひ込みは其の端を折りて、千鳥縫又はまつり縫になすべし。

仕上げには霧を吹きてアイロンをかくるなり。

第三　絹布毛織の繕ひ方

一　接ぎ方　片返し・割り接ぎ・掛け接ぎ・織り接ぎ・突き合せ接ぎ

接ぎ方には解し絲又は共色の絲を用ひ、時としては生絲を用ふることあり。針は掛け接ぎ用の細きものを用ふ。

一、片返し　綿布のときに同じ。但し、針目は成るべく細かきを良しとす。

二、割り接ぎ　綿布のときに同じ。其の仕上げ方は縫ひ目を割り、姫糊又は續飯の淡くしたるを、針尖にて、裏より接ぎ目に引き、表裏に烙鏝をかくるなり。

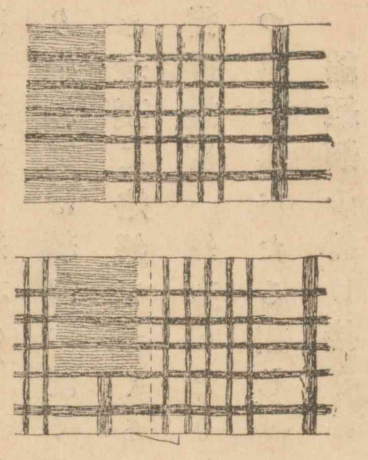
三、掛け接ぎ　綿布のときに同じ。其の仕上げ方は割り接ぎにつきて述べたる如し。

縮緬類の掛け接ぎには、先づ、縞目及び布目に從ひて接ぎ代を折り、次に、西の内又は厚美濃の類を縱に六七分の幅に裁ち切り、之れを接ぎ代の折りの間に挿みて、鬚をかけ置き、双方の折り山を正しく合せて、鬚を施し、經絲凡そ二本おきに、緯絲一

本を抄ひて、五六針ことに一針つゝスカラ掛けになし、後ち、紙を除き、割り接ぎの如く仕上げをなすなり。

四、**織り接ぎ**　先づ一方の布を二寸程解し置き、双方の縞目及び布目を見合せ、三分程重ねて躾をかけ、解したる絲を一本宛針に通して、他方の布の緯絲を抄ひ、織地の通りに、五・六分刺し行き、絲を引き締めて、よく接ぎ目を合せ、後ち、絲及び布の餘りを切り去り、烙鏝をかくるなり。

織り接ぎ



五、**突き合せ接ぎ**　厚地の毛織物には多く此の接ぎ方を用ふ。

其の仕方は、先づ能く毛並・縞目等を見て、裁ち目を突き合せ、双方とも三・四分程、織地を刺して接ぎ合せ、烙鏝をかけ、後ち、刷毛

にて毛並を整ふるなり。

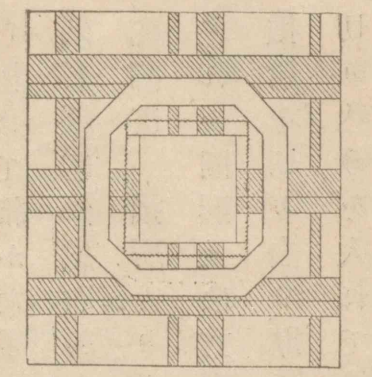
二　繼ぎ方　色紙繼ぎ・刺し繼ぎ・孔繼ぎ

繼ぎ方には、すべて解し絲又は共色の繼ぎ絲を用ひ、針は繼ぎ針を用ふ。

一、**色紙繼ぎ**　綿布のときと同様なり。但し、針目は三目落しとし、極めて細かなるをよしとす。

二、**刺し繼ぎ**　綿布のときに同じ。

三、**孔繼ぎ**　損所よりも稍大なる厚紙を用ひ、損所の形に應じて、之れを圓形又は方形に切り抜き置き、先づ、綿布のときの如く、損所を切り去り、厚紙を裏に當てゝ躾にて留め、損所の周圍に切り込みを入れて、縫ひ代を裏へ折り返し、其の端に少しく糊



を引き、烙鏝にて厚紙に貼り、次に、當切れを裁ち切り、前に切り拔きたる厚紙を其の裏に當て、能く縞目・布目を合せて、縫ひ代を裏に貼り附け、之れを損所に塡め込み、廻りを適宜に躾にて押へ置き、双方の折り山を極めて細かく絎け、二分置き位に一針づつ返して繼ぎ合せ、後ち、双方の紙を除き去り、仕上げをなすなり。

厚地の毛織類には厚紙を用ひず、損所と同形同大に當切れを裁ち切り、能く毛並・縞目等を見て、之れを損所に塡め込み、廻りを適宜に躾にて押へおき、針目の表面に出でざるやう、布の厚みを抄ひて、突き合せ接ぎになすべし。

第二章　腹合せ帶

腹合せ帶は晝夜帶とも云ひ、兩側（かは）別々の帶地を縫ひ合せたるものにて、丈は一丈乃至一丈一尺、幅は八寸五分內外を通常とす。

第一　腹合せ帶標附け方

先づ火熨斗にて帶地の伸び縮みを正し、（品質により霧をかく）耳の厚き品は耳だけを裁ち落し、薄地にて耳の張れる品は鋏を斜に淺く入れ、能く總體を平し、其れより、表を中にして兩側を重ね、幅の中央に待針を打ち、兩端の布目を合せて、假綴をなし、能く幅と丈との釣合を正し、兩脇に待針を打ちて假綴をなし、然る後ち、出來上り幅より一分廣くして、幅標を附く。

第二　腹合せ帶縫ひ方順序

一、一方の脇の中程を一尺許り(帶幅に一・二寸を加へたる寸法)殘して、厚地の品は一針拔きに、薄地の品は小針に縫ひ、角の所は二分程縫ひ殘し、又は一寸許りの間、幅標より少しく外を縫ひ、兩端の全部と兩脇の角より二・三寸の間は半返しに縫ひ、平烙鏝をかけ、其れより、兩端を厚地の側(かは)の方へ一分被せに折りて、兩脇の縫ひ代に綴ぢ附け、次いで、兩脇を五厘の被せに折る。

二、**心の拵へ方**　通常三河木綿を用ひ、一枚心のときは上り幅と同寸に裁ち切り、二枚心のときは一枚は前の如く同寸に裁ち、他の一枚は兩脇の縫ひ込みだけ狹く裁ち落し、(厚地の場合には兩端をも縫ひ込みだけ裁ち落すことあり)之を綴ぢ合すなり。

三、**心の入れ方**　心の片面(二枚心のときは狹く裁ち切りたる心の方)に眞綿を引き、火熨斗をかけて綿を押へ、帶側(おびかは)の縫ひ込みを折りたる上に、眞綿を引きたる方を下にして、心を載せ、心を弛めにして、幅の中央に待針を打ち、先づ、兩脇を綴ぢ、次に、兩端を綴ぢつけ、又其の上に眞綿を引きて火熨斗をかけ、前に縫ひ殘し置きたる所より引き返して、幅及び丈を整へ、縫ひ殘しの部分は先づ心を縫ひ込みに綴ぢ附け、後ち小針に絎けるなり。

(注意)　紋羽の類を心とし眞綿を用ひざることあり。

四、**躾かけ方**　角及び總體の縫ひ目を正し、一分五厘程內に、兩脇は八分位の針目に躾をかけ、兩端は兩脇の一分五厘を除き、殘りを十分して針目を定め、躾をなし、再び針目の間に、躾をかくるなり。

五、**仕上げ方**　火熨斗をかけて仕上げをなし、丈を八つに折り、兩端の中央を八分の深さに綴ぢ、其の間を六分し、之れに八分を加へたる寸法だけ、兩端より內に入り、兩脇の凡そ六分內を綴ぢ、又其の中間にも、圖の如く綴ぢを施し、壓しを置くなり。

〔注意〕縮緬の類を帶側に用ふるときは、先づ其の伸び工合を檢べ、其の寸法だけ、丈幅共に張り目に縫ひ合すべし。

又絹・紗の類を帶側に用ふるときは二枚の心を綴ぢ合せ、一枚心のときの如く裁ち切り、心の間に帶側の縫ひ込みを挾みて、綴ぢ合すべし。

方ぢ綴方み疊の帶せ合腹

〔設問〕

(1) 帶心の拵へ方及び入れ方を說明せよ。

(2) 帶の角を正しく仕立てんには、如何なる點に注意すべきか。

附　女兒帶

女兒帶の丈及び幅は女兒の年齡によりて樣々なれども其の寸法は大略左の如し。

丈……八　尺　幅……四・五　寸

丈……一　丈　幅……六・七　寸

一、**標附け方**　先づ、地伸しをなし、幅を中表に二つに折りて、假綴をなし、出來上り幅より五厘程廣くして、幅標を附く。

二、**縫ひ方**　一側の中央を五・六寸より七・八寸(帶幅に一・二寸を加へたる寸法)殘して、腹合せ帶のときの如く縫ひ、平烙鏝をかけ、折りを附く。

心地は腹合せ帶のときの如く、上り幅と同寸に裁ち切り、片

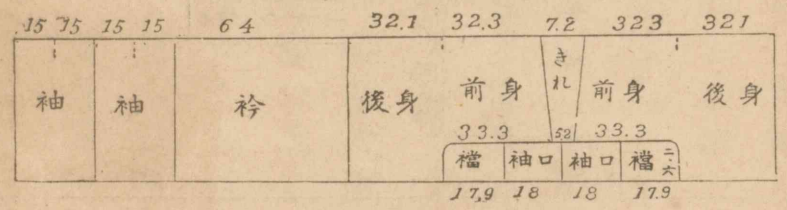
面に眞綿を引きて火熨斗をかけ、之れを帶側の上に載せ、心を稍〻弛めにして、縫ひ代に綴ち附け、又眞綿を引き、前に縫ひ殘し置きたる所より引き返し、能く角を整へ、縫ひ殘しを小針に絎け、躾をかけ、其れより、腹合せ帶のときの如く疊み、綴をなし、壓しをおくなり。

第三章　本裁男單羽織

第一　本裁男單羽織裁ち方・積り方

用布の總尺充分なるときは棒襠裁を用ひ、其の不足なるときは釣襠裁になすべし。

並幅二丈六尺にて男單羽織棒襠裁ち方並に裁ち切り寸法
（袖丈一尺四寸五分身丈二尺七寸）



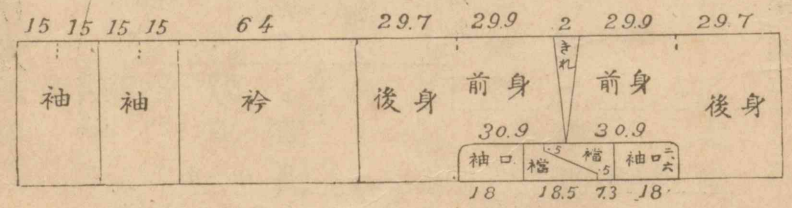
積り方

{用布の總尺－（袖丈×4＋衿丈＋襠の補ひ寸法）}÷4＝後丈
{ 260 －（ 15 ×4＋ 64 ＋ 7.6 ）}÷4＝32.1

後丈＋肩の繰り越し＝脇丈　脇丈＋前下り＝前丈
32.1＋ 2 ＝32.3　32.3＋ 1 ＝33.3

（袖口切れ＋襠丈上り＋襠上の縫ひ代－前脇丈）×2＝襠の補ひ寸法
（ 18 ＋ 12.9 ＋ .3 － 27.4 ）×2＝ 7.6

並幅二丈四尺五寸二分にて男單羽織鈎襠裁ち方並に裁ち切り寸法
（袖丈一尺四寸五分身丈二尺七寸）

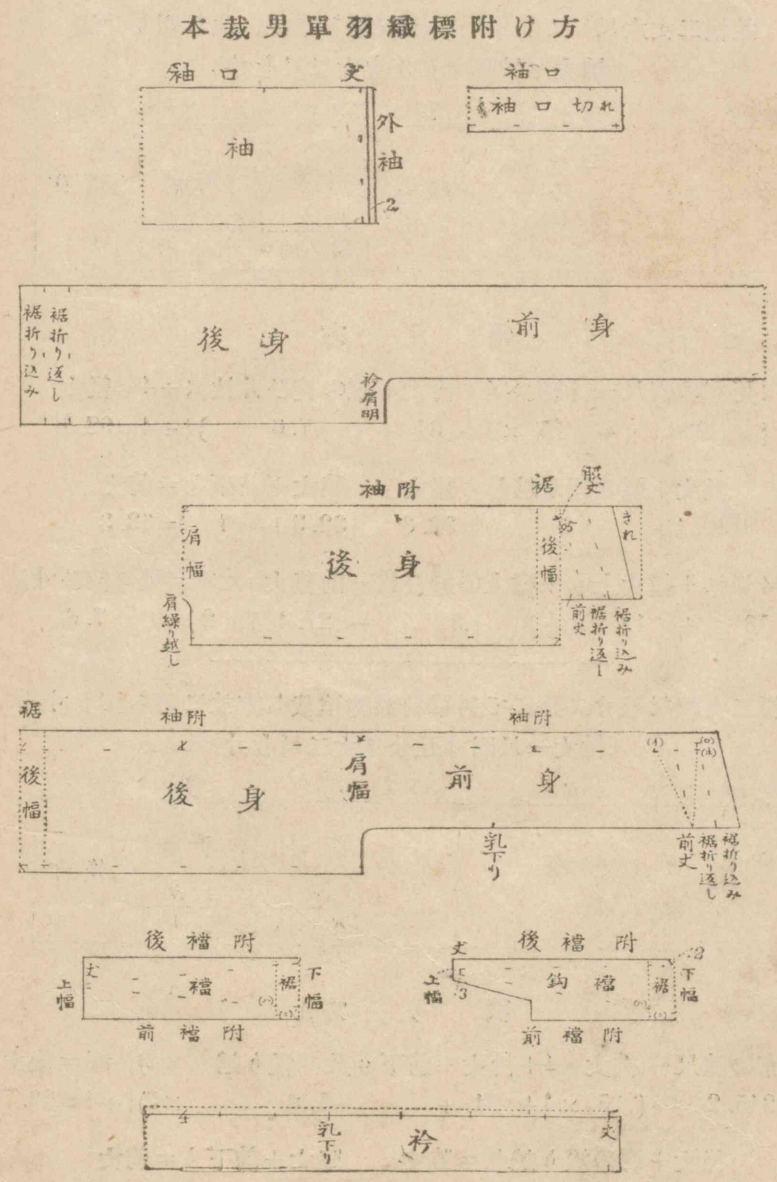


積り方

{用布の總尺－（袖丈×4＋衿丈＋前下り及び繰り越し×2）}÷4＝後丈
{ 245.2 －（ 15 ×4＋ 64 ＋ 1.2 ×2）}÷4＝29.7

後丈＋肩の繰り越し＝脇丈　脇丈＋前下り＝前丈
29.7＋ .2 ＝29.9　29.9＋ 1 ＝30.9

第二　本裁男單羽織標附け方



一、**袖**　内袖を二分程引きて、袖を中表に二つに折り、本裁綿入羽織の表袖と同様に標をなし、袖口切れには丈幅を標し、袖より五厘引きて袖口標を附く。

二、**身頃**　本裁綿入羽織のときの如く、身頃を中表に重ね、後丈を標し、後身頃の餘りを二分し、之れに五厘加へたるものを、裾の折り返し寸法として、標をなし、二枚とも標通り裏の方へ折りて假綴をなし、肩繰り越し一分の所を肩山として、後身頃を前身頃の上に折り重ね、山・袖附・脊・肩幅を標し、又裾口に後幅の標をなし、後身頃の裾口より五厘下りて前脇丈、一寸下りて前丈を標し、後身頃の寸法に倣ひて、裾の折り返しの標を附け、餘分を裁ち落す。

其れより、後身頃を開きて、前身頃に前幅を標し、前脇丈より

上方に、裾の折り返し寸法を計りて、假にイを標し、之れより前丈までの寸法を取りて、裾の折り返し標にロの假標をなし置き、後ち、常の如く乳下り・後幅等の標を附く。

三、**襠**　襠丈に上方の縫ひ代三分ほど加へて、裾の折り山を定め、其れより、折り返しの寸法を標し、後身頃の裾の如く折りて假綴をなし、裾口に後襠附の縫ひ代二分を標して、襠の下幅の標をなし、常の如く丈・上幅・後襠附を標し、裾の折り返しの山を除きて、前襠附の標を附け、裾の折り返しの山には、縫ひ代を一ばいに標し、ハ・ニの寸法を、前身頃の假標ロより計りて、裾の折り返しの山にホの標を附く。

四、**衿**　本裁衿羽織のときに同じ。

以上は棒襠裁の標附け方なり。　鈎襠裁に於ては襠の鈎の方を前襠附となし、棒襠裁のときの如く、襠の裾を折りて假綴をなし、裾口に後襠附の縫ひ代二分を標して襠の下幅を定め、襠丈の所にて、前襠附の方より縫ひ代三分を標し、更に後へ一分を計りて、上幅の標をなすなり。

又鈎襠の丈は前襠附の方較長きが故に、前身頃には幅と前丈とのみ標し置き、襠標を終りて後ち、前襠附の丈を計りて、前脇丈の標を附け、其れより、前下り及び裾の折り返し標を附くるなり。

第三　本裁男單羽織縫ひ方順序

一、**袖**　袖口切れの下端を淺く折りて伏せ縫になし、之れを表袖に合せて、口明を縫ひ、袖の方に返し、袖口留を四つ留めになし、

其れより、常の如く袖下まで縫ひ廻し、袖幅の標を附け、袂の丸みを作り、袖下の外袖の縫ひ代にて、内袖の縫ひ代を包み、七・八分の針目にて、表へ小針に絎け附く。

袖口を毛抜き合せに折り、袖下まで鞍をかけ、袖口切れの奥を五・六分の針目にて、表へ小針に絎けつく。

二、**脊縫・後襠附**　脊筋を二重に縫ひ、常の如く折る。（耳の色異なれるもの又は耳に鋏を入れたるものは袋縫ひになすべし）

襠の上方を三つ折り絎になしおき、襠を後身頃に縫ひ附け、身頃の方へ折る。

三、**乳附及び衿附**　前身頃の裾を三つ折りにして假綴をなし、乳を前身頃に縫ひ附く。

衿の附け方は袷羽織のときに同じ。

四、**前襠附・袖附及び裾絎**　前襠を前身頃に合せて、標通りに縫ひ、裾の折り返しは、前身のホ標と襠のニ標とを合せて、折り込みの山より一針先きまで縫ひ、身頃の方へ折り、裾を三つ折りにして、假綴をなし置く。

男綿入羽織の表袖と同様に袖を附け、袖の方へ折り、袖山にて袖幅の縫ひ込みを三針、小針に綴ぢ、袖附留の所も、亦袖幅の縫ひ込みを袖下の縫ひ代に綴ぢ、其れより、襠の縫ひ込みを身頃の縫ひ込みに、又身頃の縫ひ込みを身頃に絎け附け、後ち、裾絎をなすなり。

〔附言〕女單羽織の普通仕立上げ寸法は女綿入羽織に同じ。其の仕立方は男單羽織と大差なきが故に、爰に之れを省略せり。

〔設問〕

(1) 男單羽織棒襠裁に於て袖丈を一尺四寸上りとし、其の他を總べて普通仕立

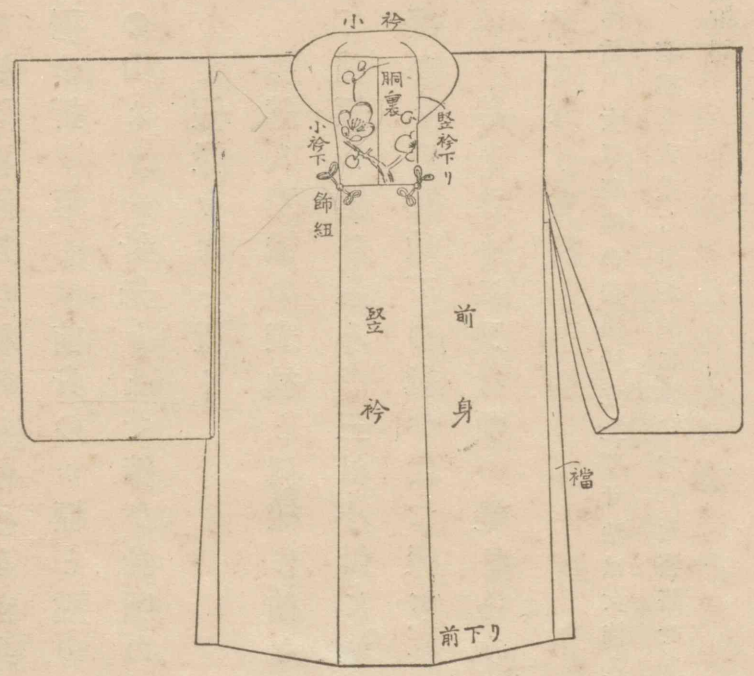
上げ寸法通りとせば、襠の補ひ寸法は何程なりや。

(2) 用布二丈六尺八寸にて女單羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法を記せ。但し、袖丈は一尺六寸上り、身丈は二尺六寸五分とす。

第四章　本裁被布

第一　被布各部の名稱

被の布圖



第二　本裁綿入被布普通仕上げ寸法

竪衿下り……六寸（衽下りと同寸）　竪衿幅……（上三寸五分、下四寸、相褄幅と同寸、衽幅と同寸）

小衿丈……一尺二寸（竪衿下りの二倍）　小衿幅……三寸内外（小衿丈の凡そ四分の一）

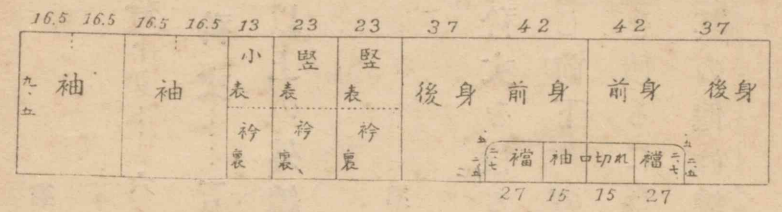
以上の外、總べて本裁羽織の仕立上げ寸法に同じ。

第三　本裁綿入被布裁ち方・積り方

竪衿丈を積るには、先づ身丈を定め、之れより竪衿下りの寸法を減じ、前下りの一寸と縫ひ代の一寸五分とを加ふべし。又小衿丈を積るには竪衿下りの寸法を二倍し、之れに一寸を加ふべし。其の他は總べて本裁羽織と異ることなし。

法寸り切ち裁に並方ち裁の布被入綿裁本て寸三尺八丈二幅並

袖丈一尺六寸身丈二尺六寸五分



積り方

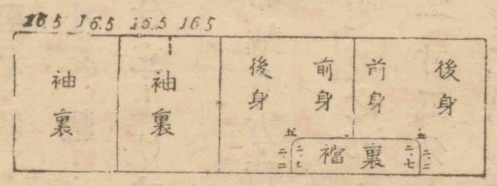
(用布總尺－袖丈×4－小衿丈－竪衿丈×2＋前後の差×2)÷4＝後丈

(283 －16.5×4－ 13 － 23 ×2＋ 5 ×2)÷4＝ 37

後丈＋前後の差＝前丈

37 ＋ 5 ＝ 42

胴裏の裁ち方



積り方

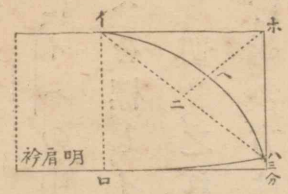
(袖丈(仕上り)＋身丈)×8＋小衿丈＋竪衿丈×2＋總縫ひ代－表の用布總尺＝裏の用布總尺

(16 ＋265)×8＋ 13 ＋ 23 ×2＋ 16.4 － 283 ＝132.4

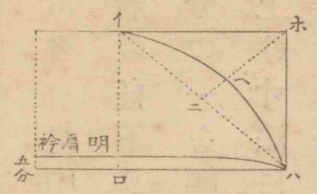
〔注意〕總縫ひ代の見込みは袖に四寸、身頃に四寸、前下りに六寸、衿に二寸四分、合計一尺六寸四分とす。

〔設問〕並幅二丈八尺七寸にて本裁被布を裁つに、身丈を二尺六寸五分とし、袖丈を一尺六寸五分裁ち切りとせば、各部の裁ち切り寸法は何程なりや。又裏地の總尺は何程を要するか。

第一圖　立仕む挟を衿小て頃身



第二圖　立仕む挟て頃身に衿小



第三圖　立仕む挟て頃身に衿小

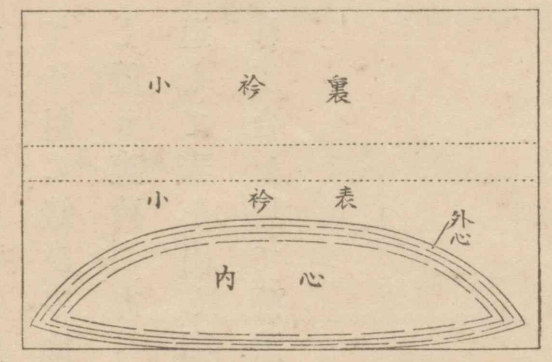
第四　部分縫　小衿

一、**心地の拵へ方**　心切れには、並幅一尺三寸許りの晒木綿を用ひ、之れを二枚に裁つを普通とす、其の裁ち方は、小衿にて

身頃を挾むと、身頃にて小衿を挾むと、仕立方の違に依りて小異あり。身頃にて小衿を挾む仕立の場合には、先づ、竪衿下り（長着の衽下りを標準とす）の二倍を小衿の總丈とし、其の約そ四分の一を幅とし、丈を二つに折り、第一圖の如く、衿肩明の仕立上げ寸法によりて、イ・ロの標をなし、衿附の方の端より凡そ三分上りて、ハを標し、ロ・ハ間に程よく丸みを附けて裁ち切り、次に、イハの中點をニとし、ニホの凡そ三分の一を、ニより度りて、ヘを標し、イ・ヘ・ハの三點をつなぎて、恰好よく丸みをつけて裁ち切り、之れを內心とし、他の一枚の心切れに內心を綴ぢ合せ、衿附の方は二分、他は三分程大きくして、其の外圍を裁ち切り、之れを外心とするなり。

小衿にて身頃を挾む仕立の場合には、第二圖の如く、衿肩明の間を約そ五分程裁ち落し、それより、ハに至る間に少しく丸みをつけて斜に裁ち落し、之れを內心とするなり。其の他は前に同じ。

小衿の縫ひ方



小衿出來上りの圖

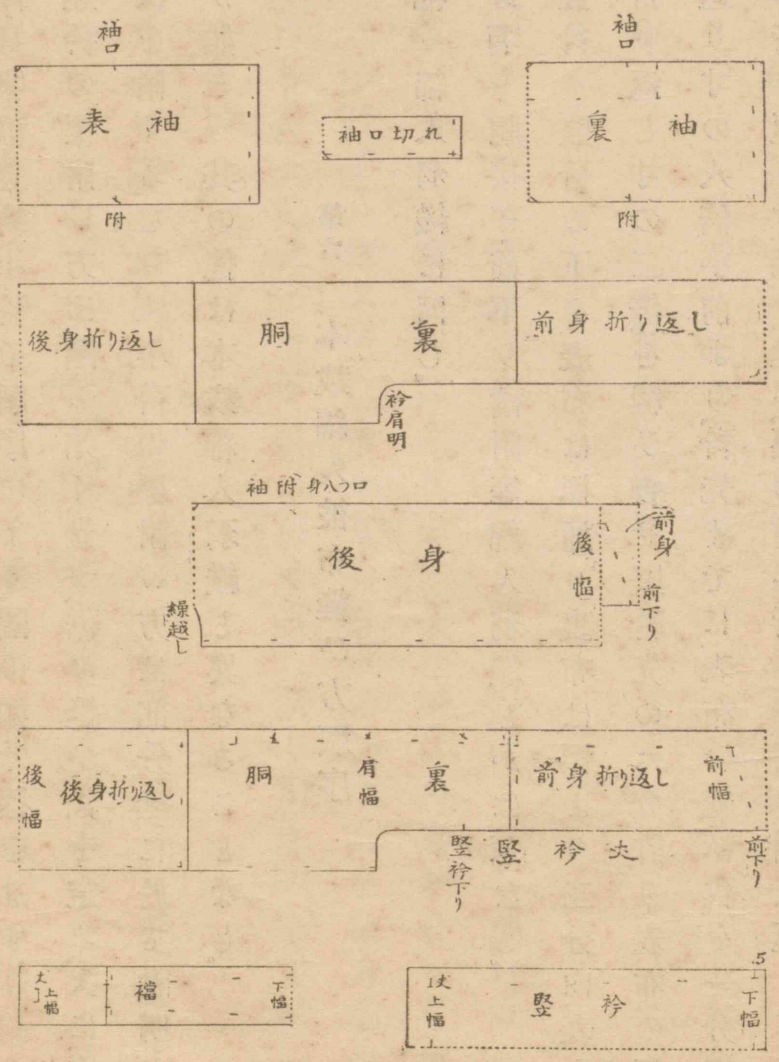
〔注意〕一枚心のときは心切れの地質の厚薄により、適宜に本文の外心又は內心に倣ひて裁つべし。

二、縫ひ方　表衿の裏に、外心を下にし、衿附の方を合せて心を載せ、外心の廻りを表衿に綴ぢ附け、後ち、裏衿を折り返して、待針を打ち、內心の一分五厘外廻りに

標をなし、表衿の此の標と、裏衿の此の標より二分内とを合せて、小針に縫ひ、平烙鏝をかけ、丸みの邊は適宜に縫ひ締めを施し置き、裏衿の方へ折りて、内心の形通りに、絲を引き締め、引き返して表を出し、裏衿を一分引きて、圖の如く躾をかけ、衿の折れ工合を見て、衿附を綴ぢ附くるなり。

第五　本裁綿入被布標附け方

本裁綿入被布標附け方



袖・身頃・襠・竪衿・小衿の順序により、圖の如く標をなす。竪衿の標附け方は、圖の如く、先づ、裾の縫ひ代を定め、次に、丈・幅の標を附くるなり。小衿の標附け方は部分縫に於て説明したるが如し。其の他は本裁綿入羽織と異なることなし。

第六　本裁綿入被布縫ひ方順序

一、**袖**　綿入羽織に同じ。

二、**身頃**　胴接ぎ・前下り・襠附等綿入羽織とかはりなし。

三、**竪衿**　竪衿の下を、表布は標通り、裏布は標より二分内(表布の折り返し寸の二倍)を縫ひ合せ、竪衿先の八分許り(表布の折り返り寸の八倍)手前より、衿先までに、表布の縫ひ代を一分(表布の折り返り寸)深く縫ひ、裏の方へ折りを附け、引き返して、表を出し、隠し躾をかけ、次に前身頃の表に竪衿を縫ひ合せ、尚ほ裾より五分程裏布を縫ひ廻し、竪衿の方へ折り、其れより、袖を附け、綿入羽織の如く疊みて、綿を入る。

〔注意〕地質の薄きときは竪衿に心を入るゝをよしとす。

四、**絎け方**　入羽織のときの如く、裾の假綴をなし、袖口・八つ口を絎け、前襠を綴ぢ、其れより、小衿下の所は、表裏を合せて躾をかけ、竪衿下り標の所に留をなし、竪衿の縫ひ目を前身頃の裏に綴ぢ合せ、竪衿の上を縫ひ、裏の方へ折り、引き返して綿を整へ、竪衿の裏を絎け附く。

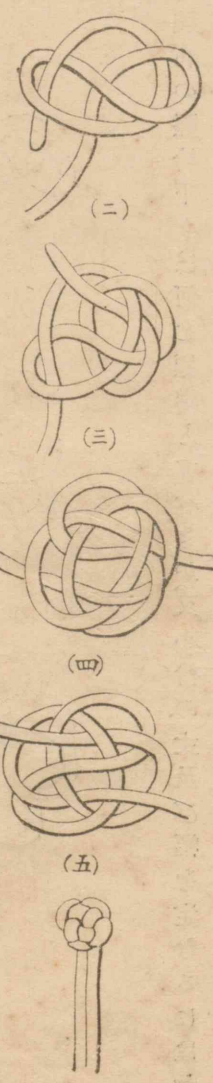
五、**小衿附け方**　身頃にて小衿を挾む仕立の場合には、先づ小衿を拵へ、小衿附の所は綿を表身頃に綴ぢ置き、小衿の裏の中央を表身頃の脊に合せ、衿肩明の邊は平に、衿肩廻しの邊は小衿

の方を稍〻弛めに、以下は平に待針を打ちて、之れを縫ひ附け、身頃の方へ折り、其の上に裏身頃を載せて、假綴をなし、小衿下より始めて絎け廻すなり。

小衿にて身頃を挾む場合には、先づ小衿下を絎け、それより上は、身頃の表裏を綴ち合せ置き、小衿の表を裏身頃の方に合せて縫ひ附け、衿の方へ折り、裏衿を絎け附くるなり。

其れより、綿入羽織の如く脊綴をなし、竪衿の上部及び小衿下に火熨斗をかけ、後ち、飾紐を上前竪衿の上の兩端と、前身の小衿下とに綴ち附け、下前竪衿の上の角にシヤカ結びの紐を附け、前身小衿下の裏に受け紐を附くるなり。

結かやし



結輪二

結　梅

(一)

(二)

(三)

結　菊

(一)

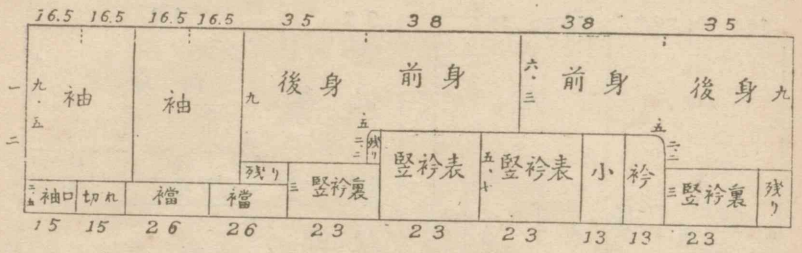
(二)

〔設問〕

(1) 被布の竪衿下りは何を標準とすべきか。

(2) 小衿の形に二様あり、其の裁ち方を説明せよ。

一尺二寸幅二丈一尺二寸にて本裁被布の裁ち方並に裁ち切り寸法

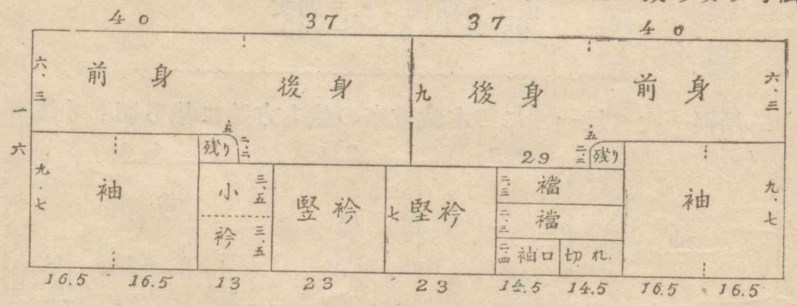


積り方

(用布の總尺－(袖丈×4＋前後の差×2))÷4＝後丈
(212－(16.5×4＋3×2))÷4＝35

後丈＋前後の差＝前丈
35＋3＝38

一尺六寸幅一丈五尺四寸にて本裁被布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

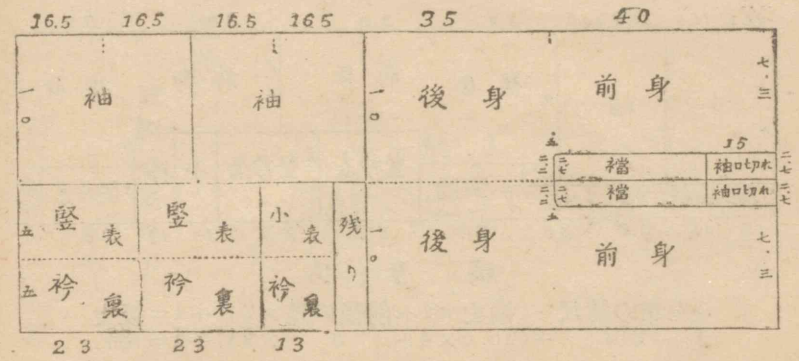
(用布の總尺－前後の差×2)÷4＝後丈
(154－3×2)÷4＝37

後丈＋前後の差＝前丈
37＋3＝40

第七　本裁被布各種裁ち方・積り方

〔注意〕竪衿幅不足なれば、別に幅三寸丈二尺三寸程の切れを、竪衿裏に附くるものとす。

二尺幅一丈四尺一寸にて本裁被布の裁ち方並に裁ち切り寸法

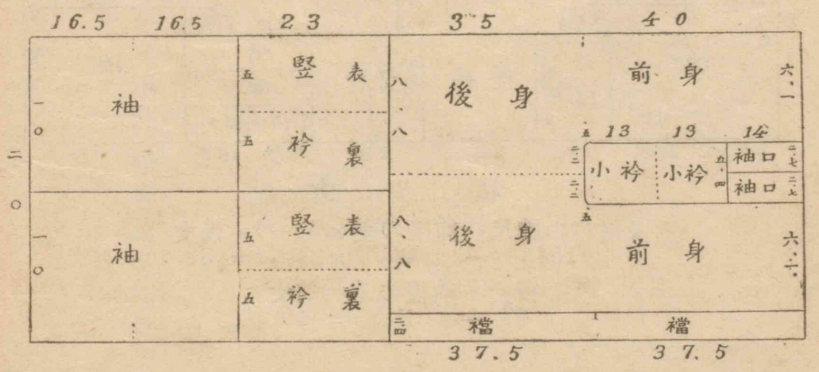


方　り　積

{用布の總尺－(袖丈×4＋前後の差)}÷2＝後丈
{　141　－(16.5×4＋　5　)}÷2＝ 35

後丈＋前後の差＝前丈
35 ＋　5　＝ 40

二尺幅一丈三尺一寸にて本裁被布の裁ち方並に裁ち切り寸法



方　り　積

{用布の總尺－(袖丈×2＋竪衿丈＋前後の差)}÷2＝後丈
{　131　－(16.5×2＋　23　＋　5　)}÷2＝ 35

後丈＋前後の差＝前丈
35 ＋　5　＝ 40

第五章　中裁小裁被布

第一　中裁小裁被布普通仕立上げ寸法

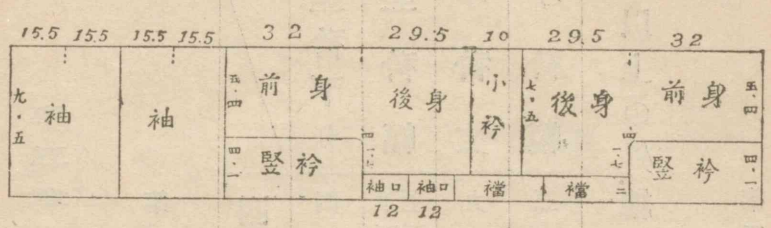
	四つ身	三つ身	一つ身	割出し方
竪衿下り	四寸五分	三寸五分	三寸	衽下りに五分増し
竪衿幅	下三寸五分　上三寸三分	下三寸　上二寸八分	下三寸　上二寸八分	下衽幅と略〻同寸　上下幅より凡そ二分詰め
小衿丈	九寸	七寸	六寸	竪衿下りの凡そ二倍
小衿幅	三寸	二寸五分	二寸三分	小衿丈の凡そ三分一

以上の外、總べて中裁・小裁羽織の寸法に同じ。

第二　中裁・小裁被布裁ち方・積り方

並幅一丈九尺五寸にて四つ身被布の裁ち方並に裁ち切り寸法

（袖丈一尺五寸身丈二尺二寸）



積り方

{用布の總尺－（袖丈×4＋小衿＋前後の差×2）}÷4＝後丈
{　195　－（155×4＋10＋2.5×2）}÷4＝29.5

後丈＋前後の差＝前丈
29.5＋2.5＝32

裏布の積り方

（袖丈上り＋身丈）×8＋小衿＋總縫代－表用布の總尺＝裏用布の總尺
（15＋22）×8＋10＋15.2－195＝126.2

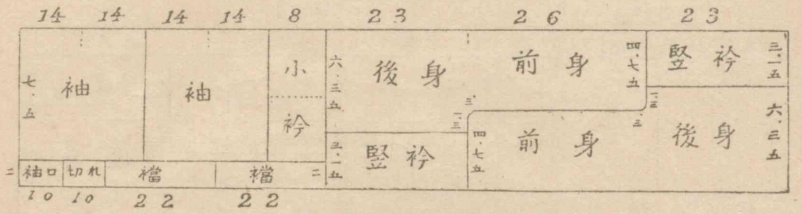
〔注意〕總縫ひ代の見込み左の如し

袖……四寸
身頃…四寸
前下り…四寸八分
三つ衿…二寸四分
合計一尺五寸二分

〔設問〕並幅一丈八尺にて四つ身被布を裁つに、身丈を二尺三寸とし、袖丈を一尺六寸五分裁ち切りとせば、其他の裁ち切り寸法は何程なりや。又裏地の總尺は何程を要するか。

並幅一丈三尺六寸にて三つ身被布裁ち方並に裁ち切り寸法

（袖丈一尺三寸五分身丈一尺七寸）



積り方

{用布の總尺－（袖丈×4＋小衿＋前後の差）}÷3＝後丈
{　136　－（14×4＋8＋3）}÷3＝23

後丈＋前後の差＝前丈
23＋3＝26

裏布の積り方

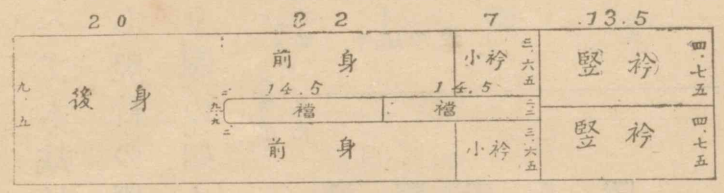
袖丈上り×8＋身丈×6＋小衿＋總縫ひ代－表用布の總尺＝裏用布の總尺
13.5×8＋17×6＋8＋10.8－136＝92.8

〔注意〕總縫ひ代の見込み左の如し

袖……四寸
身頃…三寸
前下り…二寸
三つ衿…一寸八分
合計……一尺八分

並幅六尺二寸五分にて一つ身袖無被布の裁ち方並に裁ち切り寸法

（身丈一尺五寸）



積り方

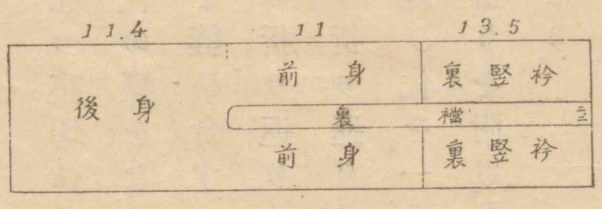
｛用布の總尺－（小衿丈＋竪衿丈＋前後の差）｝÷2＝後丈

｛　62.5　－（　7　＋ 13.5 ＋　2　）｝÷2＝ 20

後丈＋前後の差＝前丈

20 ＋　2　＝ 22

裏布の裁ち方



積り方

身丈×4＋小衿＋竪衿丈×2＋總縫ひ代－表用布の總尺＝裏用布の總尺

15 ×4＋ 7 ＋ 13.5 ×2＋ 4.8 － 62.5 ＝ 36.3

〔注意〕總縫ひ代の見込みは左の如し

身頃二寸六分

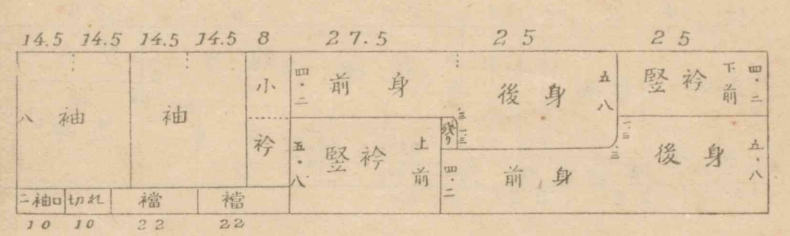
前身下り一寸

三つ衿一寸二分

合計四寸八分

片面物一尺幅一丈四尺三寸五分にて三つ身被布の裁ち方並に裁ち切り寸法

（袖丈一尺三寸五分身丈一尺七寸）



積り方

｛用布の總尺－（袖丈×4＋小衿＋前後の差）｝÷3＝後丈

｛　143.5　－（ 145 ×4＋ 8 ＋　2.5　）｝÷3＝ 25

後丈＋前後の差＝前丈

25 ＋　2.5　＝27.5

裏布の積り方

袖丈上り×8＋身丈×6＋小衿＋總縫ひ代－表用布の總尺＝裏用布の總尺

14　×8＋ 22 ×6＋ 8 ＋ 10.8 － 143.5 ＝ 119.3

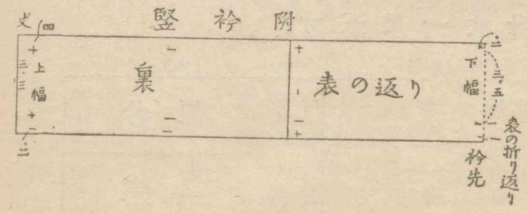
第三　中裁・小裁被布標附け方及び縫ひ方順序

凡べて本裁被布に同じ。

但し、竪衿の標を附くるには、先づ裏切れを接ぎて、中表に二つに折り、圖の如く、丈・幅及び縫ひ代の標をなすなり。

又竪衿の表裏を縫ひ合すには、表は標通り、裏は標より二分内(表の折り返り寸の二倍)を縫ひ合せ、竪衿先の八分許り(折り返り寸の八倍)手前より衿先までに、表布の縫ひ代を一分(表の折り返り寸)深く縫ひ、裏の方へ折りを附け、引き返して表を出し、隠し躾をかくるなり。

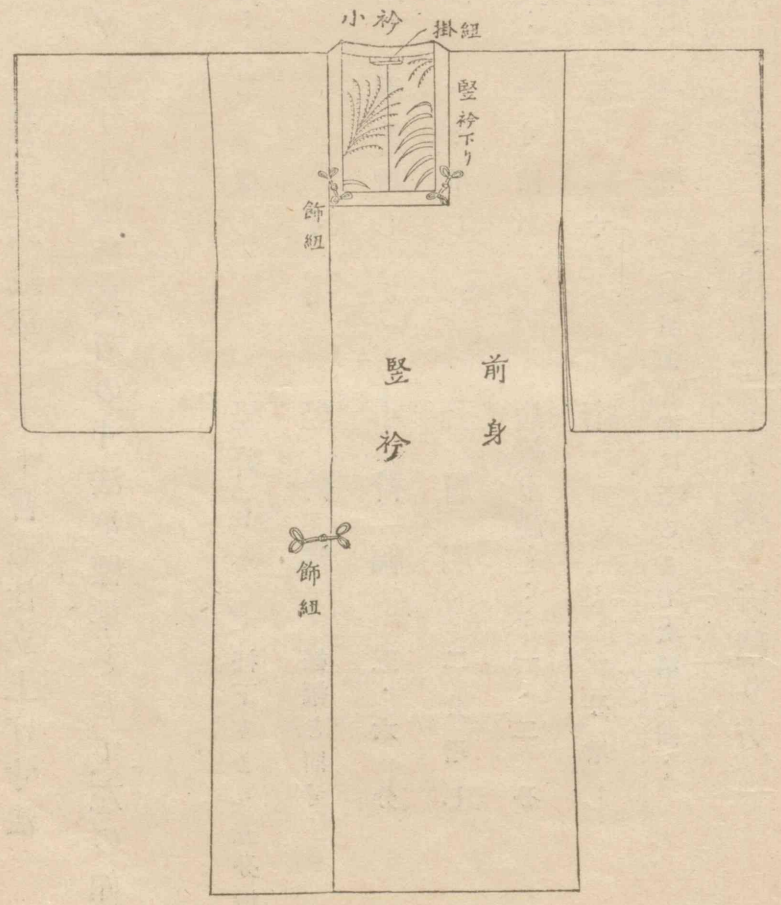
竪衿の標附け方



第六章　本裁單コート

第一　コート各部の名稱

コートの圖



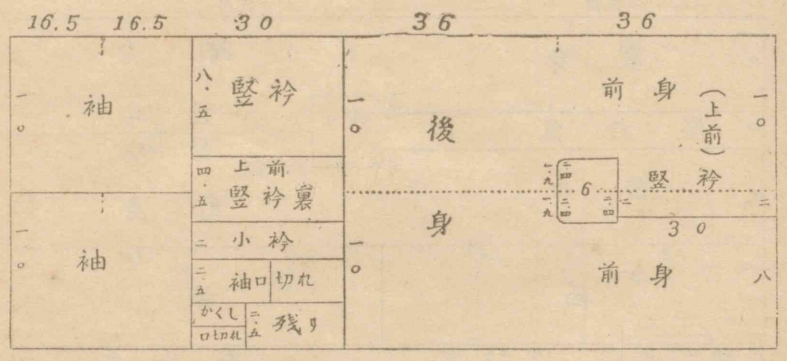
第二　本裁單コート普通仕立上げ寸法

普通仕立上げ寸法は長着の寸法を標準として、左の如く増減すべし。

袖丈……二分増し
袖口……同　寸
袖附……五分増し
袖幅……一分増し
身丈……一寸詰め
後幅……同　寸
前幅……一寸増し（脇明より裾に至るまで次第に開く）
竪衿下り……衽下りより五分増し
竪衿幅……衽幅と同寸
小衿幅……五・六分
衿肩明……二分増し
肩繰り越し……一・二分
裄……一分増し

第三　本裁單コート裁ち方・積り方

二尺幅一丈三尺五寸にて本裁コートの裁ち方並に裁ち切り寸法

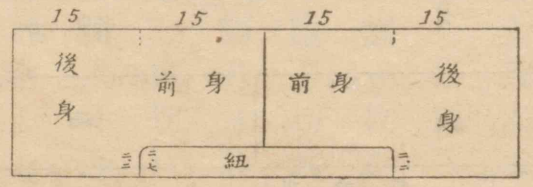


積り方

{(用布の總尺－袖丈×2)＋竪衿下り}÷3＝身丈
{(　135　－16.5×2)＋　6　}÷3＝ 36

身丈－竪衿下り＝竪衿丈
36 －　6　＝ 30

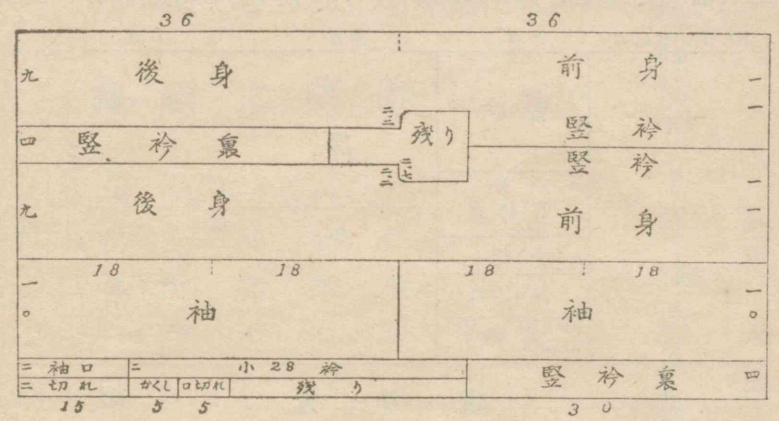
並幅六尺にて肩當の裁ち方



積り方

用布の總尺÷4＝肩當丈
60　÷4＝ 15

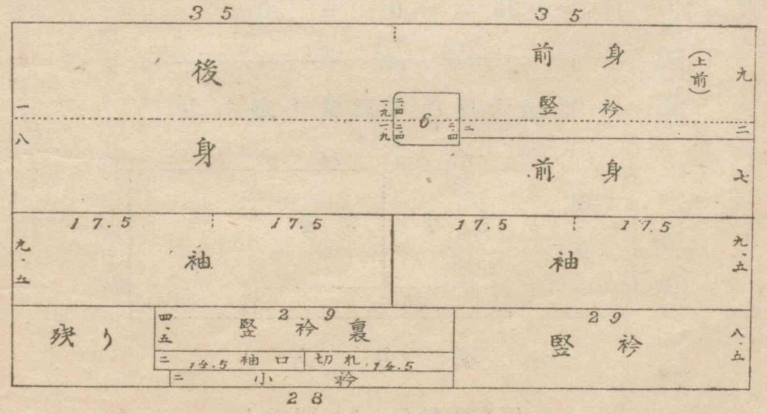
三尺六寸幅にて本裁コートの裁ち方並に裁ち切り寸法



身丈×2＝用布の總尺

36 ×2＝　72

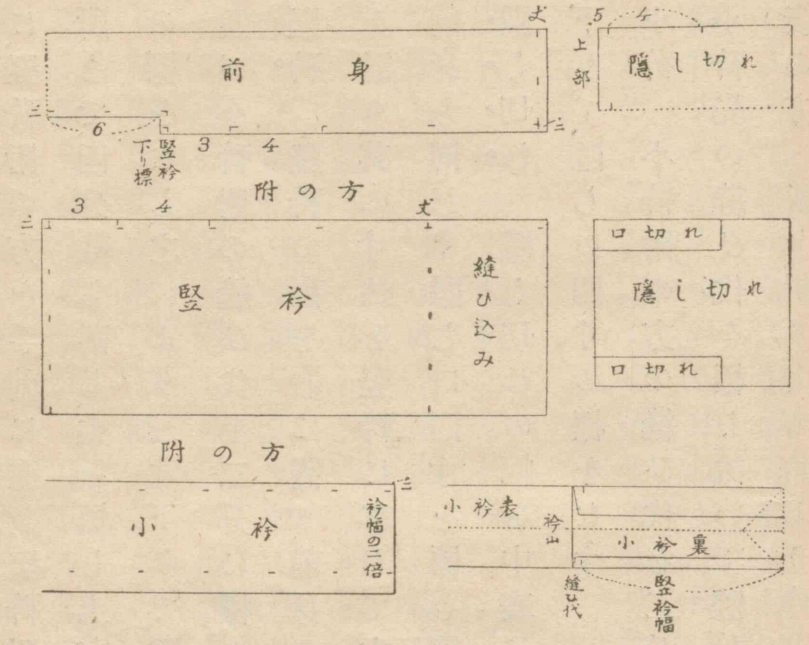
三尺六寸幅七尺にて本裁コートの裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の總尺÷2＝身丈

70　÷2＝ 35

前身頃・竪衿・隱し・小衿の標附け方



第四　部分縫

隱し・小衿(下前)

練習用布並幅一枚を竪衿とし、半幅一枚を前身に、四つ割一枚を小衿に用ひ、別に隱し切れとして七寸五分幅八寸許りの切れ一枚、隱し口切れとして、一寸五分幅六寸許りの切れ二枚、又肩當として半幅八寸程を用意すべし。

一、標附け方　前身の裾を右

に、竪衿附の方を手前に置き、竪衿附の方にて、上方より六寸の所まで、四分裁ち落し、丈を標し、上方より六寸五分に、竪衿下りの標をなし、之れより三寸下りて、隱し口の四寸を標し、竪衿附及び小衿附の縫ひ代を二分に標を附く。

竪衿　竪衿の裾を右に置き、前身の竪衿下り標より丈標までを計り、其の寸法を竪衿に移して、丈の標をなし、竪衿附の方に、前身と同じく隱し口四寸を標し、縫ひ代二分の標をなす。

隱し切れ　隱し切れの幅を中表に二つに折り、上方より五分下りて、隱し口四寸の標をなす。

小衿　小衿附の方の縫ひ代を二分として、衿幅の二倍に折り、小衿先の縫ひ代を標し、次いで竪衿幅の標をなし、其の所より表の方へ折り、折り山の角より衿山へかけ、斜に衿幅だけ内に

に入りて、圖の如く、額縁の標を附く。

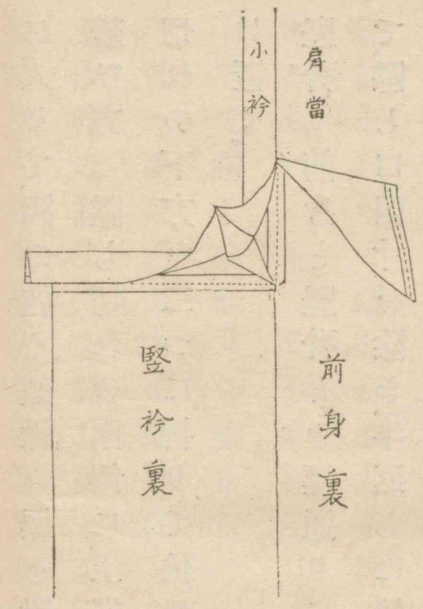
二、縫ひ方　隱し切れの兩側に、上端より口切れを縫ひ附け、肩當切れの下方を、二つに折りて伏せ縫をなし、前身の裏に綴ち附け置く。

竪衿　前身と竪衿とを標通りに合せ、裾より竪衿附の上端まで、隱し口四寸を除き、半返しに縫ひ、縫ひ目を割りて烙鏝をかけ、次に、隱し切れの一側と竪衿隱し口の幅標より五厘外とを合せて、隱し口を縫ひ合せ、隱し切れの方へ折り、又隱し切れの他の一側と前身隱し口の五厘外とを縫ひ合せ、前身の方へ折りを附け、二本絲にて隱し切れの上下を縫ひ、上方を竪衿裏に返し縫又は千鳥に綴ち、下方を竪衿附の縫ひ込みに綴ち附け、其れより、前身の裾を三つ折りにしてまつり、竪衿幅（小衿附の

標より計るものとす)を定め、竪衿下を表は標通りに、裏は附の方にて一分引き、衿先より次第に斜に折りて躾をかけ、竪衿裏を身頃に當て、躾にて綴ぢ置き、竪衿先よりまつる。

小衿　小衿の額縁の標を小針に返し針に縫ひ、縫ひ目を割り置き、其れより、前身の竪衿下り標の所に切り込みを入れ、小衿附を標通り裏の方へ折りて、烙鏝をかけ、小衿の額縁の角を前身の竪衿下り標に合せて、一針留め、角より縦横とも七・八分程、裏より小針に返し紵けになし、縫ひ代の折りを開き、小衿を見て、返し針に、其の餘を縫ひ附け、縫ひ目を割りて

小衿の附け方



烙鏝をかけ、肩當及び竪衿裏を其の縫ひ込みに綴ぢ附け、小衿先を角又は隅切に縫ひ、裏をまつり附け、後ち、隱し口の上下に門留をなす。

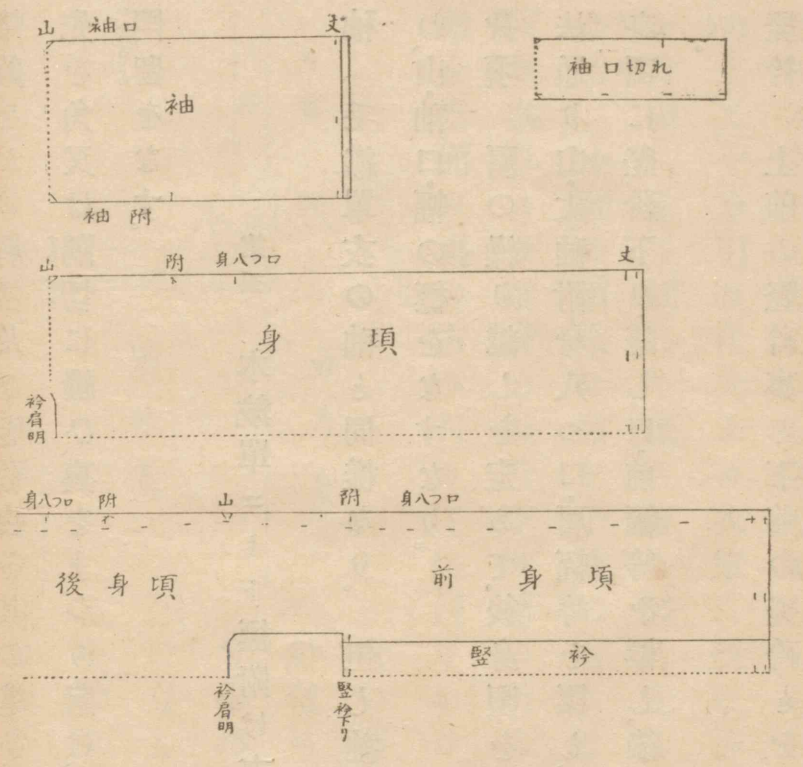
第五　本裁單コート標附け方

一、**袖**　毛織單衣の袖と同様なり。但し袖口切れは常の如く重ね、山・袖口・幅の標をなすなり。

二、**身頃**　肩の繰り越しを定めて、後身頃を前身頃に折り重ね、寸法通り山・丈・袖附・身八つ口・肩幅等を標し、次に、後身頃を開き、前身頃に竪衿下り・隱し口・前幅等を標し、後ち、後身頃に幅標を附く。

三、**竪衿**　上前の竪衿裏と下前の竪衿とを重ねて、丈を標し、下前

本裁單コート標附け方



の竪衿に、隠し口の標をなす。

四、**小衿**　部分縫のときに同じ。

第五　本裁コート縫ひ方順序

一、**袖**　袖口切れの下をスカラ縫になし、本裁女袷のときの如く、袖口を縫ひ、四つ留めをなし、袖口

下より袖下を縫ひ廻し、幅標を附け、縫ひ目を折りて烙鏝をかけ、袖口を毛抜き合せに折りて、袖下まで躾をかけ、其れより、口切れの奥を、躾にて綴ぢおき、千鳥或はまつり縫になし、又袖口下及び袖下の縫ひ込みを千鳥にて押へ置く。

二、**身頃**　肩當切れの脊を縫ひ合せ、前後の裁ち目を伏せ縫になし、之れを身頃に當て、脊・衿肩廻し・肩幅の所に假綴をなし、其れより、脇を縫ひ、縫ひ目を割り、縫ひ込みの端を折りて、躾にて身頃に綴ぢ附く。

三、**竪衿・裾**　部分縫のときの如く、下前の竪衿及び隠しを附け、次に、上前の竪衿に裏切れを接ぎて、縫ひ目を割り、其れより、身頃の裾を三つ折りにして、千鳥又はまつり縫になし、部分縫のときの如く、竪衿の幅を定め、竪衿の下より始めて、竪衿裏を千鳥

又はまつり縫になす。

若し、裾切れを用ふる時は、之れを身頃の裾に縫ひ附け、裾切れの方へ折り、隱し躾をかけ、表の裾を二分程裏へふかせて假綴をなし、後ち、裾切れの上方を折りて、身頃に絎け附くるなり。

四、**小衿**　部分縫のときと同じく小衿を附け、其れより、丈一寸五分幅一分程の掛紐を絎け、脊の小衿附の縫ひ目に當て、兩端を綴ぢ附け、小衿先を縫ひ、小衿の裏を身頃にまつり附く。

五、**袖附**　ネル單衣のときと同樣に袖を附け、袖と身頃の縫ひ込みに千鳥掛けをなし、次に、單衣のときの如く肩當を袖附に絎け附け、肩當の脊の左右二寸程を千鳥にて身頃に綴ぢ附け、其れより、袖附及び身八つ口に閂留をなす。

六、**飾紐**　上の飾紐の附け方は被布に同じ。下の飾紐は竪衿丈の中程より約そ一寸程上りて、上前の竪衿端と、其れより前幅の約そ三分の一を隔てたる下前とに、之れを附け、尙ほ同じ高さの下前の竪衿端と一寸程上りたる上前の脇の縫ひ込みとに、丈八寸ばかりの細き絎紐を附くるなり。

〔附言〕ミシン縫のときには、總べての縫ひ込みの端を甲斐絹等の細き斜裁の切れにてくるみ、ミシンをかけ、之れを身頃に絎け附くることあり。

〔設問〕

(1) 本裁コートの仕立上げ寸法を說明せよ。

(2) 本裁單コートの身丈を三尺四寸、袖丈を一尺六寸五分上りとせば、二尺幅にて何程の用布を要するか。其の裁ち方を圖解し、裁ち切り寸法を記入せよ。

附　本裁單合羽

第一　本裁單合羽裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は本裁單コートに同じ。

第二　本裁單合羽標附け方・縫ひ方順序

一、標附け方

袖　本裁單羽織に同じ。

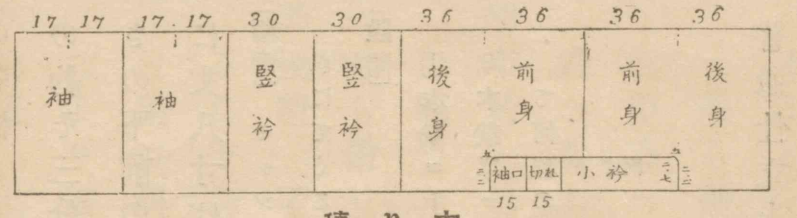
身頃　本裁單コートに同じ。

竪衿　中表に幅を二つに折りて、之れを重ね、本裁被布の竪衿と同じく、丈・幅の標（幅は上下同寸）をなし、竪衿附の方に、袷羽織の衿の如く、合標を附く。

二、縫ひ方

袖　本裁單羽織に同じく袖を縫ひ、振り

法寸切り裁ち並方裁ち裁の羽合裁本てにて寸二尺七丈二幅並



積り方

{(用布の總尺－袖丈×4)＋竪衿下り×2}÷6＝身丈

{(272 － 17 ×4)＋ 6 ×2}÷6＝ 36

を絎け置く。

身頃　本裁單衣の如く脊を二重縫ひになし、肩當を附け、次に前身頃の裾を折りて假綴をなす。

竪衿　前身の竪衿附の縫ひ代を二分とし、表裏の竪衿にて之れを挾み、丈及び合標を合せて、一針拔きに縫ひ、竪衿の下は、丈標より一分先きを縫ひて、裏の方へ折り、縫ひ込みを竪衿附の縫ひ目に綴ぢ附け、引き返して折りを正し、竪衿上の縫ひ代を、表裏ともに、竪衿下り標より三角に、內へ折り込み置く。

小衿　本裁單コートの如く、小衿の幅を折り、其れより、小衿を、下前の竪衿端より始め、竪衿下り標の所にて、少しく小衿の方を弛めになし、上前の竪衿端まで一針拔きに縫ひ、小衿の方へ折り、衿先を縫ひて、裏の方へ折り、引き返して、裏を絎け附け、竪

衿下りの角にて、小衿の裏を三角に摘みて、返し縫になし、竪衿の方へ折りて、まつり附く。

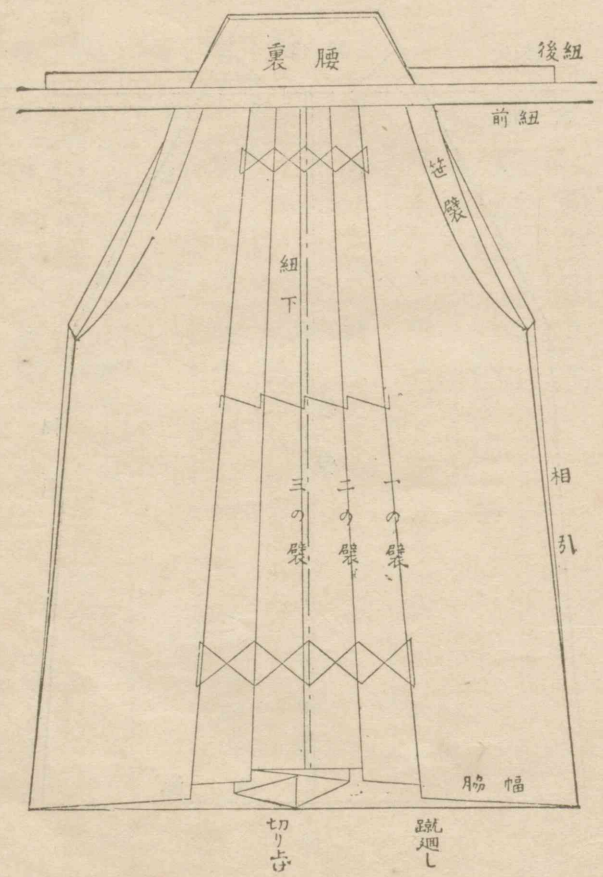
次いで脇を縫ひ、女單衣のときの如く縫ひ込みを綴ぢ、裾紵をなす。

袖附　袖附の始め終りを抄ひ留になし、身頃を見て縫ひ附け、身の方へ折り、身八つ口を紵け、肩當を袖附に紵け附け、終りて、本裁單コートの如く飾紐を附く。

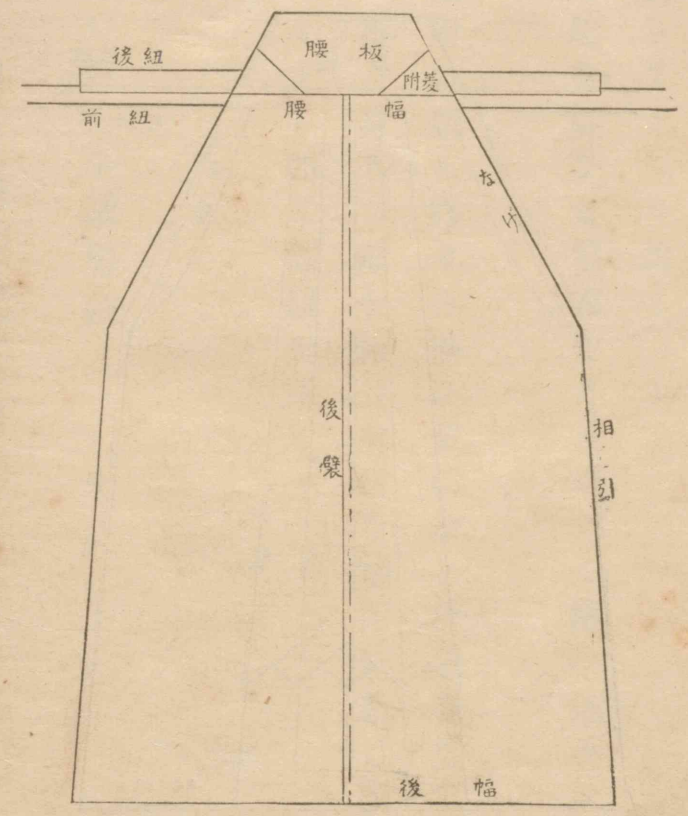
第七章　本裁男袴

第一　男袴各部の名稱

男袴（前）の圖



男袴（後）の圖



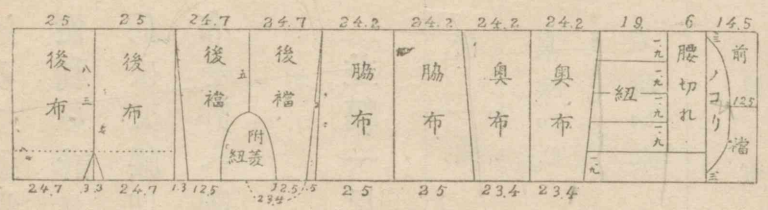
第二　本裁男袴普通仕立上げ寸法及び割り出し方

各部名稱	普通仕立上げ寸法	割り出し方
紐下	二尺二寸	着丈の凡そ十分の六
相引	一尺四寸六分	紐下の凡そ三分の二
後幅	八寸	紐下の凡そ三分の一に八分許りを加ふ（着物の後幅と同寸）
腰幅	六寸五分	後幅の四分の三に五分を加ふ
後重ね幅	上、一寸 下、三分	
腰板幅	下、六寸五分 上、四寸三分五厘	下、腰幅と同寸 上、腰幅の凡そ六分の四
腰板高さ	二寸三分	腰幅の三分の一に一二分を加ふ
附菱幅	二寸四分	腰幅の三分の一に二分を加ふ
附菱高さ	一寸五分	腰板斜邊の二分の一に二分を加ふ

脇幅	四寸八分	後幅の凡そ五分の三
前紐附幅	八寸	後幅と同寸
前寄せ襞幅	上、一寸八分 下、一寸六分	上、後幅の十分の一 下、後幅の五分の一
笹襞幅	一寸二分	脇幅の四分の一
襠の高さ	一尺二寸	相引の高さより凡そ一寸を減ず
乘間	九寸三分	紐下の十分の四に凡そ五分を加ふ
切り上げ	一寸六分	紐下の凡そ百分の七
三の襞深さ（懷襞）	二寸八分	
後紐	幅一丈一尺八寸七・八分	
前紐	幅七・九尺八分	

第三　本裁男袴裁ち方・積り方

並幅二丈三尺五寸七分にて本裁男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

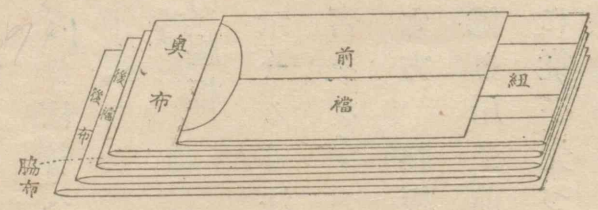
{用布の總尺－(紐＋腰切れ＋前襠)＋裁ち違ひ}÷8＝後丈
{　235.7　－(19＋　6　＋14.5)＋　3.8　}÷8＝　25

(紐下＋裁ち込み)×8－裁ち違ひ＋紐＋腰切れ＋前襠＝用布の總尺
(　22　＋　3　)×8－　3.8　＋19＋　6　＋14.5＝　235.7

紐下＋裁込＋腰切上＋襠ノサイギ＝後丈切り寸法

表ヶ書ヒ 3.8＋＝8.5×4＋3.4×2

用布の折り方



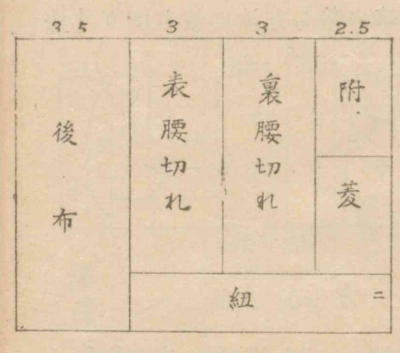
用布を積るには、後布の丈を標準とし、後布の切り上げ(後丈と後襠丈との差に當る)の二倍、卽ち六分、脇布・奥布の切り上げの四倍、卽ち三寸二分、合計三寸八分を裁ち違ひとして計算するなり。又裁

ち込みを通常三寸とすれども、用布に餘裕あるときは、仕立直しの便利を計り、成るべく多く見込み置くべし。

尙ほ又腰切れは損じ易きものなれば、替へ腰の用として、餘分の布を貯へ置くをよしとす。

第四　部分縫　袴の腰板

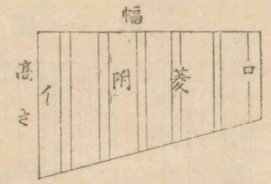
並幅一尺二寸の縞布を圖に示せる寸法に從ひて縫ち切り、部分縫の練習をなすべし。



一、**腰板紙の裁ち方**　腰板紙には美濃紙二十枚程の板目紙を用ひ、前に掲げたる普通仕立上げ寸法に從ひ、先づ、腰板の幅、次に、高さを標し、腰板幅の兩端より、高さにかけ、腰板幅の十分の九を計りて、上幅の標をなし、圖

腰板紙の裁ち方

附菱の裁ち方



の如く裁ち切るなり。又別に半紙を八分幅に切り、固く撚りて、腰幅の凡そ三分の二の長さに紙撚を作り置く。

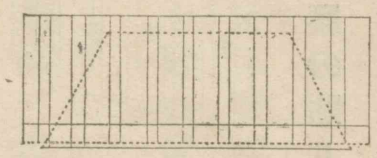
二、**附菱の裁ち方**　腰幅の二分の一を附菱の幅とし、腰板の高さに二分を加へたるものを一方の高さ(イ)とし、其の二分の一を他方の高さ(ロ)として裁ち切る。

三、**裏打ちの仕方**　半紙を揉み、之れを烙鏝にて伸し置き、裏腰切れ・附菱切れの周圍に淺く淡き糊を引き、前の紙にて裏打ちをなす。

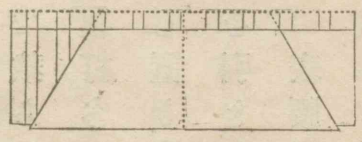
四、**表腰の貼り方**　表腰切れと腰板紙の表裏との幅の中央に標を附け、又表腰切れの下方を五分幅に折り置き、腰板紙の下方

表腰の貼り方

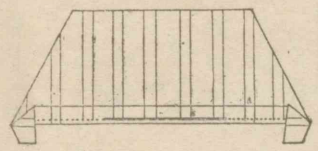
第一圖



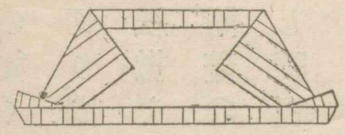
第二圖



第三圖



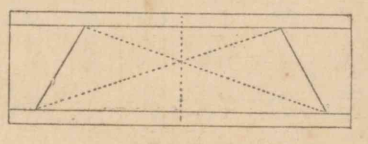
第四圖



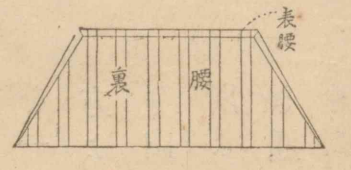
に三分程の幅に糊を引き、表腰切れの中央を腰板紙の中央に合せ、又表腰切れの折り目を腰板紙の下方より五厘上に合せて、第一圖の如く平に貼り、烙鏝をかけ、腰板紙裏の上方に二分程の幅に糊を引き、能く中央の標を引き合せ、第二圖の如く布目正しく之れを貼り、次に、第三圖の如く兩側を貼り附け、前の紙撚を取りて、糊を引き、腰板紙の下方五厘の所に据ゑ、よく其の位置を整へ、腰板紙裏の下方に糊を引き、表腰切れの折りを開きて、第四圖の如く、紙撚の上より之れを貼り附く。

裏腰の折り方

第一圖

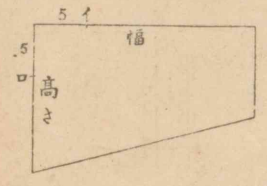


第二圖

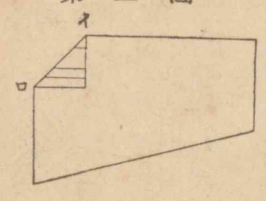


附菱の折り方

第一圖



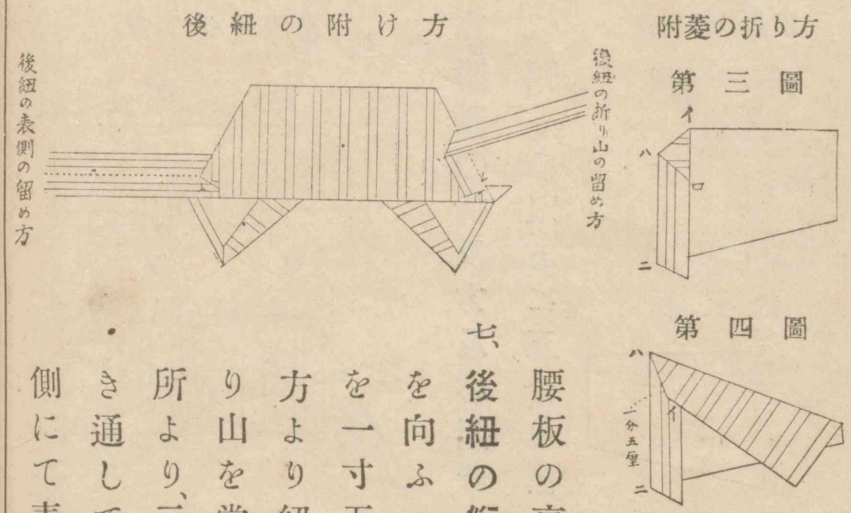
第二圖



六、附菱の折り方及び附け方　幅との双方に五分の標イ・ロを附け、第二圖の如く折り、第三圖の如くロの方を二分五厘の幅に折り、第四圖の如く、イの方をハの角より斜に折りて、イの角をハ・ニの折り目より一分五厘離し、次に、表腰に附

五、裏腰の折り方　上部の折り代を三分、下幅を表腰と同寸とし、高さ及び上幅と下幅との對角線を一分づゝ詰めて第一圖の如く折り、之れを第二圖の如く表腰に重ね、能く表裏の縞目を合せ置く。

先づ第一圖の如く、附菱の高さと



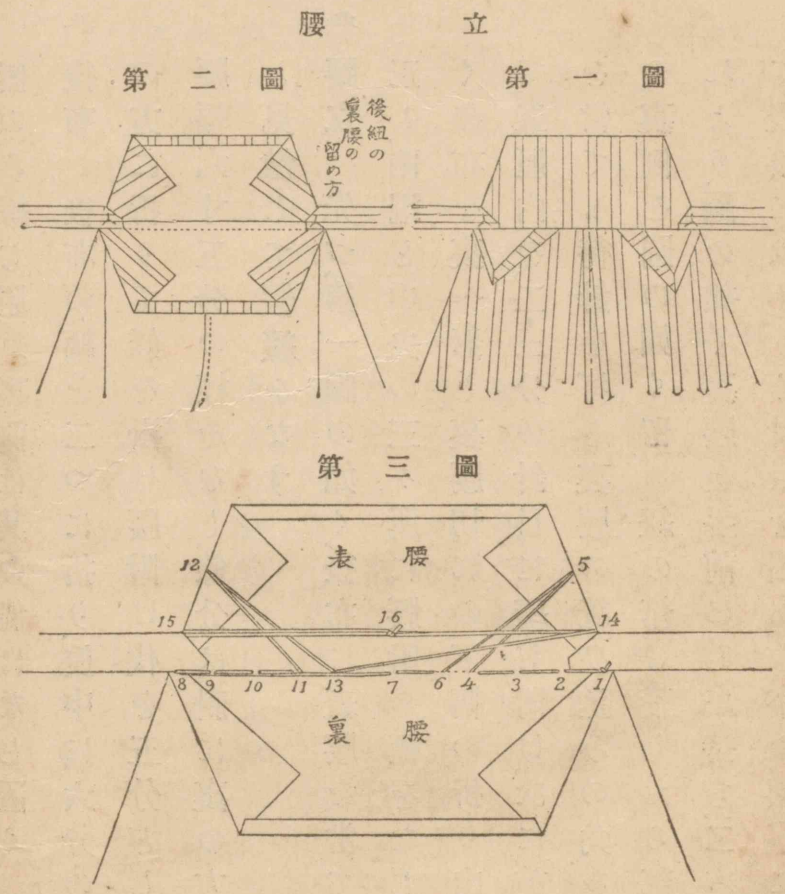
菱の寸法を標し、附菱を其の標に當てて、よく高さ及び幅を正し、後ち、之れに合せて他方の附菱を折り、表腰に當て、下方の裏に折り返る部分を腰板の裏に貼り附く。

七、**後紐の絎け方及び附け方**　一本の紐には、心を向ふへ、他の一本には手前にくるみて、終りを一寸五分程殘して、絎け置き、次に、腰板の下方より紐幅だけ上り、其の五厘下に、紐幅の折り山を當て、(心をくるめる方を表側とす)此の所より、二本の撚り合せ絲にて、腰板を一針拔き通して確と留め、下方へ折り返して、紐の表側にて表腰の縫ひ込みをくるみ、圖の如く表

側のみ綴ち附け、裏側は其の儘になし置く。

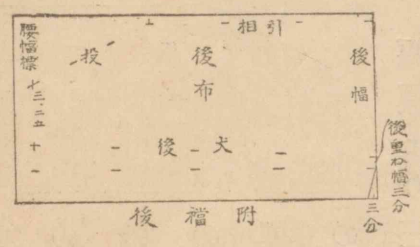
八、**後布**　後布の幅を二つに折り、眞中に六分の後襞を摘み、右脚の方に折りて躾を掛け、腰附け代を五分とし、襞を眞中にして、腰幅六寸五分の標をなし、餘分は斜に裏の方へ折り、之れを投(なげ)と見做して假綴をなす。

九、**腰立**　先づ、第一圖の如く、後布に表腰を當て、よく其の位置を正し、兩端と中央の三ヶ所に腰附の標をなし置き、第二圖の如く後布を裏へ返し、裏腰切れの下幅の折り山を腰附の標に當て、五厘内を、二・三分の針目に綴ち附け、次に、前の如く再び表腰を當てゝ待針を打ち、裏腰の縫ひ込みの角を紐の内に入れ、紐の裏側を圖の如く留め、紐の絎け殘したる部分を絎け附け、其れより、圖の如く裏腰を手前にして持ち、二本の撚り合せ絲にて、表腰には小さく針目を出し、數字の順序に絲を掛けて、腰立



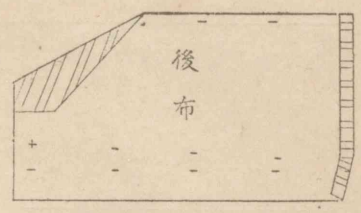
をなすなり。5と12との針は共に表腰の裏より表へ通し、附菱上角の裏を淺く抄ひて、表腰の裏へもどるなり。14と15との針は紐附際を、紐の裏側より腰板を通して紐

の表側へ出し、小針に紐裏に拔き通して、裏腰を縱に抄ひ、再び紐と腰板とを通し、附菱折り山の內裏を縱に抄ひ、斜に腰板を通して、內側へ拔き出すなり。又16の針は14より15に互れる絲に掛け、縫ひ込みの所を抄ひて留むるなり。終りに、裏腰の周圍に、二分程糊を引き、之れを表腰に貼り合すなり。



第五　本裁男袴標附け方

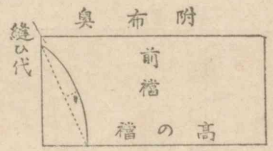
一、後布　二枚の後布を中表に重ね、裾を右に、相引を向ふにして、布を据ゑ、裾の方に、先づ、相引の縫ひ代を標し、次に、寸法通り後幅を標し、之れより後裾附まで、斜に切り上げの三分を裁ち落し、後幅標より腰附の方にかけ、相引の方へ七分寄せて、斜に、紐下に裾折り代の五分と切り上げの一



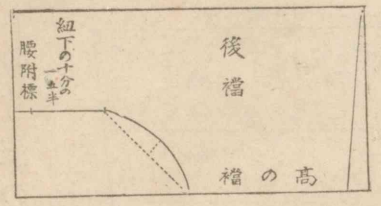
寸六分とを加へたる寸法を計りて、後丈を標し、又其の間の幅標を附け、後丈の標より布目を通して、腰幅の二分の一を計りて、腰幅標をなし、相引の寸法に裾の折り代を加へて、相引留の標をなし、此の標と腰幅標とにかけて、斜に投を標し、標通り裏の方へ折り、其の端を表布の縞目に沿ひて、正しく折り、鰭をかけ、後幅標より三分離して、裾に後重ね幅の標をなし、左脚の後布には、其の縞目を通して上まで折りを附け、右脚の後布は後幅標の通り折り、後ち、裾の折り代を標し、後襠附の方に、縫ひ代の標をなす。

二、襠の刳り方

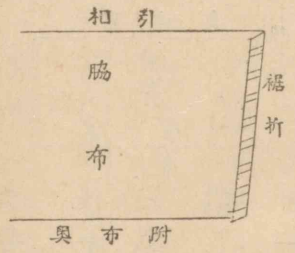
前襠　布幅を中表に二つに折り、裾を右に、輪の方を手前に置き、先づ、襠の出來上りの高さ(相引の寸法より切り上げと一寸とを減じたるもの)に五分を加へて、輪の方に、襠の高さを標し、次に、襠の上方に三分の奥布附縫ひ代を標し、兩標間の寸法を計り、中間に於て、其の十分の一より一・二分多く内に入り、圖の如く恰好をつけ、刳り落し、後ち、裾の折り代を標す。

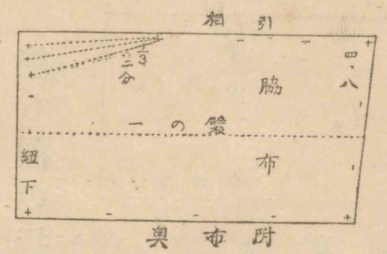


後襠　二枚の布を中表に重ね、裾を右にして、圖の如く据ゑ、後布の腰附標に從ひて、腰附の標をなし、前襠と同様に後襠の高さを標し、次に、乘間の寸法より前襠の幅を引きたる寸法を計りて、腰附の所に乘間を標し、紐下十分の一半まで、其の縞目を眞直に通じ、其の所より襠の高さの標までを斜に計り、中間にて其



の寸法の六分の一内に入り、圖の如く恰好をつけ、刳り落し、後ち、裾の折り代を標す。　但し、乘間の寸法は著用者の肥瘠により、多少の差異あるべければ、場合に應じて、適宜に斟酌を加ふべし。

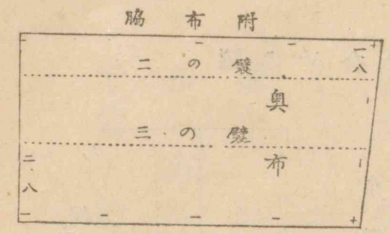




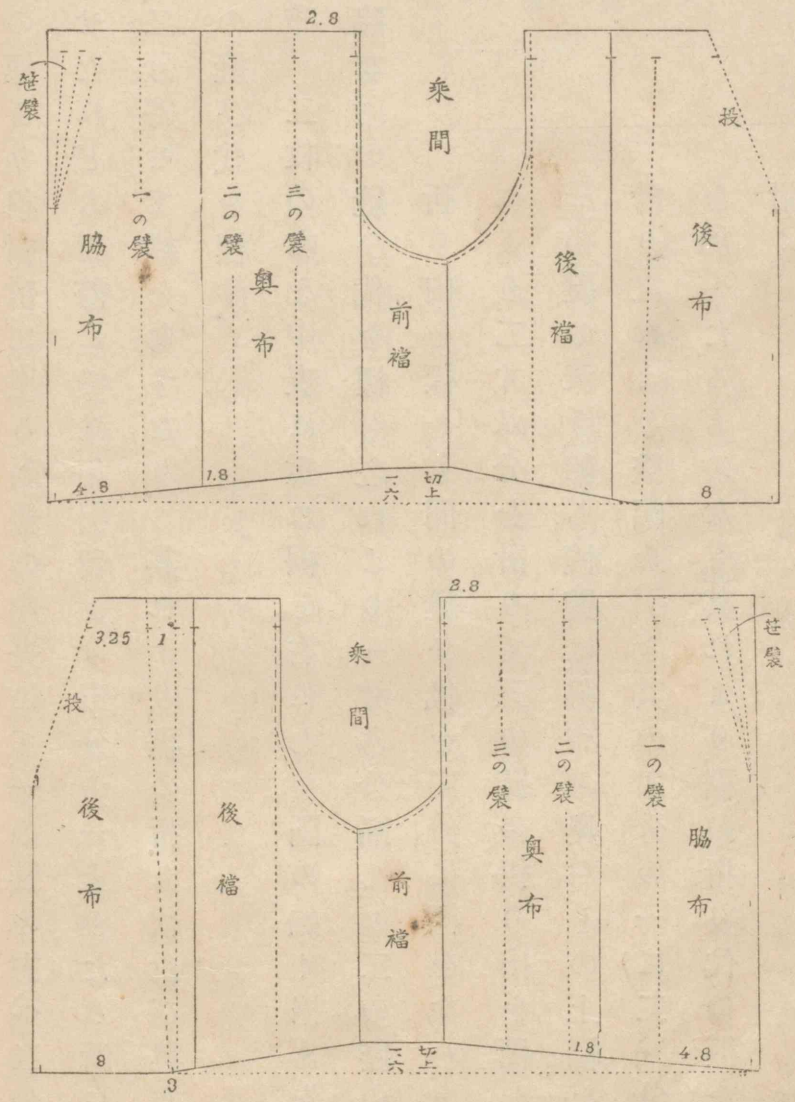
三、**脇布**　二枚の布を中表に重ね、相引を向ふにして、後布の如く据ゑ、先づ、後布と同様に相引留及び相引の縫ひ代を標し、次に、脇幅の標をなし、(之れを一の襞の折り山とす)更に相引の方にて、裾より上方に、後丈より三分を引きたる寸法を計りて、假に前紐附の高さを標し、其の布目を一の襞標まで通して紐下を定め、後ち、女袴のときの如く、笹襞の標を附く。　但し、女袴にては、前紐附

幅の標より相引留に至る斜線の中央にて、一の襞の方へ二分寄せたれども、男袴にては、相引留より三分の一上りたる所にて、二分寄せて標をなすなり。　其れより、裾の折り代及び奥布附の縫ひ代を標す。

四、**奥布**　二枚の布を中表に重ね、裾を右にして、圖の如く据ゑ、先づ脇布附の縫ひ代を標し、之れより一寸八分隔てゝ二の襞の折り山を標し、乘間の縫ひ代を四分に標をなし、之れより二寸八分を計りて、三の襞の折り山を標し、(三の襞の深さ、卽ち懷襞は、脇布と奥布との上幅を計り、之れより後幅を引き、其の四分の一に二・三分を加へたるものなり。)其れより、裾の折り代の標を附く。



本裁男袴縫ひ合せの圖



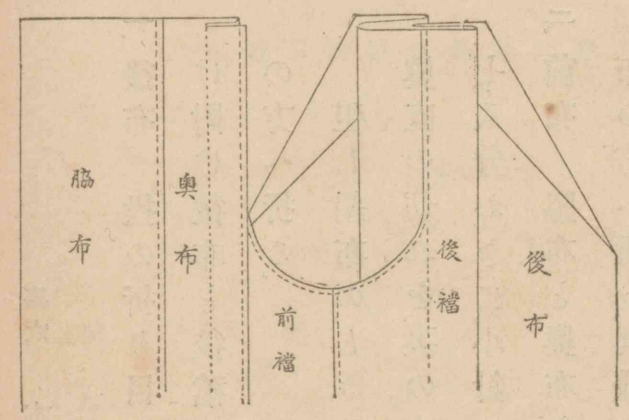
第六　本裁男袴縫ひ方順序

一、**後布**　投の折り目を、六・七分の針目に、表へは小針に出して紵け附け、後布と後襠とを裾より縫ひ合せ、(裾の紵け代を除く)襠の方へ折る。

但し、絹布のときには、投の折り目の伸びざる樣、五・六分幅の眞直の切れを、裏の方より折り目に當て、折り目より一分内を、七・八分おきに、小針に布の縦目を抄ひて、綴ぢ附くべし。

二、**前布**　脇布と奥布とを裾より縫ひ合せ、(裾の紵け代を除く)奥布の方へ折り、同樣に、奥布に前襠を縫ひ合せ、前襠の方へ折りて、伏せ縫をなし、次に、後襠と前襠とを縫ひ合せ、前襠の方へ折りて、伏せ縫をなす。

三、**裾紮**　裾を三つ折りになし、四分位の針目に紮け、相引の所を前後とも一寸程紮け殘し置く。但し、絹布のときは裾に六分幅位の紙を入れて、三つ折りになすべし。



四、**乘間**　兩脚の布を揃へ、二本の撚り合せ絲にて、乘間を袋縫になす。

五、**後襞**　後襠胯上の縫ひ目に從ひ、眞直に裾まで通して、右脚の後襠を折り、之れを後布の中心とし、次に、左脚の後幅標を此の中心に合せて、左脚の後布を重ね、後ち、右脚の後布を、標通り其の上に重ね、よく內襞を整へて、一束に躾をかく。

六、**前襞**　右脚を下に、左脚を上にして、三の襞標を合せ、三枚に躾をかけ、三の襞の深さ(懷)を右脚の方へ二つに折り、三の襞標を後布の中心に合せて、能く襞を整へ、其れより、女袴のときの如く、順次に二の襞・一の襞を寄せ、上中下の三所に飾綴をなす。

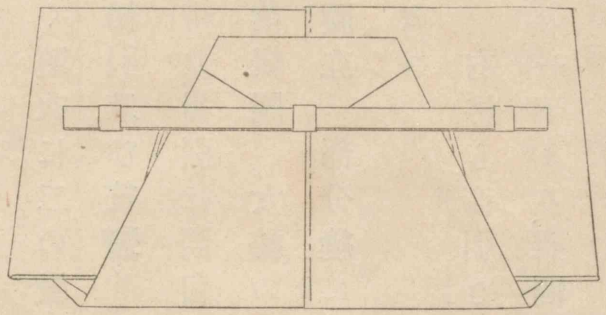
七、**相引及び笹襞**　女袴のときの如く、相引を縫ひ、裾紮の殘りを紮け、相引に門留をなし、笹襞を取る。

八、**前紐附**　女袴のときの如く、前紐を紮け、紐附をなす。

九、**腰立**　部分縫につきて說明したるが如く、腰板を拵へ、腰立をなす。

右終らば引き延べたる眞綿又は布片にて、胯上の凡そ三分の一下より、乘間の縫ひ込みをくるみ、縫ひ目の外に出ぬやう、まとひ附け置くべし。

男袴の畳み方



一〇、仕上げ　木綿物には薄く霧を吹き、皺を伸ばし、絹物には白布を被ひ、其の上より火熨斗をかけ、然る後ち、圖の如く、相引の中央より一寸程上にて、裾を上方に折り、其の上に上部を折り重ねて、三つに畳み、前後の紐を揃へて左右交互に折り重ね、左右の端及び中央の三ヶ所に紙封をなすなり。

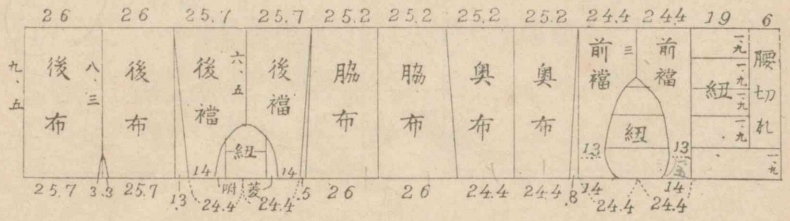
〔設問〕

(1) 男單袴の紐下を二尺二寸五分とせば、並幅にて、何程の總尺を要するか。

(2) 腰板の拵へ方及び腰立の順序を説明せよ。

後丈×10＋紐丈＋腰布＋裁ち違ひ＝總丈

法寸切り裁ち方並に裁ち方の男袴（十布遣ひ）並幅二丈七尺八寸にて



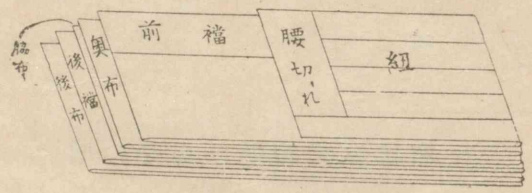
積り方

裁ち違ひ38分＋(前襠が18分×2)＝76分

｛用布の總尺－(紐＋腰切れ)＋裁ち違ひ｝÷10＝後丈

｛　278　－(19＋　6　)＋　7　｝÷10＝　26

用布の折り方



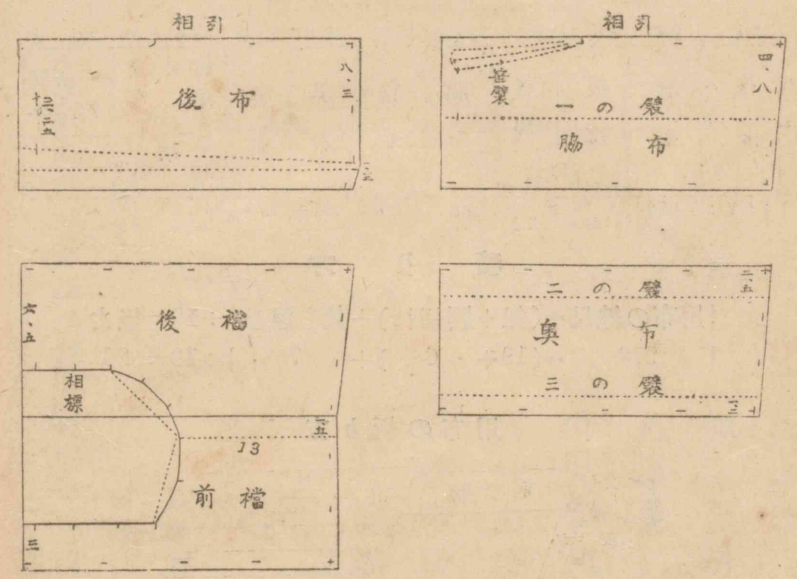
第七　十布遣ひ男袴

男袴の蹴廻しを、特に廣く仕立てんとするには、此の裁ち方を用ふ。

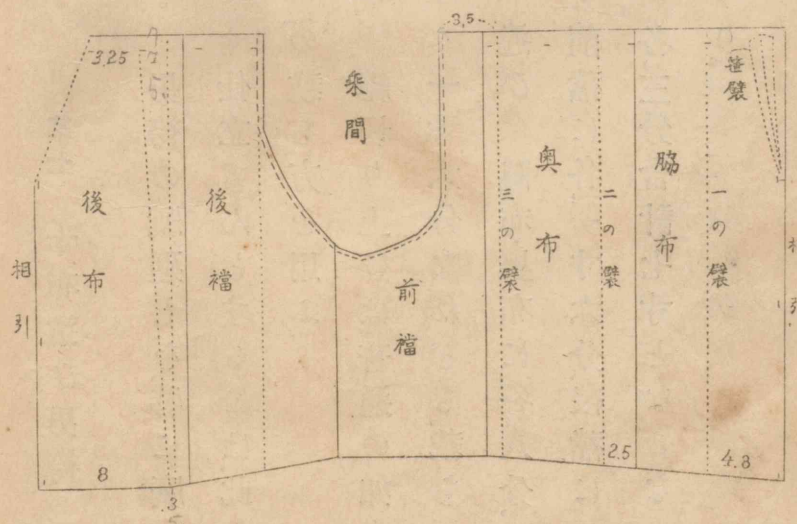
總切り上げは普通の如く一寸六分なれども、裁ち違ひは脇布・奥布に各〻八分、前襠に各〻一寸六分、後襠に各〻三分合計七寸となるなり。

第八　半十布遣ひ男袴

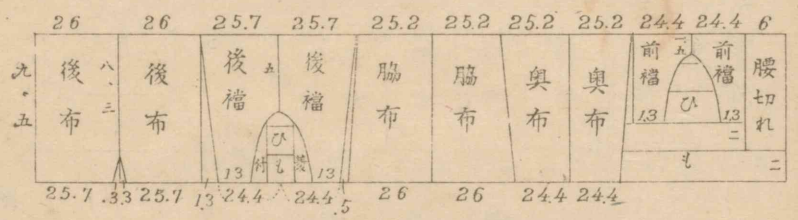
十布遣ひ男袴の標附け方



十布遣ひ男袴縫ひ合せの圖
（左　脚）



並幅二丈五尺九寸にて十布遣ひ男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



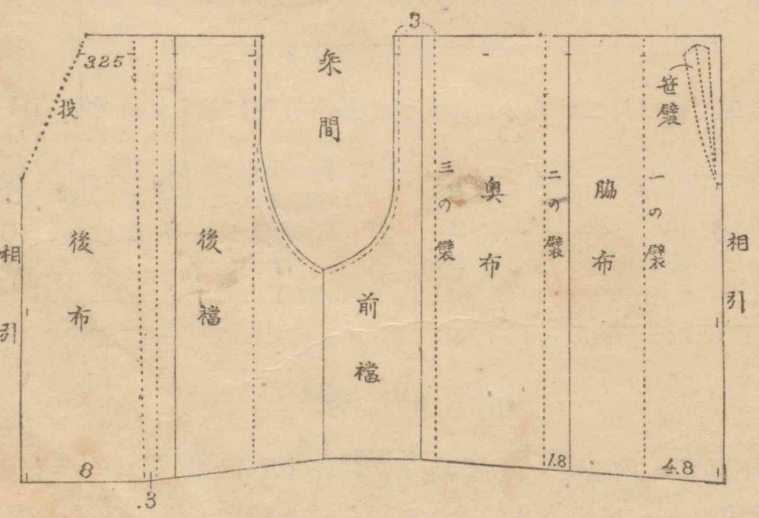
積り方

（用布の總尺－腰切れ＋裁ち違ひ）÷10＝後丈

（　259　－　6　＋　7　）÷10＝　26

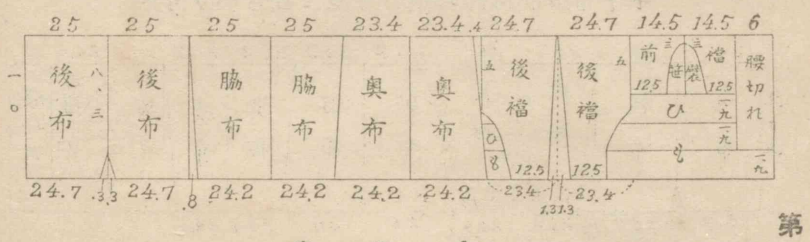
後×10＋腰布－裁ち違ひ＝總丈

半十布遣ひ男袴縫ひ合せの圖



第九　本裁男袴各種裁ち方積り方

博多（織獨鈷入）二丈三尺一寸六分にて男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法

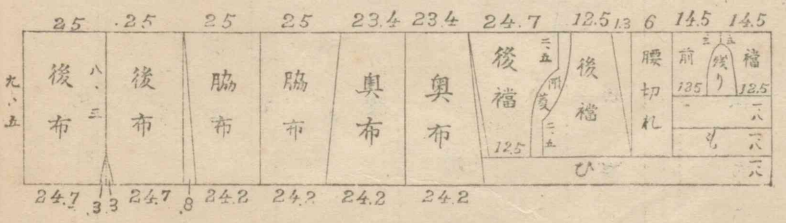


積り方

｛用布の總尺－（前襠丈×2＋腰切れ）＋裁ち違ひ｝÷8＝後丈
｛　231.6　－（14.5×2＋　6　）＋　3.4　｝÷8＝　25

〔注意〕袴地に獨鈷を織り出せるものは、其の部分を紐切れに取るなり。

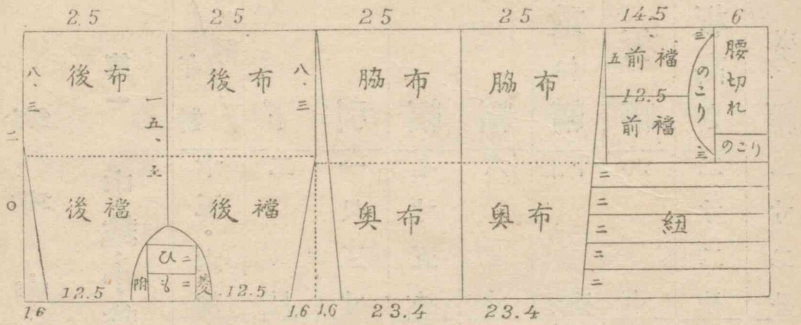
並幅二丈二尺二寸八分にて男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

｛用布の總尺－（前襠丈×2＋腰切れ＋後襠の高さ＋切れ）＋裁ち違ひ｝÷7＝後丈
｛　2228　－（14.5×2＋　6　＋12.5＋2.5＋1.3）＋　3.5　｝÷7＝　25

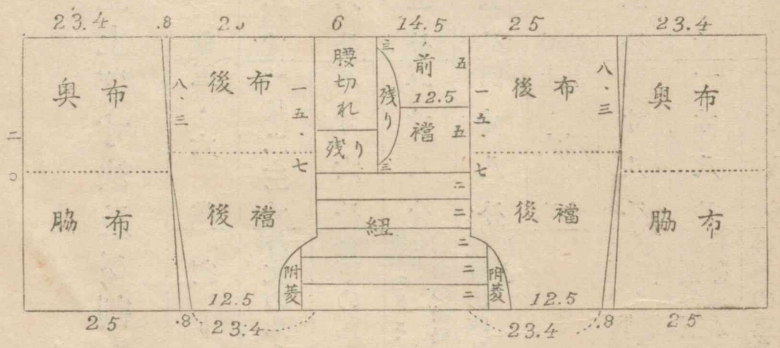
二尺幅一丈二尺五分にて男袴の裁ち切り寸法



積り方

｛用布の總尺－（前襠丈＋腰切れ）｝÷4＝後丈
｛　120.5　－（14.5＋　6　）｝÷4＝　25

二尺幅一丈一尺八寸九分にて男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

｛用布の總尺－（前襠丈＋腰切れ）＋裁ち違ひ｝÷4＝後丈
｛　118.9　－（14.5＋　6　）＋　1.6　｝÷4＝　25

第八章　中裁小裁男袴

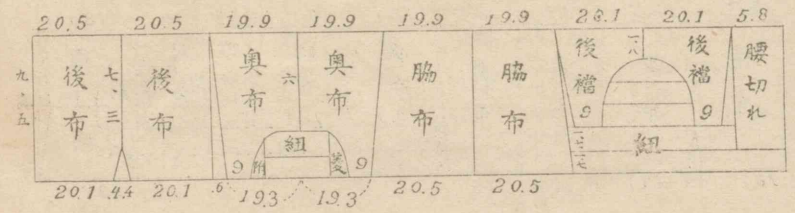
第一　中裁・小裁男袴普通仕立上げ寸法及び割り出し方

各部名稱＼年齡	十五・六歳	十二・三歳	八・九歳	五・六歳	割り出し方
紐下	二尺	一尺七・八寸	一尺五・六寸	一尺二・三寸	着丈の凡そ十分の六
相引	一尺三寸	一尺二寸	一尺六分	八寸六分	紐下の凡そ三分の二
後幅	七寸五分	七寸	六寸五分	五寸八分	紐下の凡そ三分の一に一寸許りを加ふ（着物の後幅と同寸）
腰幅	六寸	五寸八分	五寸五分	四寸八分	後幅の四分の三に五分を加ふ
後重ね幅	上下九分三分	上下八分三分	上下七分三分	上下六分三分	
腰板幅	六寸	五寸八分	五寸五分	四寸八分	上幅、腰幅の六分の四下幅、腰幅と同寸
腰板高さ	二寸二分	二寸一分	二寸	一寸八分	腰幅の三分の一に一・二分を加ふ
附菱幅	二寸二分	二寸一分	二寸	一寸八分	腰幅の三分の一に二分を加ふ
附菱高さ	一寸四分五厘	一寸三分五厘	一寸二分五厘	一寸一分五厘	腰板斜邊の二分の一に二分を加ふ
脇幅	四寸五分	四寸二分	三寸九分	三寸五分	後幅の五分の三
前紐附幅	七寸五分	七寸	六寸五分	五寸八分	後幅と同寸
前寄襞幅	上七分五厘下一寸五分	上七下一寸四分	上六分五厘下一寸三分	上五分五厘下一寸一分五厘	上幅、後幅の十分の一下幅、後幅の五分の一
笹襞幅	一寸一分	一寸五厘	九分八	八分	脇幅の四分の一
襠の高さ	一尺九寸	八寸	六寸	相引の高さより凡そ二寸を減ず	
乘間	八寸	七寸五分	六寸五分	六寸	紐下の十分の四に五分を加ふ
切り上げ	一寸四分	一寸二分	一寸八分		紐下の凡そ百分の七
三の襞深さ	二寸五分	二寸二分	二寸二分	前布の上幅より後幅を減じ其の四分の一に二三分を加ふ	
後紐	丈一尺七寸幅七・八分	丈一尺六寸幅七分	丈一尺五寸幅六分	丈一尺四寸幅五・六分	
前紐	丈八尺七寸幅七・八分	丈七尺五寸幅六・七分	丈六尺五寸幅五・六分	丈六尺幅五分	

第二　中裁・小裁男袴裁ち方・積り方

並幅一丈六尺六寸六分にて

十二・三歳用男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法

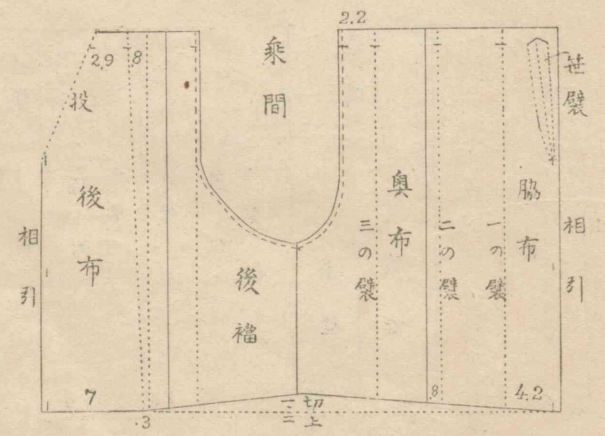


積り方

（用布の總尺－腰切れ＋裁ち違ひ）÷8＝後丈

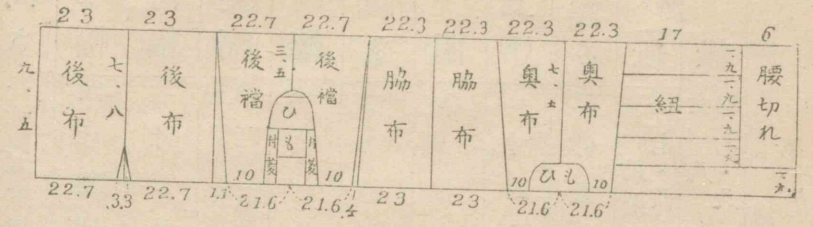
（　166.6　－　5.8　＋　3.2　）÷8＝20.5

縫ひ合せの圖



並幅二丈三寸六分にて

十五・六歳用男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法

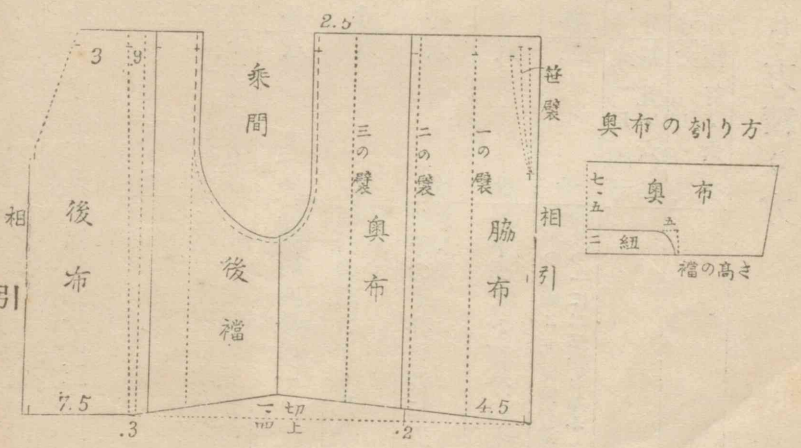


積り方

｛用布の總尺－（紐丈＋腰切れ）＋裁ち違ひ｝÷8＝後丈

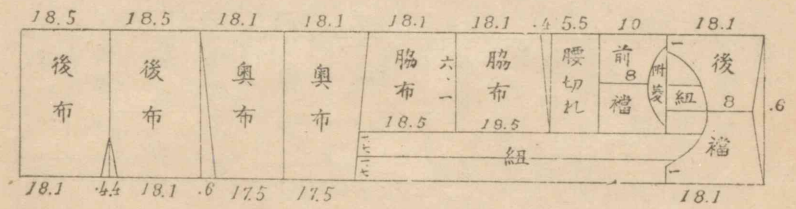
｛　203.6　－（　17　＋　6　）＋　3.4　｝÷8＝　23

縫ひ合せの圖



並幅一丈四尺三寸四分にて

八・九歳用男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法

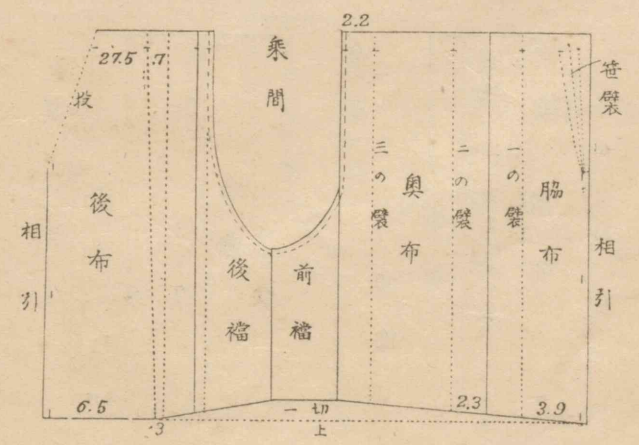


積り方

｛用布の總尺－（腰切れ＋前襠）＋裁ち違ひ｝÷7＝後丈

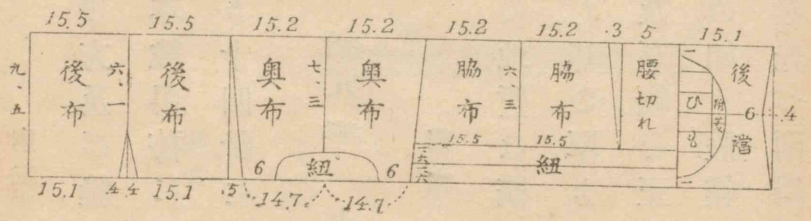
｛ 143.4 －（ 5.5 ＋ 10 ）＋ 16 ｝÷7＝18.5

縫ひ合せの圖



並幅一丈一尺二寸二分にて

五・六歳用男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法

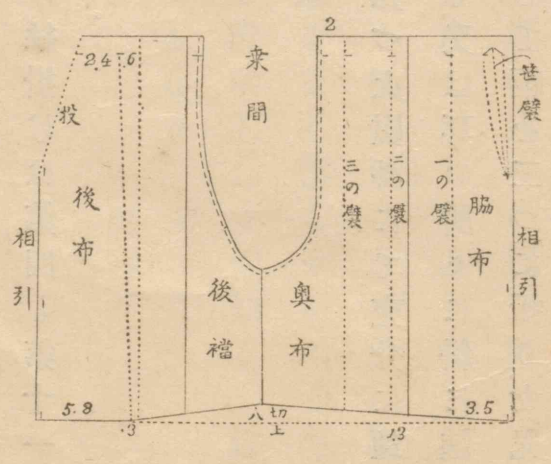


積り方

（用布の總尺－腰切れ＋裁ち違ひ）÷7＝後丈

（ 112.2 － 5 ＋ 1.3 ）÷7＝15.5

縫ひ合せの圖



第三　中裁・小裁男袴標附け方・縫ひ方順序

標附け方及び縫ひ方順序は唯其の寸法に差異あるのみにて、總べて本裁男袴に同じ。但し、腰立の絲掛けは第四と第十一の針を省き、十四針にて絲を留むるなり。

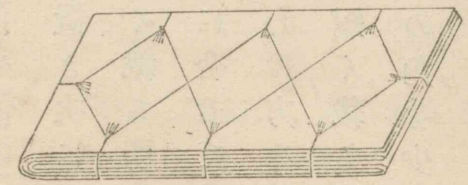
第九章　丸帶及び男帶

第一　丸帶

丸帶の地質は概して厚地なれば、先づ火熨斗にて充分に地伸しをなし、耳の厚き品は耳を裁ち落し、又は耳の所々に斜に鋏を入れ、丈及び幅を正し、次に、表を中にして幅を二つに折り、女兒帶のときの如く假躾をかけ、丈を標し、上り幅より五厘廣くして幅標をなし、先づ兩端を縫ひ、角の所は腹合せ帶のときの如く縫ひ

て、折りを附け、次に、上り幅と同寸に心地を裁ち切り、其の片側に眞綿を引き、之れを帶側の上に載せ、心の方を稍〻弛めにして、縫ひ込みに綴ぢ附け、又其の上に眞綿を引き、縫ひ殘したる所より引き返して、表を出し、よく角を整へ、縫ひ殘しを小針に絎け、躾をかけ、八つに疊み、綴をなし、壓しをかくる等總べて腹合せ帶につきて說明したるが如し。終りて、圖の如く飾絲をかくるなり。

丸帶飾絲の掛け方



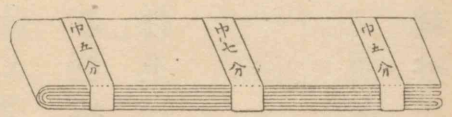
第二　男帶

男帶を仕立つるには、丸帶のときの如く、先づ充分に地伸しをなすべし。

男帶の仕立方には紵け仕立と縫ひ仕立との二樣あり。

一、**紵け仕立**　帶側の表を中にして、幅を正しく二つに折り、所々に針を打ち、幅及び丈の標をなし、双方の紵け代を折り、先づ、兩端及び丈の角より一寸許りを半返しに縫ひ、(角の縫ひ方は腹合せ帶のときに同じ。)一端の縫ひ込みを五厘の被せに折り置き、次に、心地を帶幅より五厘狹く裁ち、其の一端を布目正しく裁ち切り、其の端を、帶側縫ひ込みの折り山の內方に、一ばいに合せて、縫ひ込みに綴ぢ附け、其れより、帶側の上に心を据ゑ、心の方を稍〻弛めにして、待針を打ち、心の他端を帶丈より五厘短く裁ち切り、前の如く、之れを帶側の縫ひ込みに綴ぢ附け、心の角を少しく三角形に裁ち落し、引き返して表を出し、能く兩端の角を整へ、一方の紵け代にて心をくるみ、双方の紵け代の

圖の上り出來帶男

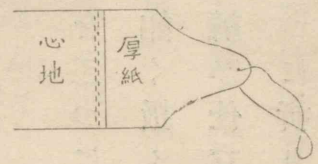


折り山を合せて、假躾をかけ、心をくるめる方を向ふにし、極めて細かく紵け上げ、終りて、假躾を除き、火熨斗をかけて、仕上げをなし、後ち、八つ折り又は十折りに疊み、西の內紙にて兩端を五分、中を七分の幅に、三ケ所を封じ、壓しをおくなり。

二枚心を作るには、一枚心の二倍幅より紵け代を引き、其の幅に心地を裁ち、紵け代だけずらして、之れを二つに折り、輪の方を帶側の輪の方に當て、一枚心のときの如く扱ふなり。

二、**縫ひ仕立**　紵け仕立のときの如く、表を中にし、正しく幅を二つに折りて、假躾をかけ、先づ、帶幅より五厘廣く幅標をなし、次に、丈を標し、丈標より四寸許り兩端を殘して、幅を標通り一針

抜きに縫ひ、(又はミシンにて縫ふ。)假躾を除きて、烙鏝を掛け、折りを附けて表に返し、其れより、帶幅と同寸に心地を裁ち切り、厚紙を圖の如く裁ちて、之れを心地に綴ち附け、厚紙に紐を通して、心地を帶の内に引き込み、帶側の縫ひ込みに之れを含ませ、絎け仕立のときの如く、兩端及び角より一寸許り、裏を出して縫ひ、縫ひ込みを折りて、心地を之れに綴ち附け、引き返して、縫ひ殘しを絎け上げ、前と同じく仕上げをなすなり。



第九章　本裁女小袖

第一　本裁女小袖裁ち方・積り方及び標附け方

總べて本裁女綿入と同様なり。

但し、裏布の標を附くるには、表裏地質の硬軟に應じて、寸法を加減し、仕立上げて後ち、表裏の一致する様注意すべし。

第二　本裁女小袖縫ひ方

綿布のときの如く、表裏の袖を縫ひ、袖幅の標をなし、縫ひ目を折り、引き返して躾をかけ、表裏袖下の縫ひ目及び袖幅の標を合せ、始め終りを袖附標より一分づゝ控へて、振りを一針抜きに縫ひ(袖下縫ひ目の前後一寸程は、裏袖の方を稍張り加減になす。)平烙鏝をかけ、裏布の方へ眞綿を當てゝ、縫ひ目に綴ち附け、引き返して表を出し、被せを定めて、表裏一束に躾を掛く。

綿布のときの如く、表裏の脊・脇・衽・衿を縫ひ、裾を縫ひ合せ、次に本裁女袷のときの如く、身八つ口の表裏を留めて、振りと同様に

縫ひ合せ、眞綿を綴ぢ附け、躾をかけ、袖附をなす。袖附の留め方・縫ひ方は總べて本裁女袷のときに同じ。其れより、裏を出し、表裏の後身頃の間に、前身頃を入れて疊み置く。

一、綿入れ方　袍綿の作り方は本裁女綿入のときに述べたるが如し。

小袖の綿には眞綿を用ひ、其の量目は約そ二十匁内外を普通とす。

先づ、表布の後身を上にして、身頃に綿を引き、袍綿を包みて、前身の方へ綿を折り込み、肩より手を差し入れ、裾口の兩脇と袍綿とを持ちて引き返し、裏布の前身を上にし、袖及び前身頃に綿を引き、表を被ぶせ、常の如く引き合せをなすなり。

二、絎け方　總べて綿布のときと同様なり。

三、袖口を縫ふ仕立方　先づ、本裁女袷の如く、表裏の口明標を合せ、標より袖口袍の二倍程、兩端を殘して、口明を縫ひ、平烙鏝をかけ、裏袖の方に眞綿を當てゝ、縫ひ目に綴ぢ附け、引き返し、被せ及び袖口袍を定め、表裏一束に躾をかけ、袖口留めをなす。

袖口留めの仕方は最初外袖の袍山に裏より針を出し、表外袖の被せ山・表内袖の被せ山・内袖の袍山を順次に抄ひ、元に戻りて、外袖の袍山の裏に針を出し、絲を結び合すなり。其れより、常の如く、袖口下及び袖下を表裏別々に縫ひ、幅標をなし、縫ひ目を折り、引き返して躾をかけ、振りを縫ひ、後ち、袖口袍の綴をなすなり。

第十一章　本裁女小袖重ね

女小袖重ねには二枚重ね、三枚重ねの別あり。

縞物類には裾廻し・袖口に別布を使用すれども、紋附類には多く共布を用ふ。之れを無垢と稱す。

下着の表は胴抜きとなすことあり。

第一　本裁女小袖重ね下着寸法の詰め方

袖丈……二三分詰　袖口……一分詰　袖附……（一・二分詰／男物は三分詰）

袖幅……一分詰　身丈……一分詰　衿肩明……一分詰

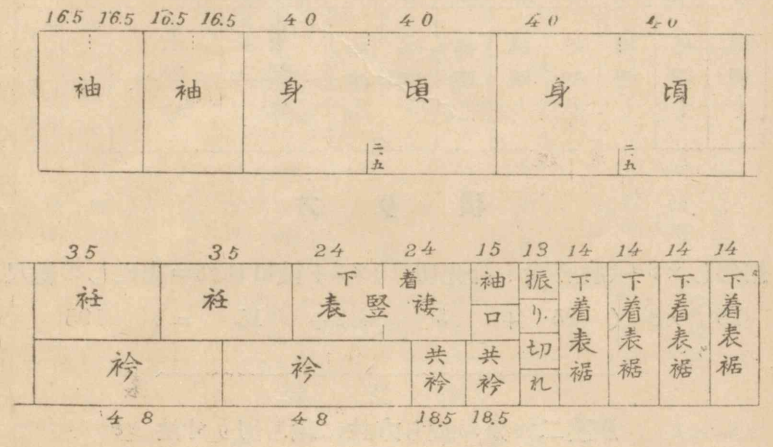
後幅……一分詰　前幅……二分詰　衿下……同寸

衿丈……二分詰　衩……同寸

〔注意〕三枚重ねのときは、中著を普通寸法とし、右の割合に準し、上着と下着との寸法を増減すべし。

第二　本裁無垢の裁ち方・積り方

上着の表と下着表廻りの裁ち方並に裁ち切り寸法

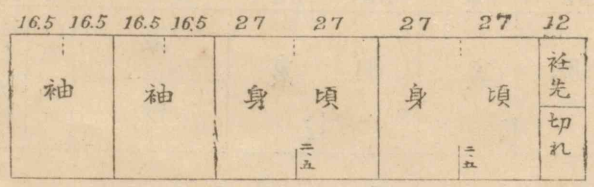


積り方

〔用布の総尺 − {(袖丈＋身丈)×4＋(衽＋下着表裾竪褄)×2＋袖口切れ＋振り切れ}〕÷4＝下着表裾

〔428 − {(16.5＋40)×4＋(35＋24)×2＋15＋13}〕÷4＝14

下着表胴の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(袖丈＋身丈 − 下着表裾)×4＋衽 − 下着表裾竪褄＋縫ひ代×5＝表胴の總尺

(16.5＋40 − 14)×4＋35 − 24 ＋ 1 ×5＝ 186

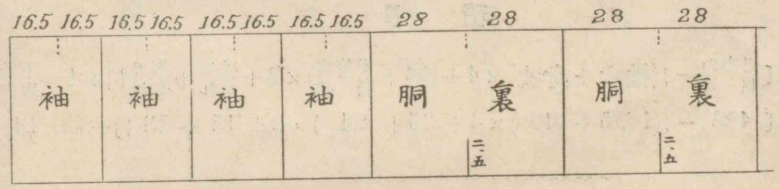
裾廻し二枚分の裁ち方並に裁ち切り寸法

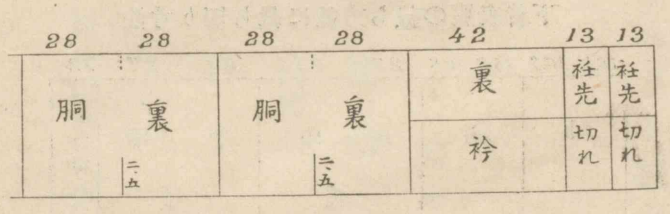
積り方

裾廻し×8＋(裏竪褄＋衿先切れ)×2＋袖口切れ＝裾廻しの總尺

15 ×8＋(25 ＋ 5)×2＋ 15 ＝ 195

胴裏二枚分の裁ち方並に裁ち切り寸法



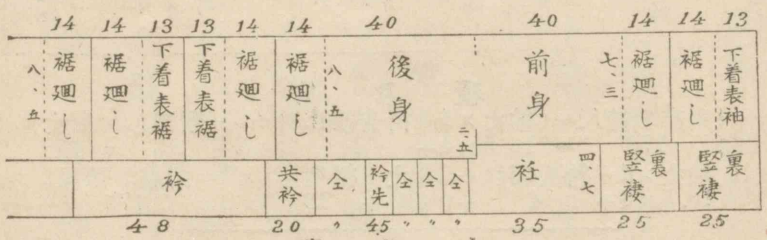


積り方

(袖丈＋身丈－裾廻)×8＋衿丈－衿先切れ×2＋(袵－裏竪褄)×2＋袍×20＋縫代×12＝胴裏總尺

(16.5＋40－15)×8＋48－ 5 ×2＋(35－ 25)×2＋ 5 ×20＋ 2 ×12＝424

一尺二寸幅四丈二尺六寸にて上着無垢一枚と下着廻り無垢の裁ち方並に裁ち切り寸法

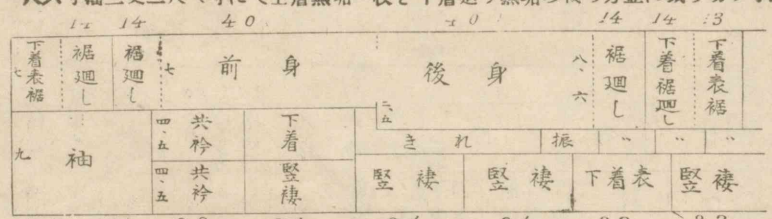


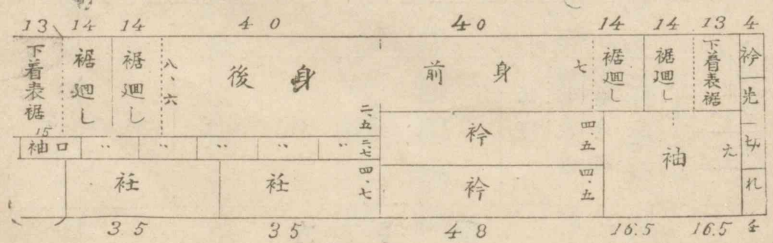
積り方

〔用布の總尺－｛(袖丈＋下着表裾)×4＋裾廻し×8＋下着表竪褄＋振り切り｝〕÷4＝身丈

〔 426 －｛(16.5＋ 1.5)×4＋ 14 ×8＋ 24 ＋ 12 ｝〕÷4＝ 40

一尺六寸幅三丈二尺八寸にて上着無垢一枚と下着廻り無垢の裁ち方並に裁ち切り寸法



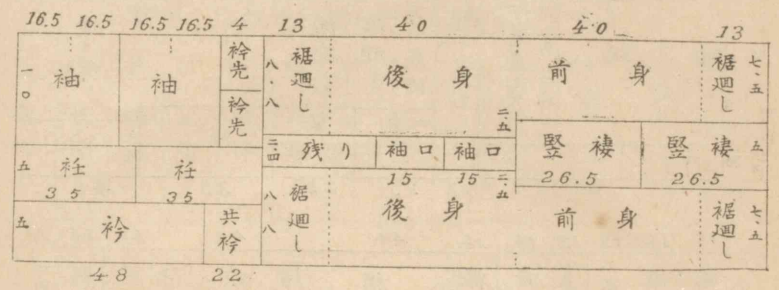


積り方

〔用布の總尺－｛(下着表裾＋裾廻し×2)×4＋衿先切れ｝〕÷4＝身丈

〔 328 －｛(13 ＋ 14 ×2)×4＋ 4 ｝〕÷4＝ 40

二尺幅一丈七尺六寸にて無垢一枚の裁ち方並に裁ち切り寸法

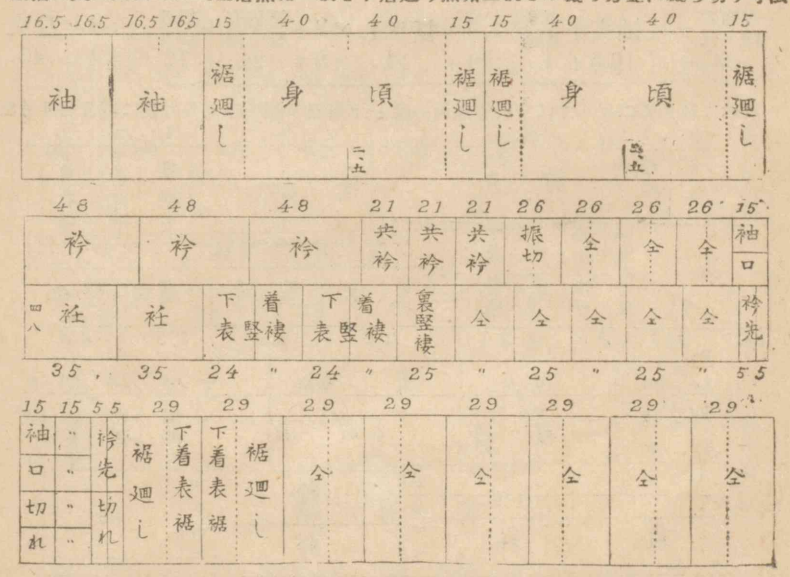


積り方

{用布の總尺－(袖丈×4＋衿先切れ)}÷2－裾廻し＝身丈
{　176　－(16.5×4＋　4　)}÷2－　13　＝ 40

袖丈×4＋衿先切れ＋(身丈＋裾廻し)×2＝用布の總尺
16.5×4＋　4　＋(　40　＋　13　)×2＝　176

並幅八丈八尺四寸にて上着無垢一枚と下着廻り無垢二枚との裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(袖丈＋身丈＋振り切れ)×4＋下着表裾×8＋裾廻×12＋(衿丈＋共衿＋袖口切れ)×3＋衿先切れ×2＝用布總尺
(16.5＋40＋26)×4＋ 14 ×8＋15×12＋(48＋21＋ 15)×3＋ 5 ×2＝834

第三　本裁女小袖重ね標附け方

女小袖重ねの標附け方は一枚の小袖のときと別段に異なりたる所なし。上着の標を附け終らば直に下着の標をなすをよしとす。

下着の衽には、常の如く丈・衿下・衿下の紡け代・衽幅・相褄幅を標し、其れより、先づ、上着衿附の寸法より一分詰めて、衿附の標をなし、後ち、常の如く衽附の標をなすべし。

若し、裾廻しの表布と引き續きなるときは、裾口を摘み縫ひになすものとして、標をなすべし。

下着寸法の詰め方は、前に掲けたれども、上着と下着の地質に、硬軟の差違あるときは、宛も小袖の裏布の如く、多少其の寸法を

酌酌するを要す。されば、先づ、用布を平に置きて、其の寸法を計り、次に、之れを垂下して、再び寸法を撿し、其の差を標準として、各部の寸法を增減すべし。

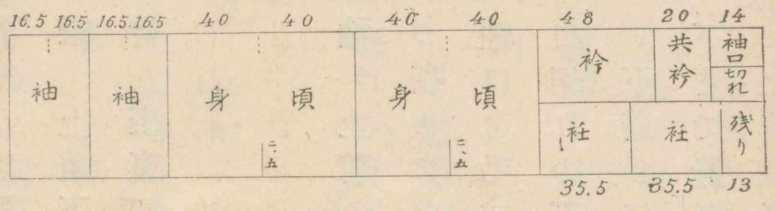
模様物は豫め其の模様を合せ、縫ひ標をなしおき、標附けの際多少寸法を加減し、模様を損せざる様注意すべし。

第四　本裁女小袖重ね縫ひ方順序

總べて女小袖のときに同じ。但し、模様物は衽附を先にし、脇縫を後にすることあり。

第十二章　本裁單衣重ね

法寸り切ち裁に並方ち裁の着上ね重衣單てにす八丈三幅並



積り方

身丈＝4÷{(袖丈×4＋衿丈＋共衿＋袖口切れ)－尺總の布用}

袖丈＝4÷{(身丈×4＋衿丈＋共衿＋袖口切れ)－尺總の布用}

第一　本裁單衣重ね裁ち方・積り方

〔注意〕下着の裁ち方・積り方は總べて上着と同様なり。但し、裏衿二枚は別布を用ふるを通常とす。

又袖口切れに別布を用るときは、上着の裁ち方は普通の棒衽裁ち方に依るべし。

第二　本裁單衣重ね標附け方

一、袖　上着下着共に常の如く据ゑ、寸法通りに標し、袖口切れには單羽織と同様に標をなすなり。下着袖の詰め方は女袷の裏袖に同じ。

二、身頃　上着は普通の單衣と同様に標し、

下着の身幅は前後共裾口にて少しく詰むべし。

三、**衽**　上着下着の四枚を重ねて、常の如く標をなす。

四、**衿**　表裏四枚を別々に折り、之れを重ねて、常の如く標を附く。

第三　本裁單衣重ね縫ひ方順序

一、**袖**　上着の袖に袖口切れを合せ、袖口明だけ縫ひ、袖口標を四つ留めになし、口下を袖口切れの一寸程下まで縫ひ置き、次に、袖口を毛抜き合せにして、躾をかけ、口切れの奥を耳紵になし、口切れの下方を其の儘になし置く。

下着の口切れの下方を伏せ縫になし、上着と同じく一寸程下まで縫ひ、口切れの奥を紵け附く。

上着の裏に下着の表を合せ、口切れ下より袖下まで、女衿の如く縫ひ、幅標をなし、折りを附け、引き返して躾をかく。

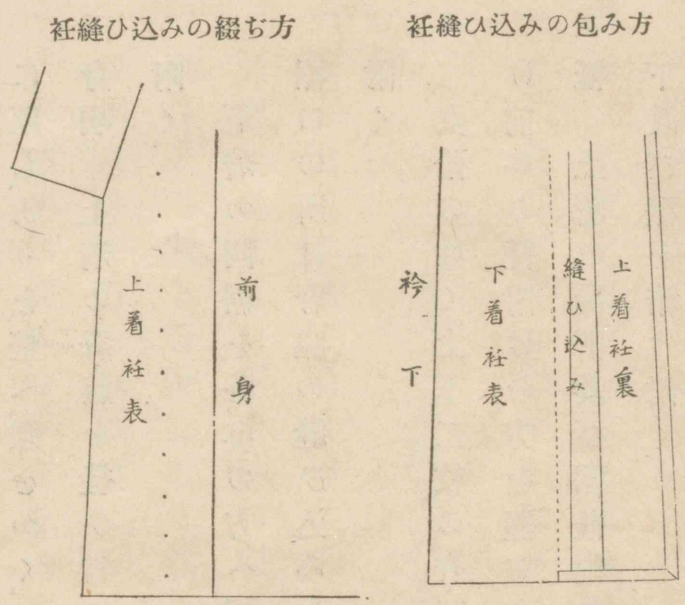
振りを布幅一ばいに縫ひ、袖下にて、縫ひ込みを一針留め、表に返し、折りを整へ、躾をかく。

二、**身頃**　上着の脊・脇を縫ひ、常の如く折りを附け、次に、裾を紵け附く。

下着の四裾を各、裏の方へ折りて紵け、表を見て脊・脇を縫ひ、裾口の所は脊・脇の縫ひ込みを三角に折り込みて、之れを紵け附く。

女衿の如く上下二枚の脊・脇を綴ち、身八つ口を縫ひ、袖を附け、前身の衽附けの方を綴ち合せ、前幅の標をなす。

三、**衽**　上着の衿下及び裾(衽幅の中程まで)を紵け、次に、下着の衿下及び裾を紵け附く。



衽の附け方は女衿の如く四つ縫ひになし、其れより、圖の如く、上着衽の裾にて前身と衽との縫ひ込みを包みて、裾の殘りを紵け、次に、前身の縫ひ込みに沿ひ、裾口一寸五分程上より相褄の邊まで、一寸五分許の針目にて、上下の衽を小針に抄ひて綴ち附く。

四、衿　下着の表衿に心を入れ、衿の方に、上着の裏衿を重ねて、三枚を綴ち合す。表裏の衿を合せ、衿先を縫ひ、折りを附けて表に返し、下着の表

上着の表衿を、標の通り上着の方に當て、待針を打ち、次に下着の裏衿を下着の方に當て、身頃を挾み、上着の標に倣ひて針を打ち、一針抜きに縫ひ附く。衿先の縫ひ方其の他の扱ひは常の如し。

衿幅は下着の方を寸法通りとし、上着の方を三つ衿の所にて一分詰め、衿紵をなすなり。

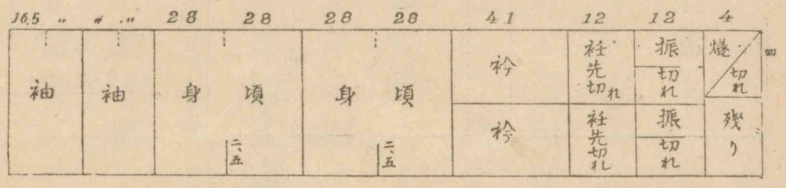
〔附言〕半重ねとは袖・衿を本重ねと同じくし、下着の身頃及び衽を上着身丈の二分の一より二・三寸上まで重ねたるを云ふなり。其の積り方は重ねを略せる部分の用布を省くのみにて、本重ねと同樣なり。

縫ひ方も亦本重ねに同じ。下着の身頃及び衽の上端は之れを折りて、上着に紵け附くるなり。

〔設問〕

(1) 本裁單衣重ねの袖の縫ひ方順序を述べよ。

並幅にて比翼裏の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

表身丈－裾廻し＋袵×2＋縫ひ代＝胴裏
40　－　14　＋5×2＋　1　＝28

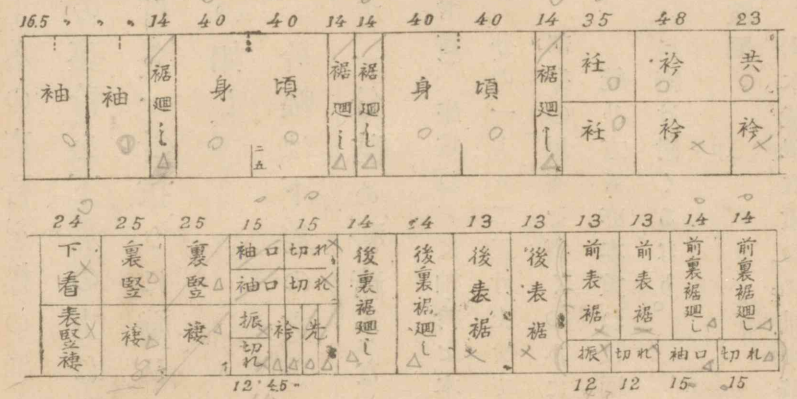
表衿－衿先切れ×2＋縫ひ代＝裏衿
48　－　4.5　×2＋　2　＝41

表衽－竪褄＋袵×2＋縫ひ代＝衽先切れ
35　－　25　＋.5×2＋　1　＝　12

袖丈×4＋胴裏×4＋衿＋衽先切れ＋振切れ＋燧切れ＝裏用布の總尺
16.5×4＋28×4＋41＋　12　＋　12　＋　4　＝　247

第二　本裁比翼標附け方

並幅六丈物にて本裁比翼の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺－(袖丈×4＋身丈×4＋衽＋衿＋共衿＋下着表竪褄＋
600　－(16.5×4＋40×4＋35＋48＋23＋24＋
裏竪褄×2＋袖口切れ×2＋袵×2×8)}÷12＝表裾
25　×2＋15　×2＋5×2×8)}÷12＝13

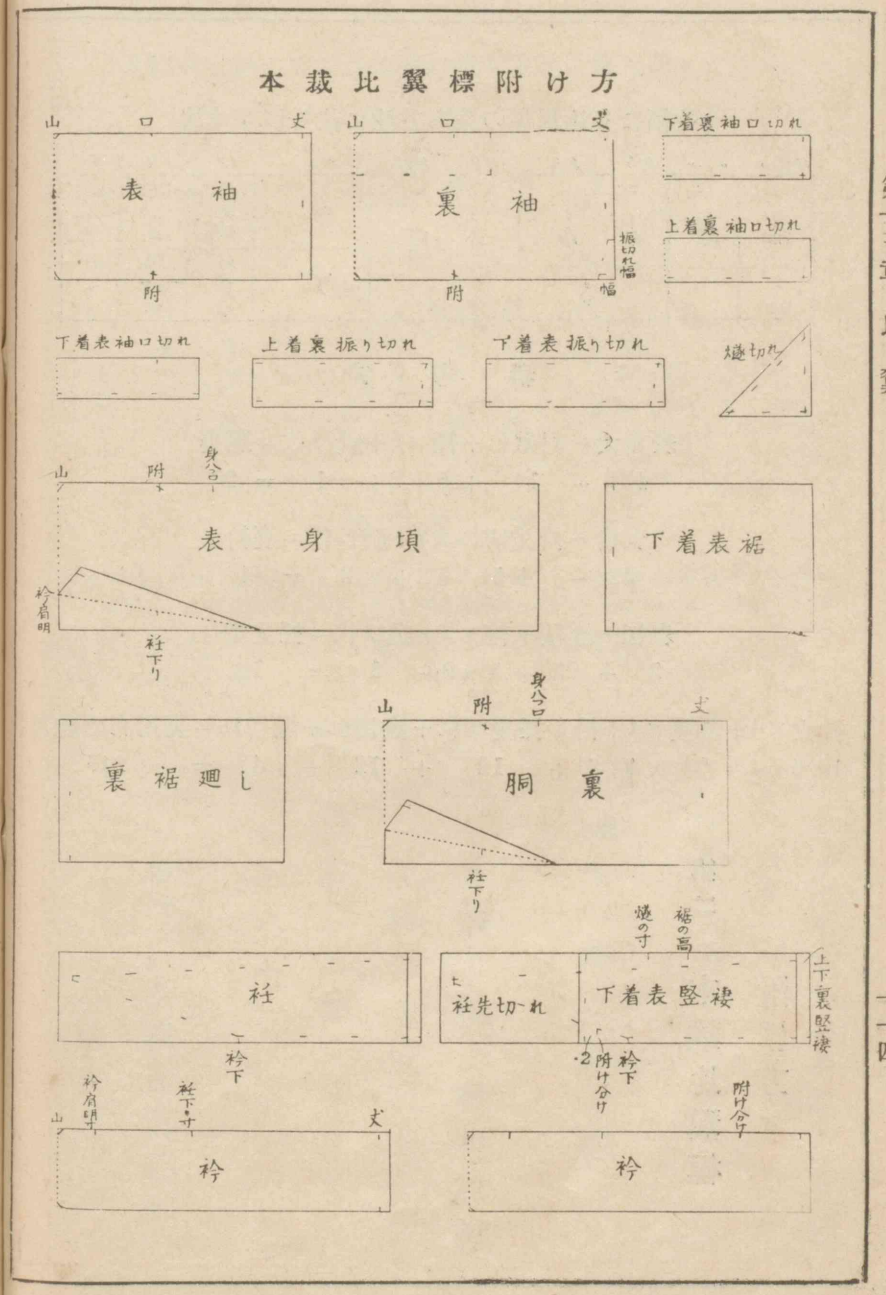
表裾＋袵×2＝裾廻し
13　＋.5×2＝14

(2) 單衣半重ねの身丈を四尺、袖丈を一尺七寸上りとせば、下着の用布は何程を要するか。

第十三章　比翼

比翼とは、一枚の小袖にて、總べての廻りを、二枚重ねの如く、仕立てたるをいふ。

第一　本裁比翼裁ち方・積り方



一、**袖**　表袖二枚を中表に重ね、丈を二つに折り、常の如く山・丈・口・附を標す。

次に裏袖二枚を同様に折り、常の如く山・丈・口・附及び袖口切れ附の標をなす。但し、袖口明は表袖より一分詰め、丈は振りの方にて三分詰め、振り切れの附く所より斜に標をなす。

二、**袖口切れ**　下着の裏袖口切れを二枚中表に重ね、丈を二つに折り、常の如く山・丈・幅を標し、上着の裏袖口切れ二枚を同様に折りて、山・丈・幅の標をなし、下着の表袖口切れを亦同様に折りて、山・丈・口の標を附け、裏袖口切れの幅より、袵の二倍だけ狭くして幅の標をなす。

三、**振り切れ**　上着の裏振り切れを、二枚づつ中表にして、四枚を重ね、幅を標し、丈を振りの方にて一分詰めて、斜に標を附け、下

着の表振り切れ四枚も、上着の裏振り切れと同様に重ね、幅を標し、丈を振りの方にて二分詰めて斜に標をなす。

四、**表身頃**　常の如く折りて、山・丈・附・身八つ口・脊・衽下り等の標をなす。

五、**燧切れ**　表裏の燧切れ四枚を中表に重ね、圖の如く標をなす。

六、**裾廻し及び下着の表裾**　下着の表裾四枚を中表に重ねて、丈を標し、上下の裾廻し八枚を中表に重ね、下着表裾より袍の二倍だけ長くして、丈の標をなす。

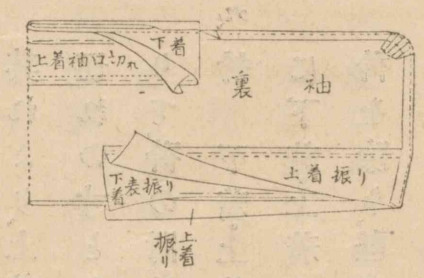
七、**胴裏**　常の如く、折りて、山・丈・袖附・身八つ口・脊・衽下り等の標をなす。

八、**衽**　表衽・上着の裏竪褄・下着の表裏竪褄を各二枚つゝ中表に合せ、下着の裏竪褄と衽先切れとを常の如くに据ゑ、其の上に上着の裏竪褄を又其の上に袍の二倍だけ引きて下着の表竪褄と上着の表衽とを載せ、常の如く丈・幅・衿下・衿附の標をなし、其れより、上着の表衽二枚を除き、附の方に裾廻しの高さと燧切れの寸とを標し、又衽先の接ぎ標を附け、此の標より二分下りて、衿の附け分けの標を附く。

九、**衿**　下着・上着の裏衿及び衿先切れを、常の如くに据ゑ、其の上に下着・上着の表衿を載せ、山・衿肩明・衽下り・丈を標し、上着の表衿を除き、衽の衿下標より衿の附け分けの標までの寸法を計り、此の寸法を、衿丈標より上に移して、衿の附け分け標を附く。

第三　本裁比翼縫ひ方順序

一、**袖**　表袖を常の如く縫ひ、幅標をなし、躾をかけ、次に、裏袖に常



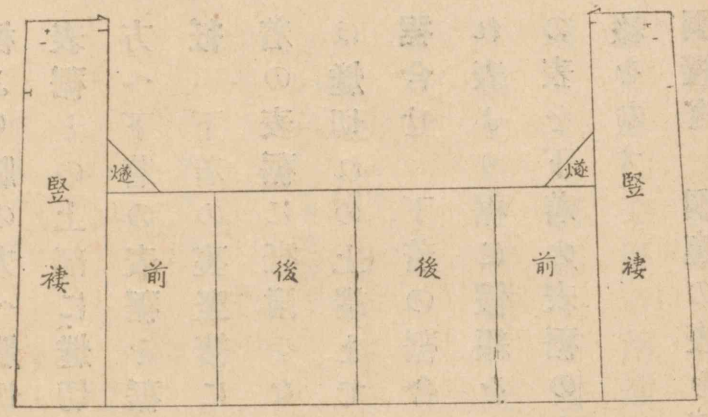
一の如く袖口切れを附け、袖口下及び袖下を縫ひ、幅標をなし、折りを附け、其れより、袖口に綿を含め置く。

下着の表袖口切れと上着の袖口切れとの奥を合せ、上着の袖口切れを、山の所にて一分程摘み、標通りに奥を縫ひ合せ、下着の表袖口切れの口下を縫ひ、躾をかけ、下着の袖口を絎け合せ、引き續きて、口明下を表裏綴ぢ合せ、其れより、口切れの奥を裏袖の口切れ附の所に綴ぢ附け、上着の袖口切れに綿を含め、口切れ下を下着の表袖口切れに縫ひ附く。

上着の振り切れと下着の表振り切れとの袖下を縫ひ、奥を標通りに縫ひ合せ、下着の表振り切れを裏袖に合せて、女小袖のときと同様に振りを縫ひ、綿を綴ぢ附け、表より躾をかけ、振り切れの奥を裏袖に綴ぢ附け、次に、上着の振り切れを表袖に合せて振りを縫ひ、綿を綴ぢ附け、躾をかく。

二、**上着の表布**　常の如く脊・脇・衽・衿を縫ふ。

三、**胴裏・裾廻し**　胴裏・上着・下着の裾廻し及び下着の表裾とも各、脊を縫ひて後幅を標し、脇を縫ひて前幅の標をなす。但し、下着の幅は上部を上着と同寸とし、裾口を後幅に一分、前幅に二分詰めて、標をなすなり。

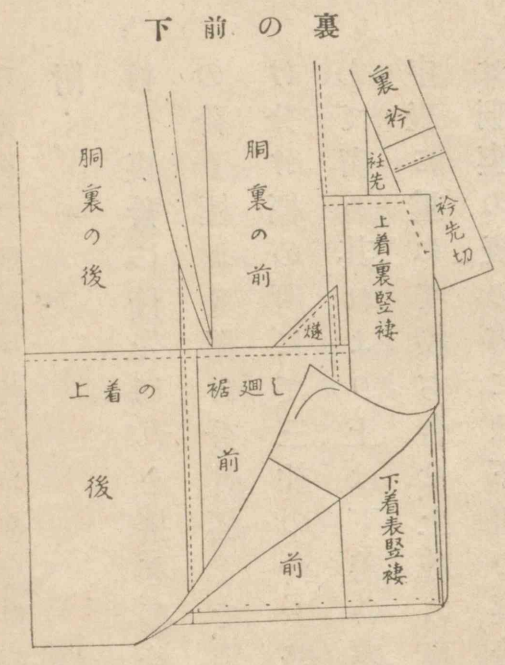


四、**燧切れ**　上着・下着の裾廻し及び下着の表裾の上部に、衽附の標より脇の方へ、燧切れ附の標をなし、上着の裾廻しと下着の表裾との上部に、燧切れを縫ひ附け、上着の裾廻しを燧切れの方へ、下着の表裾を裾の方へ折りて、躾をかく。

五、**衽**　下着の裏竪褄に衽先切れを接ぎ、上着・下着の裾廻しと下着の表裾に衽附をなす。但し、上着の裾廻しと下着の表裾と、は、燧切れの上端まで縫ふなり。

六、**裾合せ**　下着の裾合せをなし、表の方へ折り、躾をかけ、綿を入れ、表より裾に假綴をなし、脊・脇の縫ひ目を綴ぢ、上着の裾廻しの表を下着の表裾の方に重ね、上部の丈標を合せ、三枚にて假綴をなす。

七、**胴接ぎ**　胴裏の表を下着の裾廻しの方に合せ、四枚とも丈標



を揃へて、待針を打ち、燧切れの所は、左右とも折り目の順序に針を通して留め、兩燧切れの間を四つ縫ひになし、其れより布端までは、胴裏と下着の裾廻しとを縫ひ合せ、胴裏の方へ折りて躾をかけ、胴裏に衽を附け、其れより、下着の衽附を裾より燧切れの上端まで、表裏綴ぢ合せ、燧切れの上端にて、布の重りの順序に從ひ、總べての布に針を通して留をなし、燧切れの斜邊を縫ひ合せ、次いで、上着の裏竪褄と下着の表竪褄と、附の方の標より一分内を縫ひ合せ、縫ひ目を割りて、

下着の表竪褄一枚だけを裏衽附の縫ひ目より五厘外に綴ち附く。

八、**衿**　裏衿に衿先切れを接ぎ、裏衿の方へ折り、三枚の衿を竪褄の衿下標より附け分け標まで、別々に縫ひ附け、折りをなし、附け分け標の所にて、三枚の衿と竪褄とを、重りの順序に針を通して留め、其れより上は下着の表衿と上着の裏衿との二枚を中表に重ねて、綴ち合せ、上着の裏衿の方を胴裏の裏の方に合せ、胴裏の表の方には下着の裏衿一枚を合せて、四つ縫ひになし、折りを附く。

上着の裏竪褄と下着の表竪褄との上部を縫ひ合せ、上着の裾合せをなし、表の方へ折り、鰭をかく。

九、**袖附**　本裁女小袖と同様に身八つ口を縫ひ、袖附をなす。袖附けの留め方は、表袖・表身頃・上着裏袖・下着表袖・下着裏袖・胴裏の順序に針を通し、元に戻りて留むるなり。

上着の裏振り切れと下着の表振り切れとの上部を縫ひ合せ、袖附留めより上を裏袖附の縫ひ目に綴ち附く。

一〇、**綿入れ方・紵け方**　總べて女小袖に同じ。

〔附言〕附け比翼とは、下着の廻りだけ別に縫ひ置き、之れを上着に紵け附け、本比翼の體裁に仕立てたるをいふ。此の場合には上着は普通の小袖に仕立て、下着廻りの袖口・振りの奥・裾廻しの上端及び衽・衿の附け方は、表を五厘引きて裏をふかせ、其の折り山を上着各所の縫ひ目に合せて、紵け附くるなり。

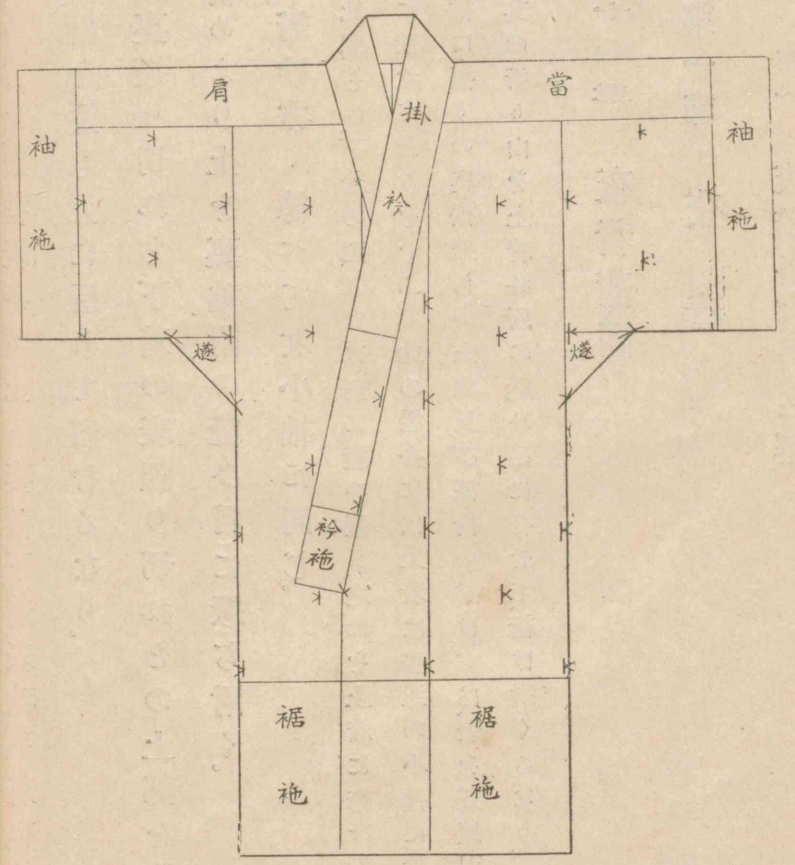
第十四章　夜着蒲團

第一節　夜着

第一　夜着各部の名稱

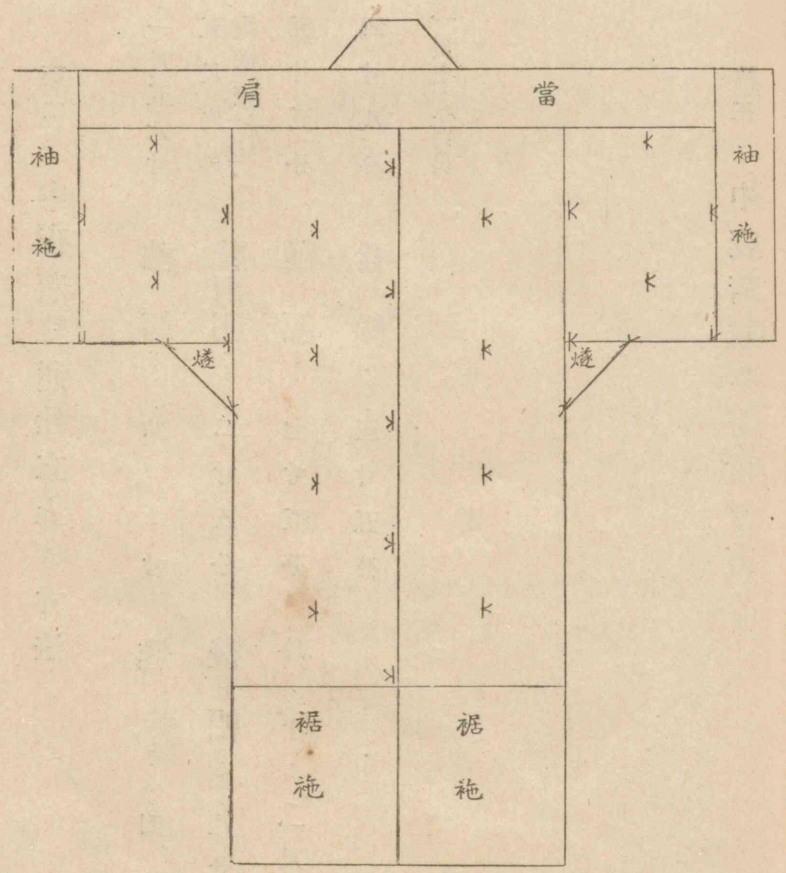
夜着の圖

（前）



夜着の圖

（後）



第二　中夜着普通仕立上げ寸法

袖丈……一尺五・六寸　袖幅……九寸　燧……四寸

身丈……五尺（内外）　衿肩明……二寸八分　後幅……八寸五分

（内裾袵一尺一・二寸）

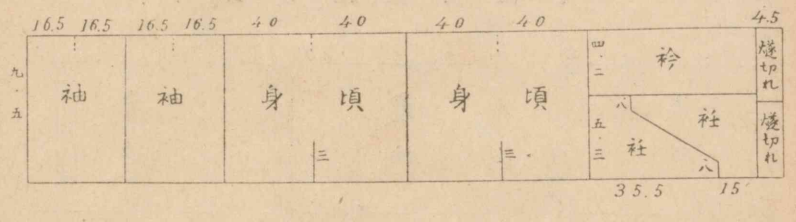
衽下り……五寸五分　前幅……七寸五分　衿下……一尺七・八寸

衽幅……四寸八分　衿幅……三寸五分

綿……一貫七・八百目

第三　中夜着裁ち方・積り方

並幅二丈八尺一寸にて夜着の裁ち方並に裁ち切り寸法

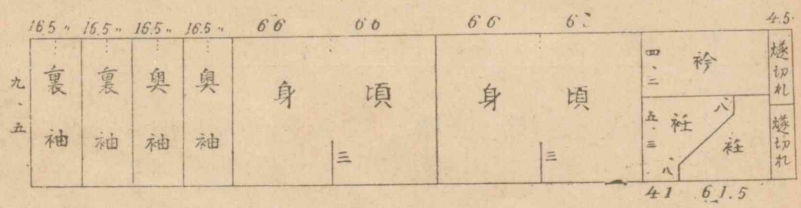


積り方

{用布の總尺－（袖丈×4＋鉤下＋燧切れ）＋衽下り}÷5＝身丈

{　281　－（16.5×4＋15＋4.5）＋4.5}÷5＝40

裏布の裁ち方並に裁ち切り寸法



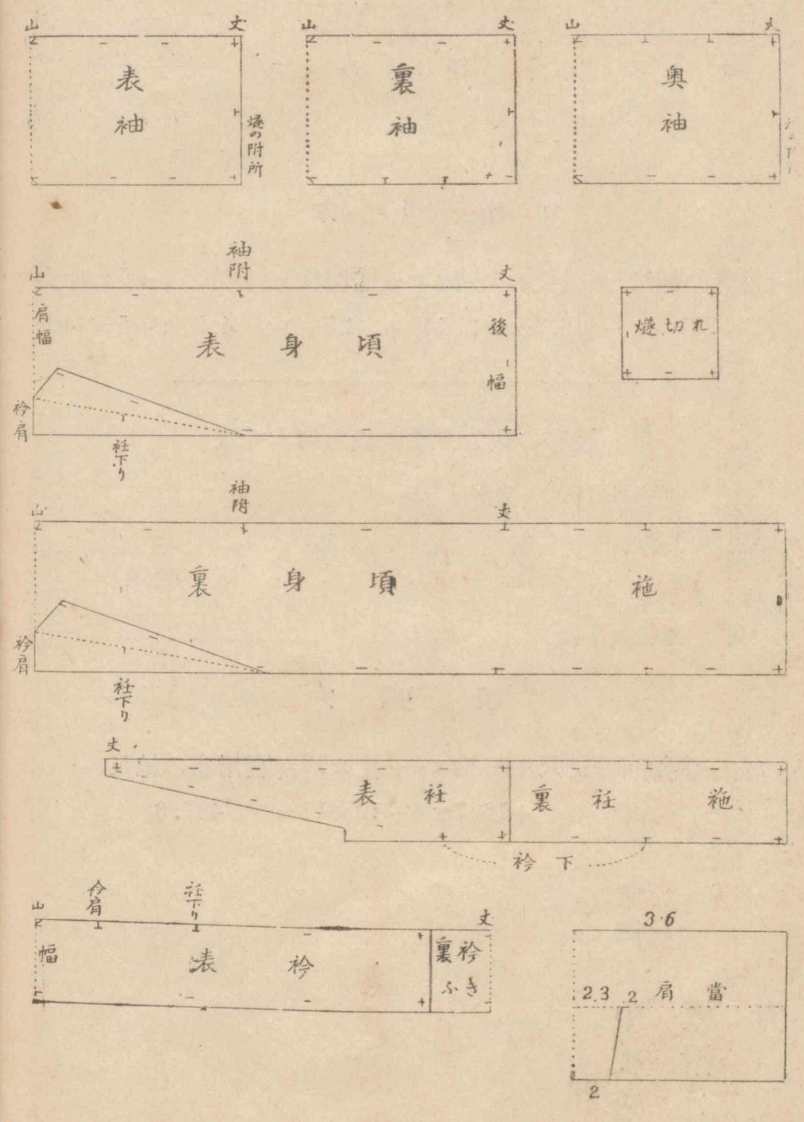
積り方

表用布の總尺＋奥袖×4＋袵×12＝裏用布の總尺

281　＋15.7×4＋12×12＝　487.8

第四　中夜着標附け方

中夜着標附け方



一、**袖**　先づ燧切れに寸法通り標をなし置き、表袖には丈・幅を標し、袖下に附の方より燧の寸法を標す。

裏袖には幅を標し、丈は袵の表に出づる部分の幅だけ、表袖より一分引きて、標をなし、奥の方にて八分詰め、袵山より斜に標をなす。

奥袖には、裏袖の丈の詰めたる寸法と同寸に丈を標し、幅標をなし、表袖の如く、袖下に附の方より燧の寸法を標し、其れより、裏袖の奥と奥袖の端とに、合標を附く。

二、**身頃**　表身頃には山・丈を標し、袖丈に燧の寸法を加へて、袖附の標をなし、其れより、脊・肩幅・後幅・袵下り・前幅の標をなす。

裏身頃には山を標し、表身丈と同寸に丈の假標をなし、袵の寸法を標し、奥袖丈に燧の寸を加へて、袖附を標し、其れより、脊・

肩幅・後幅・衽下り・前幅(袵の部分は裾口と同寸)の標をなす。

三、**衽**　裏衽の上に袵の二倍だけ引きて表衽を重ね、表裏の裾の縫ひ代・袵山・丈・衿下・(袵山より計る)衽幅を標し、衽丈標まで二・三分斜に、衽附の標をなし、其れより、衿下標と衽先標との中程にて、三分許り張り出し、程よく恰好を附け、衿附の標をなす。

四、**衿**　裏衿を常の如く二つに折り、衿丈を標し、餘りを折り返し、山を揃へて、表衿を其の上に載せ、山・衿肩明・衽下り及び袵(衿袵は裾袵の凡そ二分の一を相當とす。)を標し、幅標(上り幅より三分廣く)をなす。

五、**肩當切れ**　丈を二つに折り、幅の中央にて、輪の方より二寸三分と標し、又前にて、輪の方より二寸と標し、兩標の間を切り放し、圖の如く二分の切り込みを入れ置く。

第五　中夜着縫ひ方順序

一、**袖**　表裏の袖口を縫ひ合せ、表袖の方へ折り、外袖の袖下に燧切れの布目を合せて、縫ひ附け、袖の方へ折り、次に、內袖の袖下に燧切れを縫ひ附け、袖の方へ折り、燧切れの角を留め、引き續きて、表裏の袖下を縫ひ、內袖の方へ折る。

奥袖にも亦同樣に燧切れを附け、袖下を縫ひ、奥袖の端を折りて、躾をかけ置く。

二、**身頃・衽**　表裏の脊(表の脊は、衿肩明より三寸許り下を、三尺ばかり縫ひ殘す。)脇衽を縫ひ、常の如く折り、其れより、表裏の裾を縫ひ合せ、表の方へ折り、衿下を縫ひ、表の方へ折る。

三、**衿**　表裏の衿丈標を縫ひ合せ、表の方へ折り、左右とも衿の袵

山を衿下の標に合せ、衿にて表裏の衽を挾み、留をなし、表裏の衿を附け廻し、衿の方へ折り、其れより、表衿の幅は標通り、裏衿の幅は標より表の折り返りの二倍(四分)だけ引きて、縫ひ合せ衿先の所は自然に恰好を附けて、斜に縫ひ、裏の方へ折る。

四、**袖附**　表裏の袖を附け、表裏とも袖の方へ折る。

以上縫ひ目には、總べて六・七分の針目に、隱し躾をかく。

五、**綿入れ方**　裏を出して疊み、前身を下に、後身を上に置き、後身及び袖に眞綿を引き、其の上に綿を平に延べて、(裾口は袍山より約そ一尺二寸、袖口は袍山より七・八寸長く、綿を延べ置く。)厚味を加減し、裾・袖口には別に袍綿を入れ、延べ置きたる綿にて包み、又全體に眞綿を引き、次に、綿と共に返して、前身を上にし、後身同樣に綿を引き、衿下及び衿には較厚く綿を置き、袖口を整へ、其の上に眞綿を引き、褄先・裾の脊・脇・衽の縫ひ目・衿先・衿下・三つ衿・衽下りに綿の引き絲を附け、表布の脊より引き返し、總體に能く綿を含ませ、後ち、合標を合せて、裏袖と奥袖とを紵け合せ、(縫ひ合すことあり)表布の脊を小針に紵け、其れより、一寸許りの綴ち目にて綴絲をかく。

六、**肩當・掛衿**　肩當切れの兩脇を伏せ縫になし、前後を折りて躾をかけ、其れより、身頃に前後を紵け附け、後ち、掛衿の兩端を伏せ縫になし、紵け代を折りて躾をかけ、掛衿を紵け附く。

第六　大夜着・小夜着

大夜着・小夜着の裁ち方・積り方及び縫ひ方は總べて中夜着と同じ。但し、奥袖の丈は表袖より、大夜着には一寸、小夜着には五

分許り詰めるものとす。

一　大夜着・小夜着普通仕立上げ寸法

	大夜着	小夜着
袖丈	一尺七・八寸	一尺四・五寸
袖幅	八寸五分	
身丈	五尺四・五寸（内裾袵一尺四・五寸）	四尺七・八寸（内裾袵八・九寸）
衿肩明	三寸三・四分	二寸六・七分
後幅	八寸	
衽下り	六寸	五寸
前幅	七寸	
衿下	二尺	一尺五・六寸
衽幅	五寸四寸五分	
衿幅	三寸五分	
燧	四寸五分	三寸
綿	二貫目	一貫四・五百目

第二節　蒲團

	三布蒲團	四布蒲團	五布蒲團
丈	凡そ四尺八寸	凡そ五尺	凡そ五尺
綿	一貫四・五百目	一貫二・三百目	一貫五・六百目

一、敷蒲團　並幅一反を三布に裁ちて、之れを三幅に縫ひ合せ、（裏の方の縫ひ目を、一ヶ所四尺ばかり、縫ひ殘す。）一方へ折り、隱し躾をかけ、丈を二つに折りて、三方を縫ひ廻し、表の方へ折り、總體に隱し躾を掛け、表布の裏を出し、其の上に眞綿を引き、上（輪

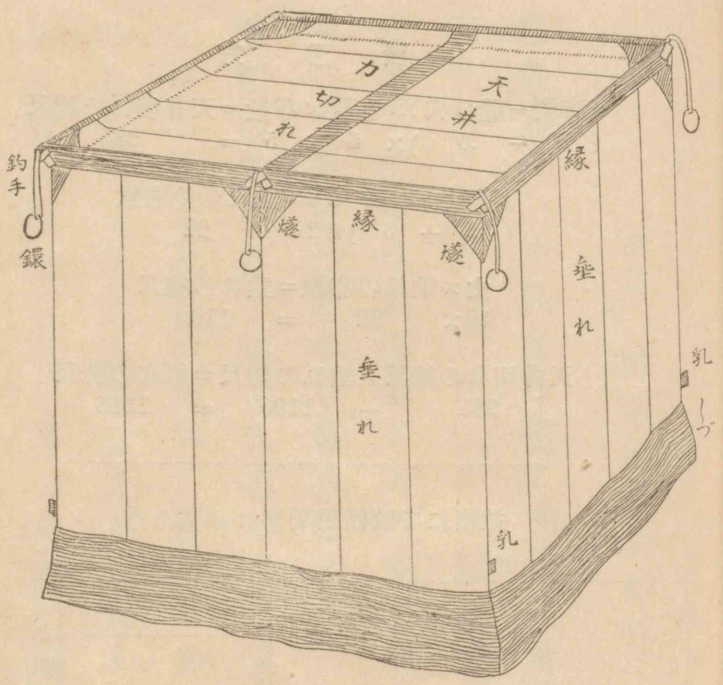
の方)を較厚くして、綿を延べ、又其の上に眞綿を引き、四隅及び幅に二ヶ所、丈に三ヶ所の引き絲を附け、其れより、新聞紙二枚許りを中央に延べ、此の所へ四隅より卷き合せ、縫ひ殘したる口より引き返して、紙を除き、能く丈幅を引き合せ、縫ひ殘したる部分を、小針に絎け、綴絲を掛くるなり。

二、**掛蒲團**　表裏各、一反宛を用ひて、五布に裁つを普通とす。敷布團と同じく縫ひ、綿を入れ、綴絲をかけ、終りて、並幅三尺五寸許りの掛衿をかくるなり。

第十五章　蚊帳

第一　蚊帳各部の名稱

蚊帳の圖



第二　蚊帳積り方

室の大さ	蚊帳の布數	蚊帳の丈
三疊	五・六	五尺
四疊半	六・七	五尺
六疊	七・八	五尺五寸
八疊	八・十	六尺
十疊	十・十	六尺

一尺幅にて五・六の蚊帳の積り方

積　り　方

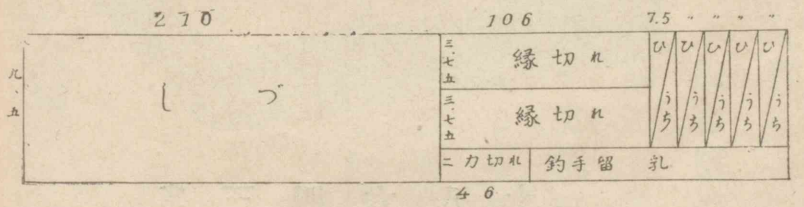
(布幅－縫ひ代)×布數×布數＝天井切れの總尺
(10 － .5)× 6 × 5 ＝ 285

(布數＋布數)×2＝垂れの總布數
(5 ＋ 6)×2＝ 22

丈×垂れの布數＝垂れの總尺
50× 22 ＝ 1100

天井切れの總尺＋垂れの總尺＝用布の總尺
285 ＋ 1100 ＝ 1385

並幅にて蚊帳附屬切れの裁ち方



積　り　方

(布幅－縫ひ代)×垂れ總布數＋縫ひ代＝しづの總尺
(10 － .5)× 22 ＋ 1 ＝ 210

しづ總尺の半數＋縫ひ代＝緣切れの總尺
105 ＋ 1 ＝ 106

燧切れ×5＝燧切れの總尺
7.5 ×5＝ 37.5

しづ切れ＋緣切れ＋燧切れ＝附屬切れの總尺
210 ＋ 106.5 ＋ 37.5 ＝ 353.5

第三　蚊帳縫ひ方順序

一、**垂れ・天井**　垂れを各裾より縫ひ合せ、(四隅の所は、裾より一寸許り上に、緣と同じ切れにて、幅八分長さ一寸程の乳を挾みて縫ふ。) 折りは皆手前の方へ附け、次に、天井切れを縫ひ合せ、亦同じく手前へ折りを附け置く。

二、**燧切れ・力切れ**　燧切れ・力切れに、共色の紙又は布にて裏打ちをなし置き、天井の四隅に燧切れの斜裁ちの方を縫ひ附け、隅の方へ折り返し、二方を天井切れの端に綴ち附け、次に、力切れを天井の中央に於て横一文字に据ゑ、一方を縫ひ附け、折り返して他方を絡け附け、其れより、垂れの上部に於て、五布と六布との縫ひ目及び六布の方の中央に燧切れを附く。其の仕方

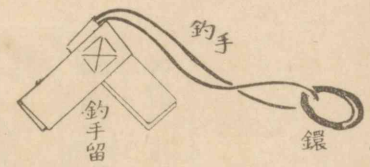
は燧切れの斜裁ちの方を除きて、他の二方を二分許り折り置き、縁の上り幅の五分程内に、斜裁ちの方を据ゑて、綴ぢ附け、他の二方を紵け附く。

三、**垂れと天井**　垂れと天井切れと裏を合せ、表の方より假綴をなす。

四、**縁切れ**　縁切れに前の如く裏打をなし、縫ひ代を折り、縁幅の三分の一を天井の方に當てゝ縫ひ廻し、隅の所にて、縁の弛みを内へ折り込み、縁の縫ひ込みの内に、三つ撚りの細き麻緒を入れ、粗らく縫ひ込みの端にまとひ附け、縁を垂れの方へ折り返し、天井切れと共に紵け、隅の所は、垂れの半幅程、天井切れを除きて、紵け附く。

五、**しづ**　裾口にしづを二分程控へて縫ひ附け、しづの方へ折り、縫ひ込みを包みて、紵け附く。

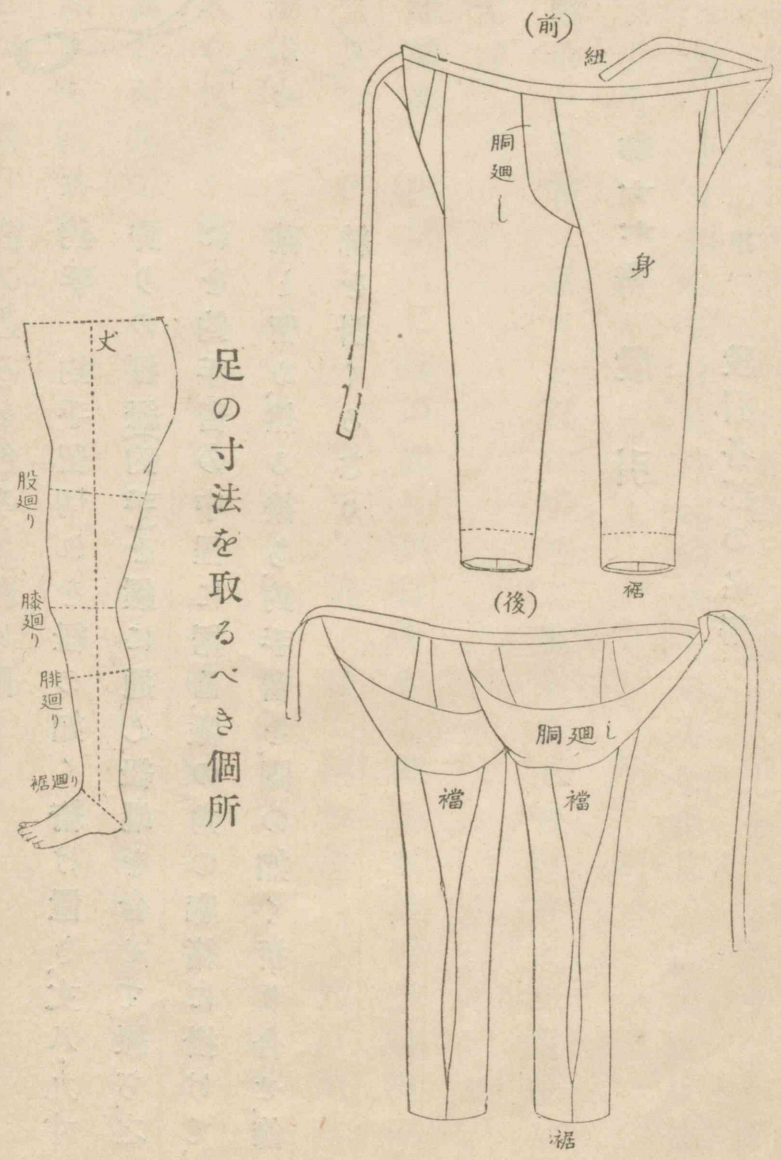
六、**釣手**　釣手留切れを紐の如く紵け置き、丈八・九寸許りの打紐(釣手)を鐶に通し、紐端を合せて綴ぢ、之れを釣手留の中程に据ゑ、縁の角の麻緒に掛けて、確と留め、然る後ち、釣手留を、圖の如く折り合せ、飾絲を掛くるなり。



第十六章　股　引

第一　股引各部の名稱

股引の圖



足の寸法を取るべき個所

第二　本裁股引普通裁ち切り寸法及び割り出し方

各部の名稱	取り寸	裁ち切り寸法	割り出し方
脇丈（腰骨より外踝まで）	二尺三寸六分	二尺四寸	取り寸に縫ひ代を加ふ
胯上		八寸	脇丈の三分の一
胯下		一尺六寸	脇丈の三分の二
膝		七寸二分	胯より胯上の十分の九下
股廻り	一尺二寸七分	一尺四寸五分	取り寸に弛み一寸縫ひ代八分を加ふ
膝廻り	八寸五分	一尺三分	同前
腓廻り	八寸七分	一尺五分	同前
裾廻り	八寸	八寸四分	取り寸に縫ひ代四分を加ふ
上		六寸四分	股廻り取り寸の凡そ二分の一

身幅	股・膝・腓	各九寸五分
	裾	八寸四分　裾廻りと同寸
襠幅	股	五寸　股廻り裁ち切り寸より身幅を減す
	膝	八分　膝廻り裁ち切り寸より身幅を減す
	腓	一寸　腓廻り裁ち切り寸より身幅を減す
	裾	四・五分　裾廻りの縫ひ代と同寸
胴廻し丈		二尺　股廻り取り寸二倍の凡そ五分の四
胴廻し後幅		八寸　股廻り取り寸二倍の凡そ三分の一
胴廻し前幅		二寸七分　胴廻し後幅の三分の一
紐		丈五尺五寸　幅五つ割　幅並幅

〔注意〕股引の類は通常曲尺にて計るものなれども、爰には便宜に従ひて鯨尺を用ひたり。

第三　本裁股引（袷）裁ち方・積り方

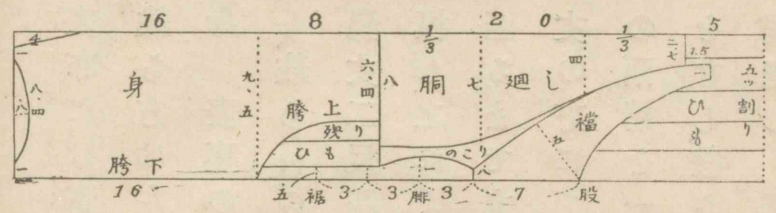
表布には青縞、裏布には淺黄木綿を用ふるを通常とす。

裁ち方は左の如し。

一、**身**　表裏の丈を各、中表に二つに折り、裏布を下に表布を上にし、裁ち目の方を四枚揃へ、輪の方を右に置き、裁ち目の方より、脇丈二尺四寸、胯下一尺六寸の標をなし、身の上幅六寸四分を標し、之れより裾の方へ、胯上三分の二までは眞直に、以下胯に至るまで丸みを附けて、標をなし、次に、裾幅八寸四分を標し、脇丈の方にて、裾より四寸程上まで、斜に少しく丸味を附け、裾幅の兩端を一寸づつ殘し、中央にて八分程内に入り、圖の如く標をなし、後ち、標通り裁ち切る。

二、**胴廻し**　胴廻しの丈を二尺と標し、幅は一端を八寸、他端を二

法寸り切ち裁に並方ち裁の引股裁袷本にて幅並



積り方

(身丈＋胴廻し＋紐)×2＝用布の總尺
(24 ＋ 20 ＋5)×2＝ 98

裏布の積り方

(身丈＋胴廻し)×2＝用布の總尺
(24 ＋ 24)×2＝ 88

寸七分とし、丈を三分して、其の所に七寸、四寸の幅標をなし、圖の如く恰好を附けて裁ち切る。

三、襠　先づ襠の裾を五分幅に取り、之れより上方へ、一尺六寸の胯下を標し、其の所にて股幅五寸、下方へ七寸下りて、膝幅八分を標し、以下裾口までを三分し、三分の一下りて、腓幅一寸を標し、裾より三分の一までは、裾幅と同寸とし、

次に、襠の上幅一寸の標をなし、其れより、圖の如く恰好を附けて裁ち切る。

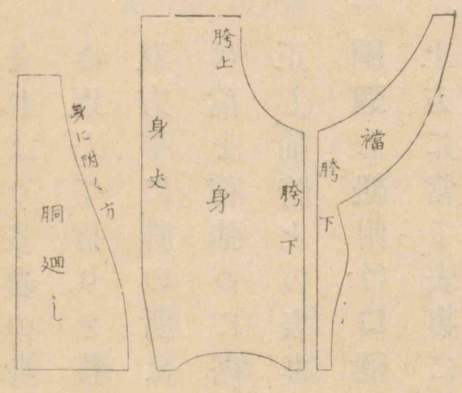
殘餘の布は五つ割幅に裁ちて、紐切れとなすなり。

第四　本裁股引(袷)縫ひ方順序

一、身及び襠　縫ひ方は、總べて二本の撚り合せ絲を用ひ、細かく

一針拔きに縫ふなり。

先づ、襠の表裏の裾を合せ、裏を一分出して縫ひ、裏布の方へ折り、引き返して、表布を五厘ふかせ、襠の表裏を合せて、廻りに假綴をなし、次に、身の表裏の裾を襠と同様に縫ひ合せ、縫ひ込みのつれざる樣、適宜に切り込みを入れ、裏布の方へ折り、



それより、表裏の身にて内襠を挾み、裾より四つ縫ひになし、引き返して折りを整へ、又外襠を挾みて、裾より三寸程上までは、双方平に、腓の所は襠を稍、弛めに、膝の所は身を弛めに、股の邊は襠を稍弛めに、裾より四つ縫ひに附け、表へ返して、折り目を正し、前胯上の表裏を合せて、假綴をなす。

二、**胴廻し・紐附け・口縫ひ**　胴廻しの斜裁ちの幅狹き方を、前身の上方に當て、表裏にて身を挾み、胯上を後まで四つ縫ひになし、引き返して、折りを整へ、胴廻し丈の眞直なる方は、裏布を一分出して、表裏を縫ひ合せ、裏布の方へ折り、引き返して、表を五厘ふかせ、次に、胴廻し前の左を上に、右を下に四・五寸重ねて、假綴をなし、其れより、左脚の方に七・八寸出して紐を附け、後ち、裾口より二寸程上り、裾の前半に、極小針にて表裏の布にかけ、口縫ひをなす。

三、**疊み方**　霧を少しく吹き、襠の中央より身幅を二つに折り、能く押へて、皺を伸し、次に、丈を二つに折り、胴廻しを其の上に折り重ね、紐を廻し、紐端を挾み置く。

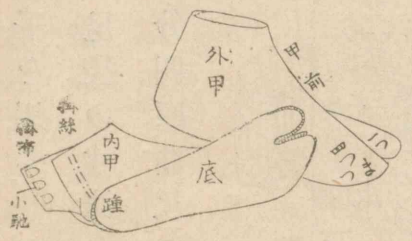
第十七章　足袋

第一　足袋の裁ち方

足袋の材料　表布には眞岡木綿・キャラコ・絹布の類、裏布には晒木綿・綿ネルの類、底布には雲齋・石底・小倉などを用ふ。

縫針には メリケン六番・掛絲附けには同じく一番を使ひ、縫絲には中細の三子、掛絲には晒の

足袋の圖



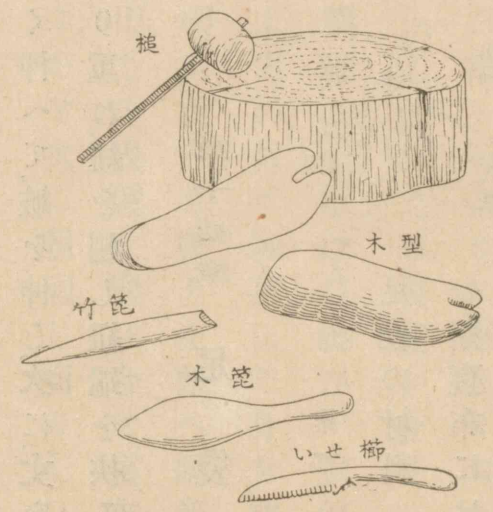
四子を用ふ。

足袋の寸法を計る尺度は所謂文尺にして、其の一文は鯨尺の六分四厘、曲尺の八分に相當す。

足袋の大きさは、小は四文、大は十三文位なり。今其の大きさを假に十文とするときは、表裏の布に各、並幅一尺二寸、底布に幅六寸五分、丈七寸許りを要し、之れより一文を増減するごとに、表裏の布に各、凡そ一寸三分、底布の丈に凡そ六分の増減を生ずるなり。

足袋の寸法割り出し方は甚だ複雑なれば、成るべく恰好よき

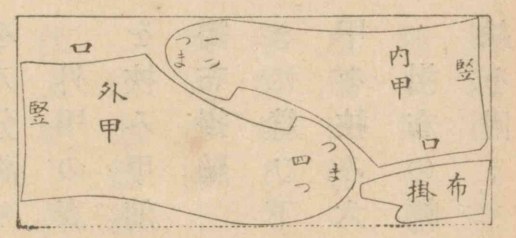
用具の圖

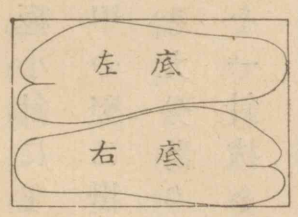


型紙を選み、之れに據りて、布を裁ち切るをよしとす。

其の裁ち方は、表布裏布ともに、表を中にして幅を二つに折り、之れを重ねて、圖の如く型紙を置き、底布にも亦圖の如く型紙を置き、て篦にて型を寫し、之れを裁ち切るなり。

方き置の紙型





第二　足袋縫ひ方順序

一、**掛布**　裏掛布の丈の短き方を二分程裏へ折り返し、表掛布を合せて、其の間に大人には三枚、子供には二枚の小馳を挾み、一

分の縫ひ代に、返し針にて縫ひ附け、表掛布の丈の短き方を折りて、縫ひ込みに被ぶせ、表裏の丈の長き方を揃へて、上下の幅を縫ひ、上幅は絲を稍〻締め加減になし置き、表に返し、折りを正す。

二、**内甲・外甲・甲前**　内甲の表裏を合せ、口より始めて、竪の方は下を八分許り殘して縫ひ、裏の方へ折りて、表に返す。

外甲の表裏を合せて、口を縫ひ、裏の方へ折り、外甲にて内甲を挾み、甲前を極小針にて、一針抜きに四つ縫ひになす。

三、**掛布・掛絲**　外甲の竪に掛布を挾み、甲を稍〻弛み加減に、一針抜きに縫ひ、下方を九分許り縫ひ殘し、其の所に縫ひ殘したる内甲を挾み、六枚を一針抜きに縫ひ附け、引き返して折りを正す。

掛布の幅を内甲へ折り重ね、小馳の位置に倣ひて、内甲に掛絲を附く。

四、**底附け**　踵の眞中と竪の縫ひ目とを合せて、甲と底とを重ね、踵の所は甲を少しく張り、爪先の邊は甲をいせ、其の他は平に、左足は胯の四つの方より、右足は胯の一つの方より始め、底を手前にして、一針抜きに縫ひ、三針目位に裁ち目をまとひ附く。（爪先を除く。）

以上縫絲には、口縫ひの外、總べて二本の撚り合せを用ふ。

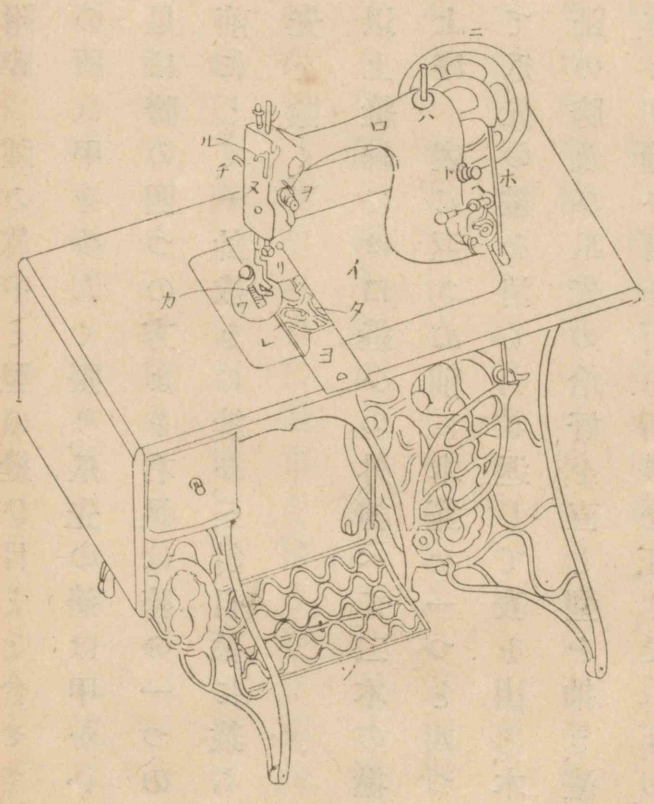
五、**仕上げ**　表に返さぬ前に、木篦を一つと四つとに入れ、いせ櫛にて爪先の皺を消し、引き返して表を出し、木型を入れ、竹篦にて趾の胯及び爪先の恰好を直し、型を抽き、臺に上せ、槌にて底の方より縫ひ目を打ち、折りを正し、それより、各〻内甲を底に折り重ね、帶封をなすなり。

（注意）底の拵へ方は、生麩糊を稍濃く溶きて、底布の裏面に塗り、其の上に裏布を

貼り附け、乾きたる後ち壓しをかくるなり。

第十八章　ミシン使用法（シンガー丸舟踏ミシン）

ミシンの圖

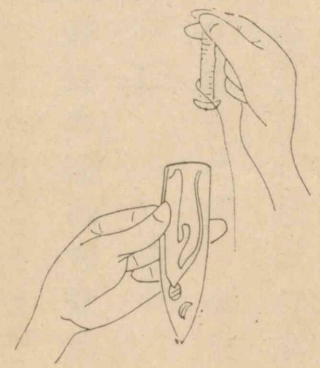


イ　縫床
ロ　腕
ハ　絲卷立
ニ　はづみ車
ホ　調革
ヘ　絲捲器
ト　針目の螺旋
チ　押へ金
リ　針棒
ヌ　面板
ル　天秤
ヲ　上絲の螺旋
ワ　喉板
カ　送り金
ヨ　滑板
タ　梭運び
レ　梭路
ソ　踏板

一、足踏の練習　はづみ車の心棒の螺旋を手前へ廻して、縫床の運轉を止めおき、右手にて、はづみ車を手前へ廻し、（向ふへ廻すべからず）踏板の運動に連れて、足踏の調子を習ひ、はづみ車の逆轉せざる樣練習すべし。

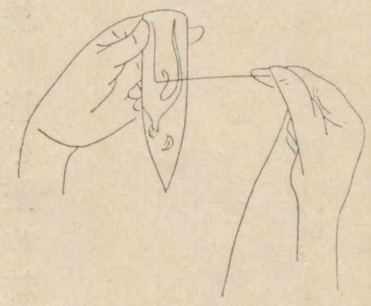
二、下絲の管に絲の捲き方　はづみ車の心棒の螺旋を緩めて、足踏練習のときの如く、縫ひ床の運轉を止め、絲捲器を起して、下絲の管を篏め、絲をかけて廻轉をなし、平に絲を捲き、捲き終らば、絲捲器を、元の位置に直し置くべし。

梭に下絲の管の入れ方（一）



三、梭（ひ）（舟）に下絲の管の入れ方　左手にて舟の尖端を下方に、バネを手前にして持ち、右手にて管を縱に持ち、絲端を左方へ引けば、管絲は右方へ解くる樣に

(二)梭に下絲の管の入れ方



なし、之れを舟に挿入し、絲端を口元の溝より下方へ引き込み、再び掬ふ様にして、上方へ引き戻すべし。

四、**梭運びに梭の入れ方**　滑板を開き、舟の尖端を手前に向け、バネを上向きになして、梭運び(蟹足)に挿入すべし。

五、**縫針の挿し方**　はづみ車の心棒の螺旋を向ふへ廻して、固く緊め、縫床の運轉を附け、針棒を高く上げ、針止めの螺旋を弛め、針元の平面の方を右に、針溝の長き方を左に向け、充分に挿し込みて、螺旋を緊むべし。

六、**上絲の掛け方**　絲卷立より絲端を取り、面板の手前の上なる刻み目に掛け、下方の平圓板の間に、右方より挿み、下より廻して左方へ引き上げ、平圓板の鈎に引き掛け、上方天秤の孔に通し、其れより、面板下部の鈎・針棒の鈎に掛け、後ち、絲を左方より針孔に通すべし。

七、**縫ひ方**　左手にて、上絲の端を緩く取り、右手にてはづみ車を徐に廻すときは、針は下り、下絲をすくひて出づべし。此のとき、上下の絲を向ふへ引き出し、針を上方へ上げ置き、先づ、試し切れを取りて、送り金の上に据ゑ、針を下げ、押へ金を下して、運轉をなし、機械の調子を試み、然る後ち、縫ひ方に移るべし。縫ひ終らば、押へ金を上げ、布・絲共に向ふへ引き出して、絲を切るべし。

八、**縫絲の緩め方・緊め方**　上絲と下絲と緊張の力能く調和するときは、縫ひ目は表裏とも美しく整ふものなり。概して上絲

より下絲の稍張り加減なるをよしとす。上絲の緩きときは、上絲の螺旋を右方へ廻し、張るときは左方へ廻すべし。又下絲の緩きときは、舟のバネの螺旋を、小さき螺旋廻しにて、右方へ廻し、張るときは、左方へ廻すべし。

九、**器械の保存方**　使用後には、必ず各部の塵を拂ひ、油布巾にて、器械の要部を拭ひ置くべし。滑板の下に當れる所、各部の孔其の他摩擦の個所には、時々油を注ぎ、數十回迅速に運轉し、油を全體に行き渡らしむべし。

〔注意〕ミシンに使用する針・絲並に地質の釣合は大略左表に示せるが如し。

ミシン針	○印	B印	二分の一印	一番より五番まで
カタン絲	八十番より百番まで外に羽二重絲	六十番より七十番まで外に羽二重絲	四十番より五十番まで	八番より三十番まで外に木綿絲、麻絲
地質	薄地	セル・ネルの類	綿布・麻布の類	厚地
地類				

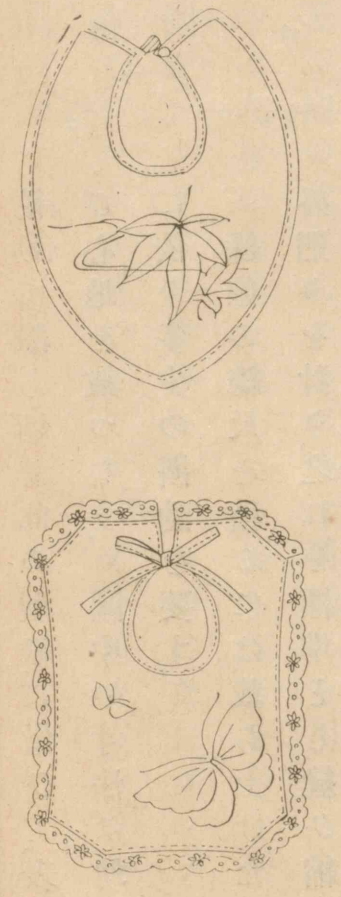
第十九章　涎掛

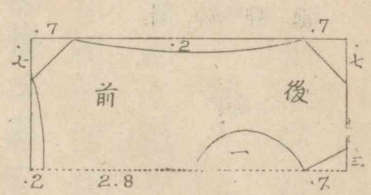
第一　涎掛裁ち方

用布はキヤラコ・ネル・絹布の類とし、心地には綿ネル・紋羽の類、縁飾にはレース・繡取テッブ又は布帛を用ふ。

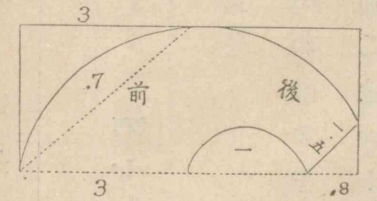
涎掛を裁つには、先づ、紙を用ひ、幅を二つに折り、圖の如く、標を

圖の掛涎





五寸五分丈六寸五寸幅の布にて涎掛の裁ち方



四寸五分丈六寸幅の布にて涎掛の裁ち方

附けて裁ち切り、此の型紙に倣ひて、表裏の布及び心地を裁つなり。（圖中の寸法は、幼兒の體格に依り多少の斟酌を要す。）

縁飾の總尺を積るには、裁ち上げたる涎掛の外廻りを計り、之れを標準とし、縫ひ縮めになすには、其の一倍半、三重襞になすには、其の三倍を見込むべし。出來上りの幅は何れも六・七分なり。

紐の丈は一尺七・八寸、幅は三分位を通常とす。

第二　涎掛縫ひ方順序

表布に心地を合せ、廻りを綴ぢ、飾縫（かざりぬひ）を施す。

其の仕方は、先づ下繪を紙に描き、之れを表布に綴ぢ附け、ミシン又は手縫ひになし、後ち、紙を除き去るなり。其れより、縁飾を襞又は縫ひ縮めになし、表裏の布を中表に重ねて、縁飾を其の間に挾み、躾を掛け、衿廻りを殘して、外廻りを一分五厘の縫ひ代にて、ミシン或は返し針に縫ひ、衿廻りより表へ返し、形を整へ、次いで衿廻りの表裏を綴ぢ合せ、紐を表にあてゝ、三枚を縫ひ合せ、紐を紮け附くるなり。

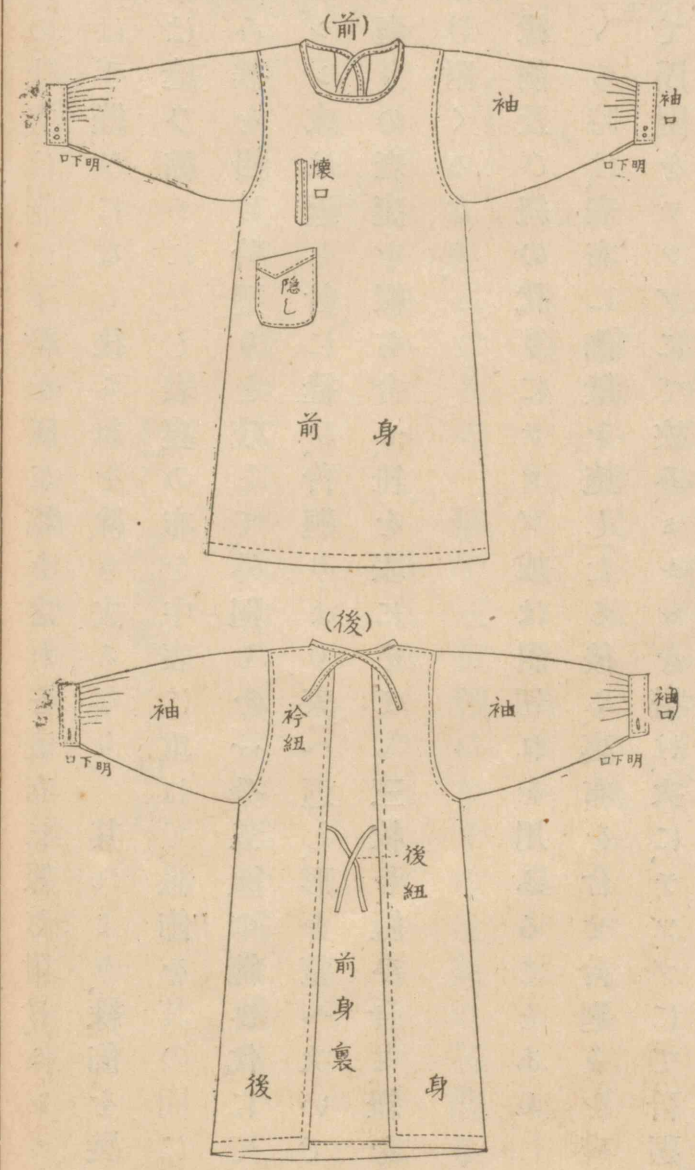
縁飾及び紐の代りに、テップ或は斜切れを用ふることあり。

かゝる時は、表布に飾縫を施したる後ち、裏布を合せ、衿廻りを殘して、周圍をテップにて挾み、ミシンを掛け、次に、テップにて衿廻りを挾みてミシンを掛くるなり。又衿廻りのみ、テップにて挾み、端を乳に作り、釦掛けになすことあり。

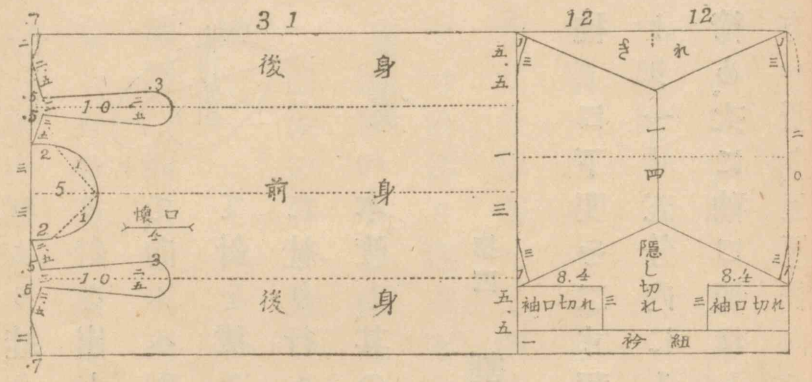
第二十章　割烹前掛

第一　割烹前掛各部の名稱

割烹前掛の圖



法寸り切ち裁に並方の裁ち掛前烹割てにて五尺五寸丈四尺二幅



積り方

身丈＋袖丈×2＝用布の總尺
31 ＋ 12 ×2＝ 55

第二　割烹前掛裁ち方

積り方

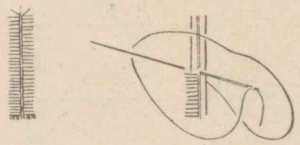
三寸四方許りの布を三枚重ね、其の廻りを綴ち、穿孔臺に紙を敷き、其の上に之れを載せ、鑿(のみ)にて孔を穿つ。

第三　孔絓り

絓り絲には三十番のカタン絲を用ひ、先づ、裏より針を出し、孔の兩側に心絲を渡し、其れより、手前の左側孔の際に針を拔き出し、之

れより結り、始むるなり。結り方は心絲の外へ、裏より針を出し、針孔に近き絲を取り、針の下をくぐらせて、向ふへ廻し、左の拇指にて針目の際を押へ、右手にて針を抜き、左右にて加減しつゝ、絲を引き締め、順次に結り行き、端の所は三針出し、終りには、横に絲を二本渡し、其の絲を結りて、留め置くなり。

方り結の孔釦



第四　割烹前掛縫ひ方順序

一、**袖**　口下明を二寸程、細く三つ折りにまつり置き、袖幅の兩端より一寸五分内に入りて、袖幅の弛みを、袖口寸法だけに縫ひ締め、次に、袖口切れと袖幅との眞中を合せ、二分代に縫ひ、口の方へ折り、五厘程内に、表よりミシンを掛け、袖口切れの兩端を中表に折り、之れを縫ひ、表へ返し、袖口裏をまつり附け、其れより、袖口切れの三方にミシンを掛け、袖下を袋縫になし、口下明に閂留をなす。

二、**身頃**　前身の右方に於て、肩より七寸程下り、袖附より前へ二寸五分程寄せて、四寸の懐口を切り明け、其の上下の左右に、各、一分の切り込みをなし、テップにて口を包み、廻りにミシンを掛く。後身の端と裾とを三つ折りになして、ミシンを掛く。前後の肩を縫ひ合せ、後身の方へ折り伏せ、表よりミシンを掛く。

三、**袖附**　袖山と肩山とを合せ、袖の方を一分五厘出して、袖附をなし、身の方へ折り、縫ひ込みを折り伏せ、表よりミシンをかく。

四、**衿**　胸の邊にて、身の弛みを縫ひ締め置き、衿を紐の如く折り、

衿附を挾みてミシンを掛く。

五、**隱し**　隱し切れを、程よき恰好に裁ち、口切れを附け、懷口の一寸程下、適宜の所に縫ひ附く。

六、**後紐・釦孔・閂留**　後身の衿より一尺一寸許り下りて、左右の端に、七寸五分許りのテップを附け、次に、外袖口の幅の中央にて、端より三分程内に入り、横に孔を穿けて結り、内袖口の方に二個の釦を綴ぢ附け、其れより、隱し口・懷口に閂留をなすなり。

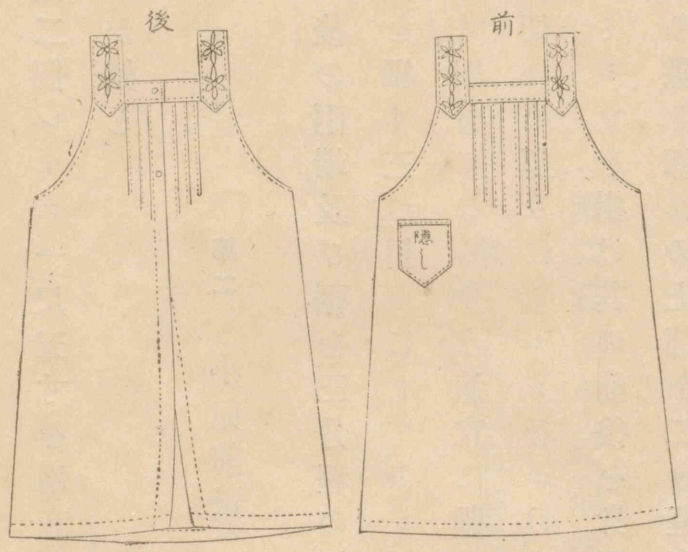
七、**畳み方**　仕上げ終らば、衿を左方に、後身を上にし、脊の通りへ、袖と共に兩脇を折り合せ、其れより、丈を折りて、前を上になし置く。

第二十一章　小兒前掛

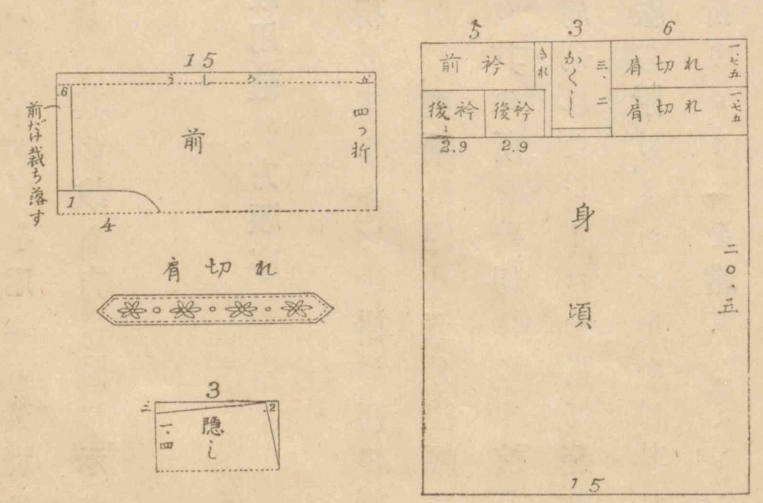
第一節　小兒前掛(二・三歳用)

第一　小兒前掛(二・三歳用)裁ち方

小兒前掛(二・三歳用)の圖



幅二尺四寸丈一尺五寸の布にて
小兒前掛(二・三歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布は幅二尺四寸長さ一尺五寸のキヤラコを用ふ。又別に釦二個、レース一尺五寸を用意すべし。其の裁ち方は圖に示せるが如し。

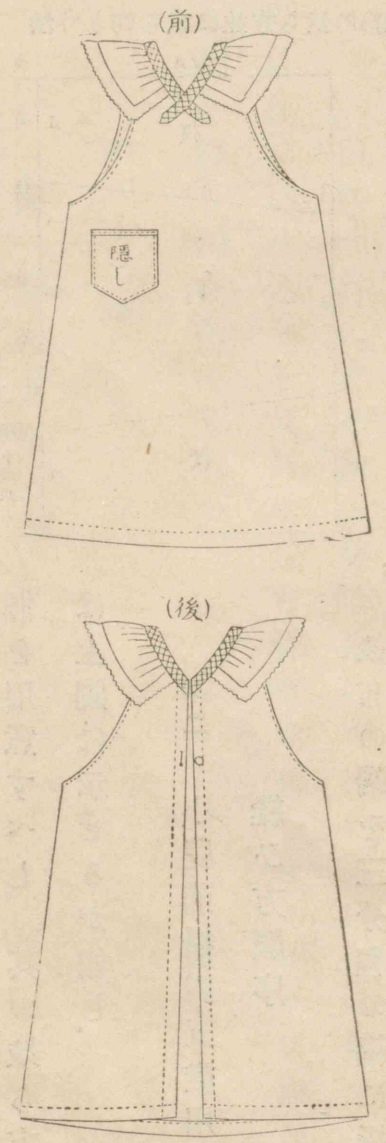
第二　小兒前掛(二・三歳用)縫ひ方順序

後の兩端及び裾を、三分程の幅に折りて、ミシンを掛け、脇の刳りを細く三つ折りにして、ミシンをかけ、胸幅は四寸五分、後幅は二寸四分になるやう、適宜に襞を取り、其の所を衿切れにて挾み、衿切れの廻りにミシンをかけ、次に、肩切れにレースを當て、廻りにミシンを掛け、其の前後を身頃に綴ぢ附け、ミシンをかけ、其れより、隱し切れの上部を二分程表へ折り、レースを當てゝ、ミシンをかけ、三方を二分程に折りて、右脇下凡そ一寸五分の所に當て、ミシンを掛け終りて、後の一端に、二個の孔を穿けて紐り、他端に釦を附くるなり。

第二節　小兒前掛(四・五歳用)

第一　小兒前掛(四・五歳用)裁ち方

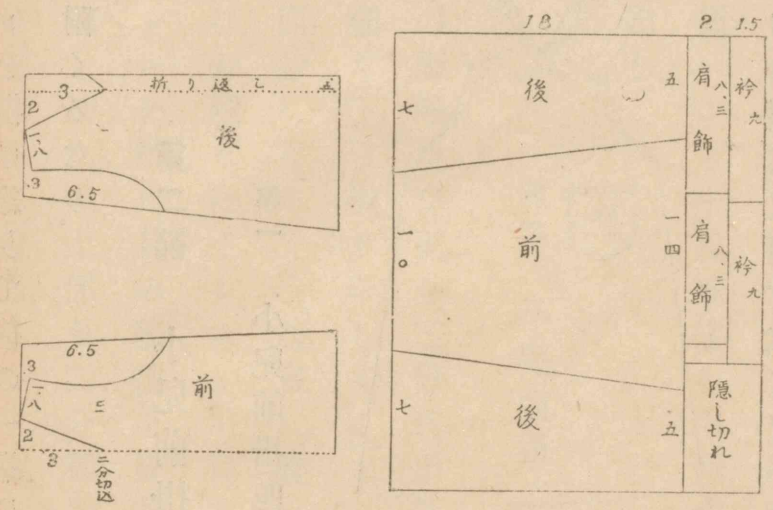
小兒前掛(四・五歳用)の圖



用布は幅二尺四寸丈二尺一寸五分のキヤラコを用ひ、外にレ

幅二尺四寸丈二尺一寸五分の布にて

小兒前掛(四・五歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法

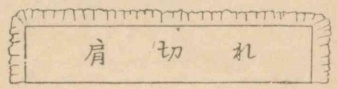


ース三尺繡取テップ二尺、釦二個を用意すべし。其の裁ち方は上圖に示せるが如し。

第二　小兒前掛(四・五歳用)縫ひ方順序

後布の端を三分程の幅に折りてミシンをかけ、前後の肩を合せ、後の方へ折り、表より飾ミシンをかけ、脇を細く三つ折りになして、ミシンをかけ、脇下を袋縫になし、後の方へ折り、其れより裾を折りてミシンをかけ、隱しを附く。

肩切れの三方を、一分裏へ折り、レースを當てゝ、ミシンをかけ、丈の兩端を一寸許り除きて、適宜に縫ひ締めをなし、之れを身頃の衿明に綴ぢ附け、次に、衿切れの幅を折り、衿幅の一方にレースを當てゝミシンをかけ、肩切れと共に身を挾み、後は端いつぱい、前は圖の如く、上前の衿裏に切り込みを入れて、二寸位交叉せしめ、ミシンをかけ、後ち、孔を結り、釦を附くるなり。



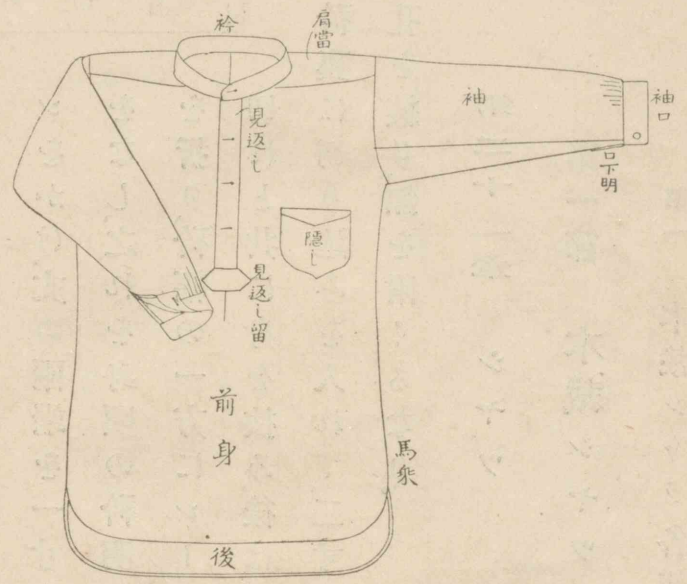
第二十二章　シャツ

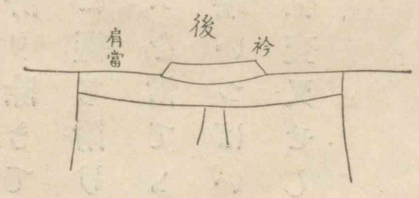
第一節　本裁シャツ

第一　本裁シャツ各部の名稱

第三　本裁シャツ裁ち方・積り方

立衿シャツの圖

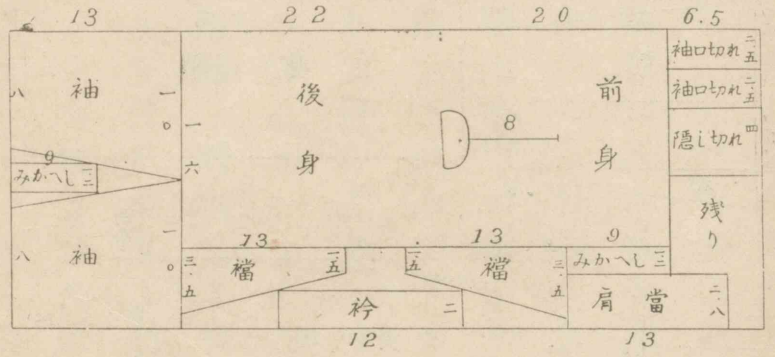




第二　本裁シャツ普通裁ち切り寸法

袖丈……一尺三寸
袖幅……附口、一尺三寸九寸
袖口切れ……丈、六寸五分　幅、二寸五分
後丈……二尺二寸
前丈……二尺
身幅……一尺六寸
肩當……丈、一尺三寸　幅、三寸
見返し……丈、九寸　幅、一寸二分
衿……丈、一尺二寸　幅、二寸

片面物二尺幅六尺一寸五分にて本裁シャツの裁ち方並に裁ち切り寸法

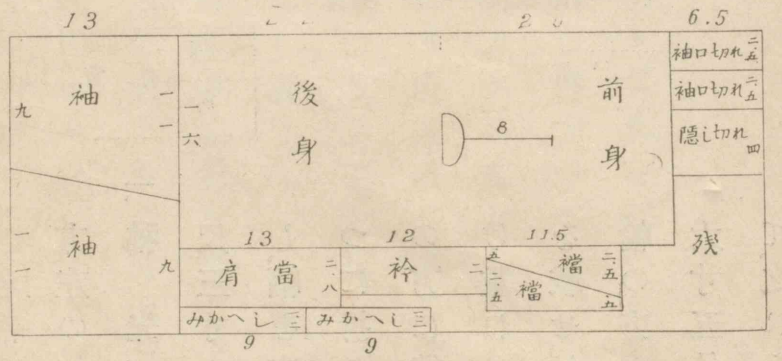


積り方

用布の總尺－(袖丈＋袖口切れ)＋前後の差｝÷2＝後丈
61.5　－(13＋6.5)＋2｝÷2＝22

後丈－前後の差＝前丈
22－2＝20

兩面物二尺幅六尺一寸五分にて本裁シャツの裁ち方並に裁ち切り寸法

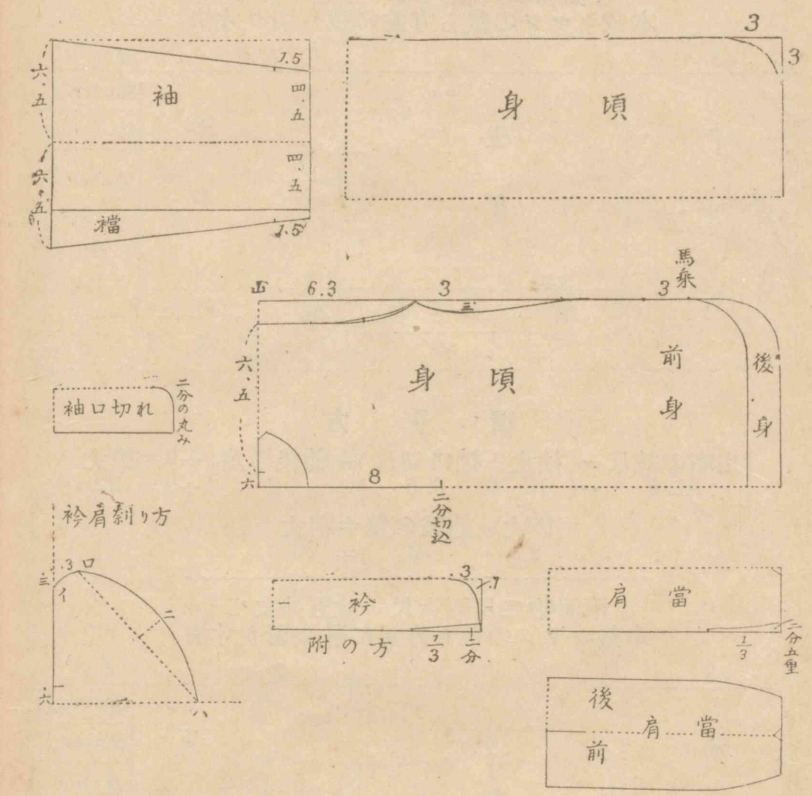


積り方

用布の總尺－(袖丈＋袖口切れ)＋前後の差｝÷2＝後丈
61.5　－(13＋6.5)＋2｝÷2＝22

後丈－前後の差＝前丈
22－2＝20

本裁シャツ各部分の裁ち方



各部分の裁ち方左の如し。

一、**袖**　先づ、袖丈一尺三寸を切り放し、幅を中表に二つに折り、裁ち目の方に縫ひ代だけ重ねて、襠切れを載せ、針を打ち、輪の方より、袖幅六寸五分を標して、之れを山とし

て、口及び附の幅を標し、之れを裁ち切り、口先より一寸五分の所に、二分程切り込みを入れおく。

袖口切れの幅を中表に二つに折り、又丈を二つに折り、兩端の上角に、二分程の丸みを附けて、裁ち落す。

二、**身頃**　身頃の幅を中表に二つに折り、次に、丈を二つに折り、裾を揃へて裁ち切り、圖の如く角を三寸の丸みに裁ち落し、其れより、前後の差を二寸とし、前身を上にして山を正し、前身の丸みの終より一寸上に、馬乘の標をなし置く。

袖附脇　肩山にて、後幅の弛みを、脊より六分と標し、之れより六寸五分を計りて、肩幅を定め、袖附を山より六寸三分（袖幅より二分を減きたるもの）と標し、前は、山より其の三分の二まで、後は、三分の一まで、眞直に標し、之れより袖附標まで、丸味を附

けて標をなし、次に、袖附標より三寸程下りて五分内に入り、較、深く丸みを附け、以下馬乗り三寸上の邊まで少しく丸味を附けて、斜に標し、後ち、標通りに裁ち切る。

衿・肩・明・　肩山にて、脊の弛みの標より、衿の取り寸の六分一を計り、之れより脊の方へ三分、前の方へ三分にイ・ロを標し、羽織の衿肩明の如くイ・ロに丸みを附け、次に、衿の取り寸の五分一に二分を加へて顎ハを標し、ロ・ハの中央にて、其の四分の一より二分減じたる寸法を計りて、ニを標し、ロ・ニ・ハの標を連結し、ハの方を較、平にし、程よく丸みを附け、前身のみ裁ち落し、顎より八寸下に、二分の切り込みを入れ、其の間を切り放す。

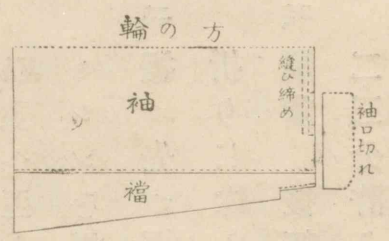
三、**衿**　衿の幅を中表に二つに折り、次に、丈を二つに折り、附の方の衿先にて、二分上り、衿丈の三分の一より斜に裁ち切り、其れより山の方へ、一分斜に切り、角を三分の丸みに裁ち落す。

四、**肩當**　肩當も、衿の如く、幅及び丈を二つに折り、圖の如く、裁ち落し、衿肩明に少しく鋏を入れ、前を切り放し置く。

五、**隱し切れ・見返し留め**　各自の好みによりて裁つべし。

第四　本裁シャツ縫ひ方順序

一、**袖**　袖と襠と眞直の方を合せ、袖の方を一分五厘引きて、躾をなし、襠の方よりミシンを掛け、袖の方へ折り、襠にて縫ひ込みを包みて、躾をなし、表よりミシンを掛け、次に、口下明を細く三つ折りにして、ミシンをかけ、其れより、袖口に圖の如く袖口切れを合せ、殘り幅の二倍の間にて袖口を縫ひ締め、袖口の表の方に袖口切れを合せて、ミシンをかけ、



口切れの方へ折り、表よりミシンをかけ、袖口切れの兩端を縫ひ、表へ返し、角の丸みを正し、裏の方をまつり、口切れの三方にミシンを掛く。

二、**裾**　先づ裾の丸みを縫ひ締め、其れより、前後の裾を、細く三つ折りになし、ミシンをかく。

三、**肩當**　後幅の弛み六分を、脊の所にて、表の方より摘みて、一寸二・三分許り縫ひ、縫ひ込みを割りて、襞になしおき、肩當の前後を二分程裏の方へ折り、山を合せて、肩當を身頃の表に綴ち附け、表より前後にミシンを掛け、其れより、肩當の衿肩明を身に倣ひて裁ち落す。

四、**見返し**　上前、前明の裏の方に、見返し切れを合せて一分五厘の縫ひ代にミシンをかけ、折りを附けて表へ返し、身頃の上に載せ、一方の端を二分に折り、見返しの兩側にミシンをかけ、次に、下前の表の方に、見返しを合せてミシンをかけ、裏へ返し、幅を上前より一分詰めて、端を折り、身の表よりミシンを掛く。

五、**衿**　衿丈の山を、脊の表の方に合せ、衿肩廻しより顎までは、衿を稍張り加減に、其の他は平に躾をなし、ミシンをかけ、衿の方へ折り、表よりミシンを掛け、其れより、衿先を縫ひ、引返し、衿先の丸味を整へ、裏をまつり附け、表より三方にミシンを掛く。

六、**見返し留め**　下前見返し下の切り込みを、尙ほ一・二分切り込み、上下の見返しを正しく重ね、下方を綴ち、下前見返しの下を折りてまつり、上前見返しの下に、留切れを當て、ミシンを掛く。

七、**袖付・脇縫**　袖と肩との山を合せ、身の方を一分五厘引き、袖を見て、ミシンをかけ、身の方へ折り、縫ひ込みを包みて、躾をかけ、

表よりミシンをかけ、次に、袖下より續きて馬乘の標まで、前後を合せて躾をかけ、前を見て、三分の縫ひ代にミシンをかけ、後の方へ折り、後の縫ひ込みを一分五厘切り落し、前の縫ひ込みにて、裁ち目を包み、まつり附く。

八、**孔絃り・閂留**　上前の衿幅の中央にて、衿先より二分程内に一個、見返し丈を四等分して、其の間に三個、又外袖口の端より二分、口先より四分許り内に入りて一個、合せて六個の孔を穿けて絃り、釦を附く。其れより、口下明と馬乘とに閂留をなす。

九、**隱し**　隱しは上前の肩より六・七寸下り、前幅の中程より少しく脇の方へ寄せて附くるなり。

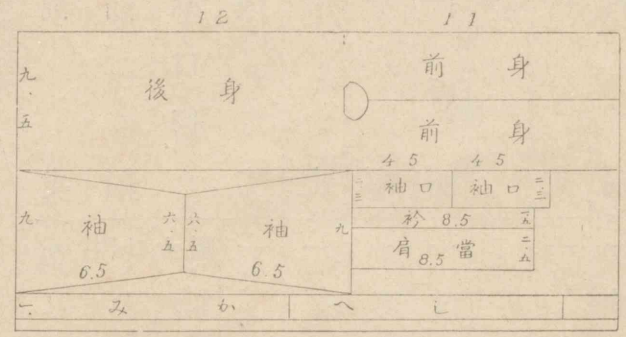
第二節　中裁・小裁シャツ裁ち方・積り方

第一　中裁・小裁シャツ普通裁ち切り寸法

各部名稱＼年齡	十五・六歳	十一・二歳	八・九歳	五・六歳
袖丈	一尺二寸	一尺八寸	六寸五分	
袖幅	附、六寸五分 口、四寸三分	五寸五分 三寸八分	五寸三分 三寸七分	四寸三分 三寸
袖口切れ	丈、六寸 幅、二寸五分	五寸八分 二寸五分	五寸三分 二寸三分	四寸五分 二寸三分
後丈	一尺九寸五分	一尺七寸	一尺五寸	一尺二寸
前丈	一尺七寸五分	一尺五寸五分	一尺三寸五分	一尺一寸
身幅	一尺五寸	一尺三寸	一尺一寸	九寸五分
衿肩明	一寸七分	一寸六分	一寸五分	一寸四分
顎	二寸	一寸九分	一寸八分	一寸六分
衿丈	一尺一寸五分	一尺五分	九寸五分	八寸五分
衿幅	一寸九分	一寸七分	一寸六分	一寸五分
肩當	丈、一尺二寸 幅、二寸八分	一尺一寸 二寸五分	九寸 二寸五分	八寸五分 二寸五分
見返し幅	一寸二分	一寸一分	一寸	一寸

第二　中裁・小裁シャツ裁ち方・積り方

二尺幅にて五・六歳用シャツの裁ち方並に裁ち切り寸法

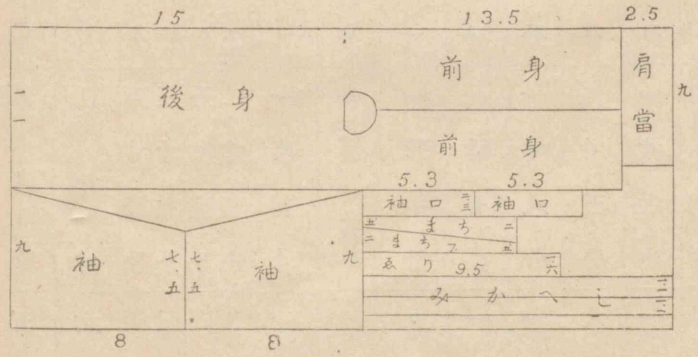


積り方

後丈＋前丈＝用布の總尺

12 ＋ 11 ＝ 23

二尺幅にて八・九歳用シャツ裁ち方並に裁ち切り寸法

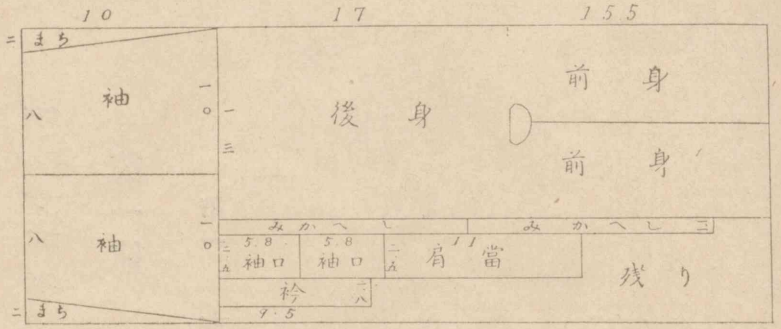


積り方

後丈＋前丈＋肩當幅＝用布の總尺

15 ＋13.5＋ 2.5 ＝ 31

二尺幅にて十一・二歳用シャツの裁ち方並に裁ち切り寸方

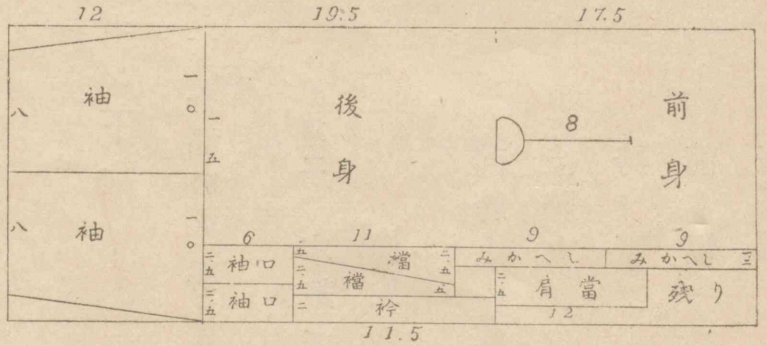


積り方

袖丈＋後丈＋前丈＝用布の總尺

10 ＋ 17 ＋15.5＝ 42.5

二尺幅にて十五・六歳用シャツの裁ち方並に裁ち切り寸方



積り方

袖丈＋後丈＋前丈＝用布の總尺

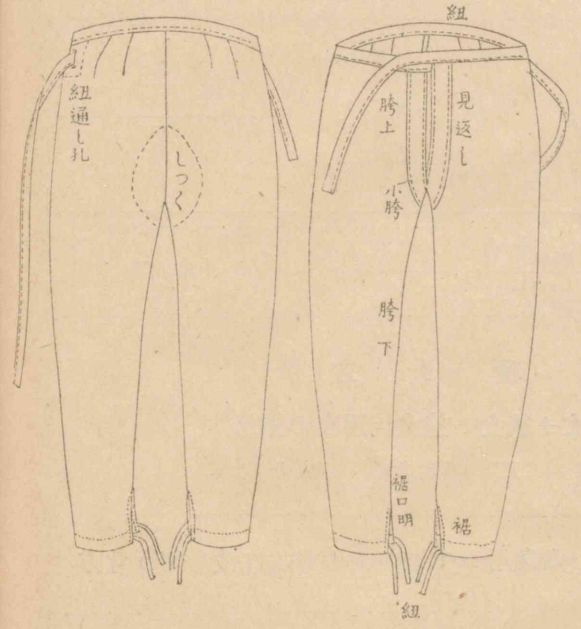
12 ＋19.5＋17.5＝ 49

第二十三章　ズボン下

第一節　本裁紐附ズボン下

第一　本裁紐附ズボン下各部の名稱

圖の下ズボン附紐

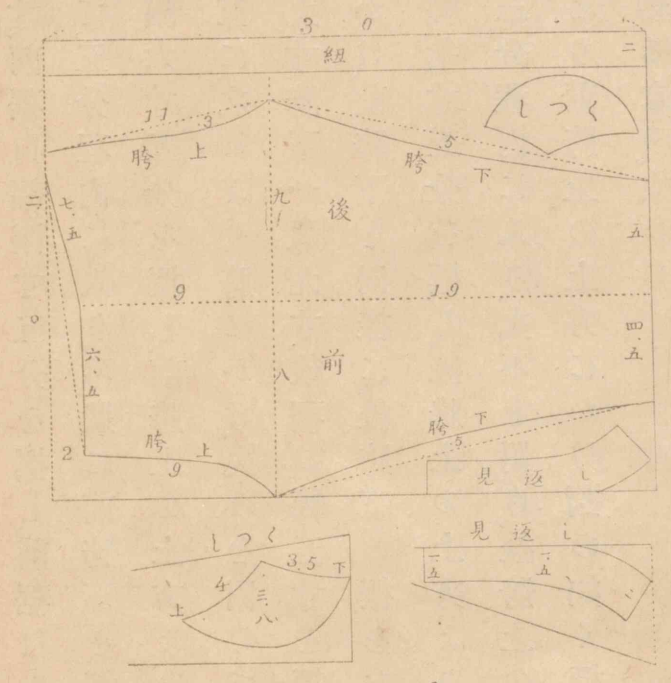


第二　本裁ズボン下普通裁ち切り寸法

前胯上……九寸
後胯上……一尺一寸
胯下……一尺九寸
前幅……八寸
後幅……九寸

前胴幅……六寸五分　後胴幅……七寸五分
後裾幅……五寸　前裾幅……四寸五分
紐……丈五尺五寸、幅二寸

二尺幅にて
本裁紐附ズボン下の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

後胯上×2＋胯下×2＝用布の總尺
11　×2＋19　×2＝　60

第三　本裁紐附ズボン下裁ち方

積り方各部分の裁ち方左の如し。

一、身布の丈を中表に二つに折り、輪の方を左にし、前幅八寸、胯下一尺九

寸、前裾口幅四寸五分を標し、前裾口より前の胯へかけ、中間にて、五分程内に入り、弓狀に前胯下を標し、次に、前胯上九寸、前胴幅六寸五分を標し、前胯上の上方より、其の三分の二までは眞直に、之れより胯にかけ、丸みを附けて標をなし、其れより、後幅九寸、胯下一尺九寸、後裾口幅五寸を標し、後裾口より後の胯へかけ、前胯下と同樣に、後胯下の標をなし、後胯上一尺一寸、後胴幅七寸五分を標し、後胯上の上方より、其の三分の二の所にて、三分程内に入り、丸みを附け、後胯上の標をなし、後胯上の上方より前胯上の上方にかけ、圖の如く標を附け、後ち、標通り裁ち切るなり。

三、**見返し**　前胯下の裁ち落しの上に、前身の其の部分を載せ、胯上の全部と胯下二寸までを、身頃の形通りに標し、後ち、身頃を取り去り、胯上の上方より三分の二までは一寸五分幅に、以下は程よく恰好を附けて、裁ち切るなり。

三、**居敷當**　見返し切れと同じく、裁ち落しを後身の其の部分に當て、胯より上方へ四寸許り、下方へ三寸五分許りに標をなし、其の間を身頃通りに標し、後ち、身頃を取り去り、幅を三寸八分許りとし、程よく丸みを附けて、裁ち切るなり。

第四　本裁紐附ズボン下縫ひ方順序

一、**裾**　裾口明四寸を一分五厘幅に三つ折りにして、まつり、又はミシンを掛け、裾口を裏の方へ、先づ二分幅に、次に四・五分の幅に折り、鏃にて押へ、ミシンを掛く。

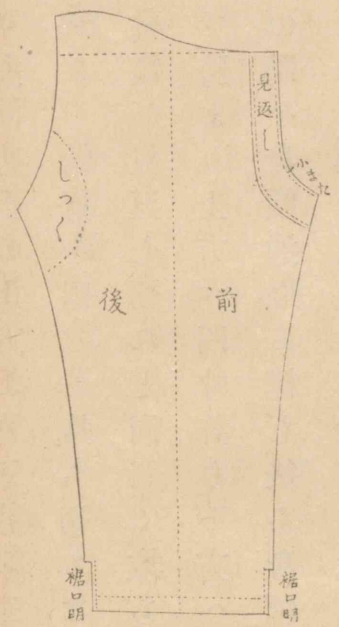
二、**見返し**　見返し切れの表を身頃の裏の方に當てゝ、裁ち目を揃へ、一分五厘の縫ひ代にて、胯上にミシンを掛け、表へ返し、表

裏の折り目を揃へて、躾にて押へ、外側の丸みを縫ひ締めて、二分程裏へ折り、身頃に假綴をなし、兩側に表よりミシンをかく。

三、**居敷當**　シックの圓き方を縫ひ締め置き、一分五厘の縫ひ代に折り、之れを後身胯の所に、裏より當て、左脚の上部を一寸程殘して、其の他をまつり附く。

四、**後胯上**　左右の後胯上を中表に合せ、左脚のシックを除き、躾にて綴ぢ、右脚の方を見て、三分程の縫ひ代にてミシンをかけ、左脚の方の縫ひ込みを一分五厘切り落し、右脚の方の縫ひ込みに包みて、シック

下ボンズ附紐
圖の合せひ縫脚右



より上をまつり附け、其れより、シックの縫ひ代を折り、縫ひ込みに重ねてまつり附く。

五、**小胯・胯下**　左右の前胯上を中表に合せ、胯より一寸五分上まで胯の縫ひ代三分を殘して、見返しを掛け接ぎの如くまつり、引き續きに裏をまつり附け、其れより、左右とも前後の胯下を合せて躾をかけ、三分の縫ひ代にて、後を見て、一方の裾口明より他方の裾口明まで、ミシンを掛け、前の方の縫ひ込みを一分五厘切り落し、後の方の縫ひ込みにて包み、躾にて押へ、まつり附く。

六、**紐附・孔縫り・閂留**　胴廻りの寸法を取り、胴幅の餘分を兩脇より後方にて縫ひ締め、又は襞に取り、(襞を取るときは後胯上より二寸五分程の所を山とし、前の方へ向けて、一つの襞を取り、

又其の襞山より一寸程離して同様に襞を取るべし）力切れ（幅一寸、丈一寸五分）の三方を折り、左脇より前方へ、上部を揃へて、裏より身にまつり附け、次に、腰紐切れを、左脚の方へ八寸程出して、胴廻りに當て、ミシンをかけ、紐の方へ折りて、表よりミシンを掛け、紐幅を定めて裏をまつり附け、紐の左右にミシンを掛け、其れより、小胯と裾口明に閂留をなし、力切れに腰紐の幅より少し緩く孔を穿けて紐り、終りて、裾紐を通し、中程にて留め置く。

七、**疊み方**　裾を右にし、左右の脇丈及び胯下の縫ひ目を合せて、兩脚を重ね、紐を疊み、それより、丈を二つに折るなり。

〔設問〕

(1) 本裁ズボン下普通裁ち切り寸法を問ふ。

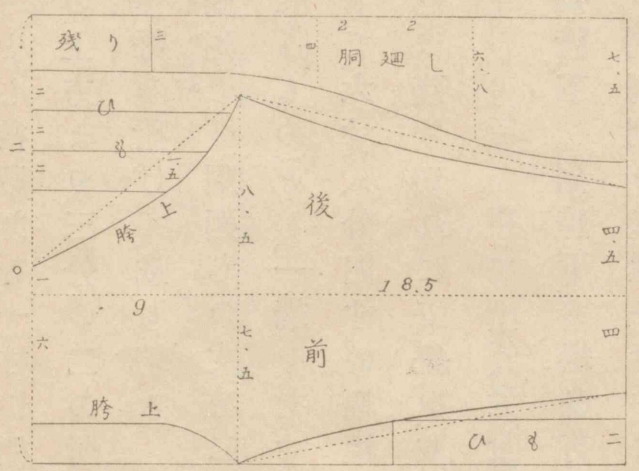
(2) 紐附ズボン下の縫ひ方順序を述べよ。

第二節　本裁胴廻し附ズボン下

第一　本裁胴廻し附ズボン下裁ち方・積り方

二尺幅にて

本裁胴廻し附ズボン下の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

胯上×2＋胯下×2＝用布の総尺
9　×2＋18.5×2＝　55

前後の幅及び胯下を、本裁紐附ズボン下のときより五分づつ詰めて標をなし、其れより、前胯上を紐附ズボン下のときと同寸に標し、後胯上を前胯下と同

寸とし、後胴幅を一寸に標し、之れより後の胯へ尺を渡し、胯上の上方より三分の二の所にて、一寸五分程内に入り、圖の如く恰好を附けて、裁ち切る。

胴廻し　胴廻しの丈を二尺一寸(胯上の二倍に三・四寸を加へたるもの)とし、一端を七寸五分、他端を三寸とし、其の間を三分して、六寸八分・四寸の幅標をなし、圖の如く恰好を附けて裁ち切り、殘り切れにて紐を取るなり。

第二　本裁胴廻し附ズボン下縫ひ方順序

一、**裾・胯下**　裾・胯下の縫ひ方は紐附ズボン下に同じ。但し、胯下は兩脚別々に縫ひ合すなり。

二、**胴廻し**　眞直なる方を三つ折りにしてミシンを掛け、幅の廣き方を後に、狹き方を前にし、斜なる方を身頃前後の胯上に合せ、身頃の方を一分五厘出し、躾を掛け、身の方より三分の縫ひ代にミシンをかけ、胴廻しの方へ折り、縫ひ込みを包み、躾にて押へ、ミシシを掛く。

三、**紐附け**　紐切れを寸法通り接ぎ合せ置き、左脚を上に右脚を下にし、前身頃を四・五寸重ねて、假綴をなし、それより、紐を左脚の方へ八寸程出して附け、表よりミシシを掛け、裏をまつり、紐にミシンを掛くるなり。

〔設問〕

一尺幅にて本裁胴廻し附ズボン下を裁つに當り、脇丈を二尺八寸とせば用布の總尺は何程を要するか。其の裁ち方並に裁ち切り寸法を記せ。

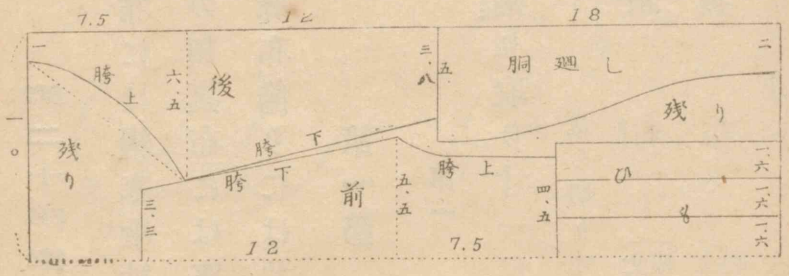
第三節　中裁・小裁ズボン下裁ち方・積り方

第一　中裁・小裁ズボン下普通裁ち切り寸法

各部名稱＼年齢	十五・六歳	十二・三歳	八・九歳	五・六歳
前胯上	八寸五分	八寸	七寸五分	七寸
後胯上				
胯下	一尺七寸	一尺四寸	一尺二寸	八寸五分
前幅	七寸	六寸	五寸五分	五寸
後幅	八寸	七寸	六寸五分	五寸八分
前胴幅	六寸	五寸	四寸五分	四寸
後胴幅	一寸	一寸	一寸	一寸
前裾幅	四寸	三寸五分	三寸三分	三寸
後裾幅	四寸五分	四寸	三寸八分	三寸五分
胴廻し丈	二尺一寸	一尺九寸	一尺八寸	一尺七寸
胴廻し幅	前二寸八分　後六寸五分	二寸五分　五寸五分	二寸　五寸	二寸　四寸
紐	丈五尺　幅一寸八分	四尺五寸　一寸七分	四尺三寸　一寸六分	四尺　一尺五分

第二　中裁・小裁ズボン下裁ち方・積り方

二尺幅にて八・九歳用胴廻し附ズボン下の裁ち方並に裁ち切り寸法

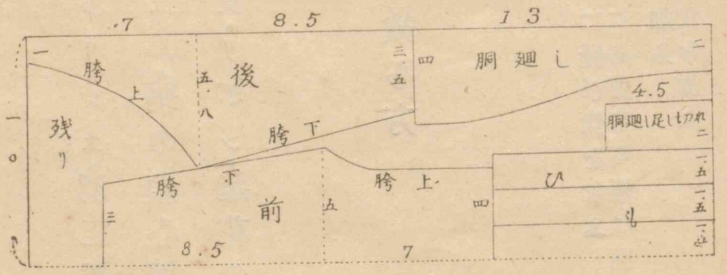


積り方

胯上＋胯下＋胴廻し丈＝用布の總尺

7.5 ＋ 12 ＋ 18 ＝ 37.5

二尺幅にて五・六歳用胴廻し附ズボン下の裁ち方並に裁ち切り寸法

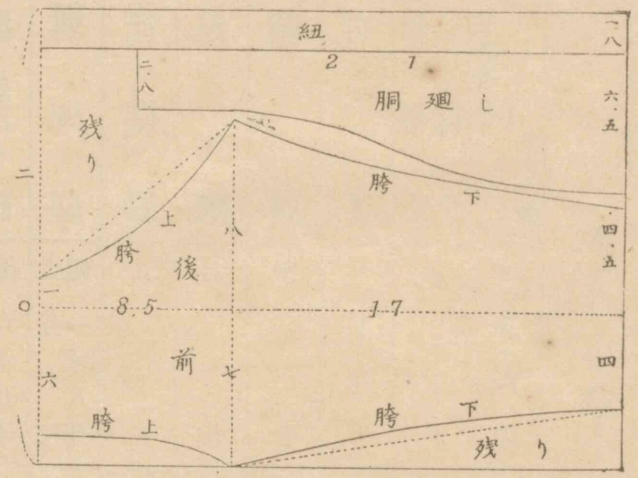


積り方

胯上＋胯下＋胴廻し丈＝用布の總尺

7 ＋ 8.5 ＋ 13 ＝ 28.5

二尺幅にて十五・六歳用胴廻し附ズボン下の裁ち方並に裁ち切り寸法

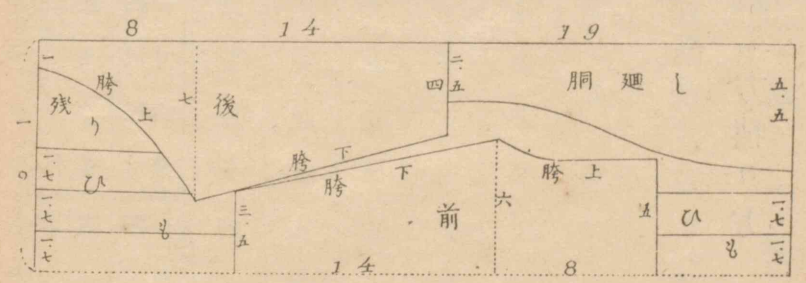


積り方

（胯上＋胯下）×2＝用布の總尺

（8.5 ＋ 17 ）×2＝ 51

二尺幅にて十一・二歳用胴廻し附ズボン下の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

胯上＋胯下＋胴廻し丈＝用布の總尺

8 ＋ 14 ＋ 19 ＝ 41

第二十四章　小兒帽子

表布には絹寒冷紗・麻布・カシミヤ・メリンス・羽二重・繻子・天鵞絨・羅紗の類、裏布には寒冷紗・毛繻子・綿ネル・絹の類、心切れには心地用の麻布、飾りには共切れ又はレース・リボン・造花の類を用ふ。

第一節　夏帽子

第一　夏帽子(三・四歳用)裁ち方

頭廻り取り寸一尺三寸

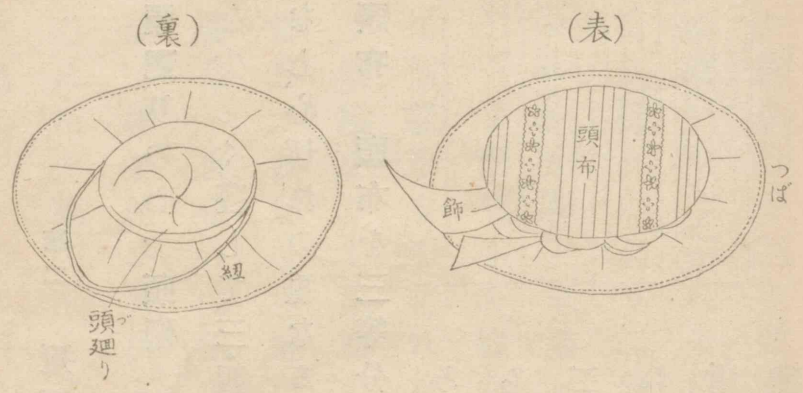
裁ち切り寸法割り出し方

頭布……(幅)丈　頭廻り直經の二倍に縫ひ代を加ふ
丈と同寸、但し飾縫に必要なる幅は別に見込むべし

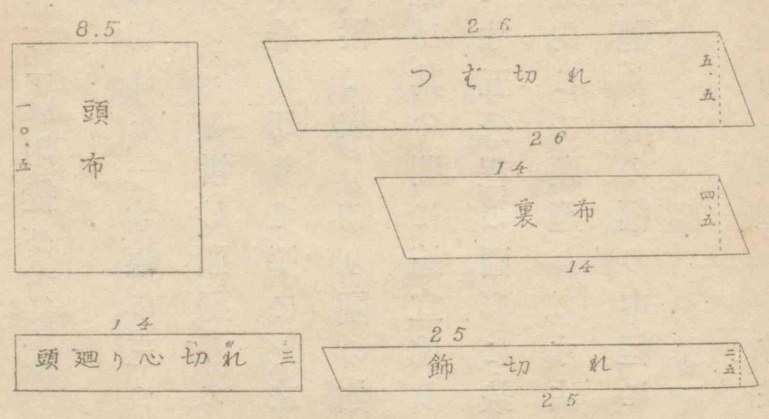
裏布……(幅)丈　頭廻りに縫ひ代を加ふ
頭廻り直經に縫ひ代を加ふ

つば切れ……(幅)丈　頭廻りの二倍
頭廻り直經に縫ひ代を加ふ

夏帽子の圖



夏帽子(三・四歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法

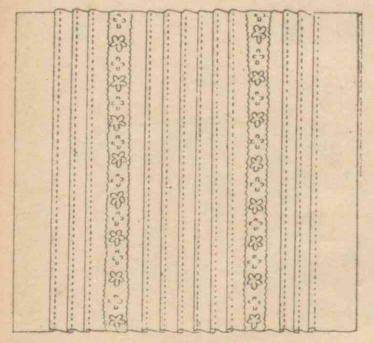


〔注意〕別に籐蔓二尺八寸と紐ゴム八寸許りを用意すべし。

第二　夏帽子（三・四歳用）縫ひ方順序

一、**頭廻りの心**　頭廻りの心切れを、一寸幅に三つ折りとし、兩端を少しく殘して、三・四本ミシンを掛け、頭廻りの寸法通り輪となし、心切れの重なる所は、端を切りて平にし、之れを綴ぢ合す。

二、**頭布**　頭布を三等分して、縦に裁ち切り、圖の如くレースを挾みて縫ひ、其の間に適宜飾りの襞を取り、後ち、徑八寸五分程の圓形に裁ち切り、廻りの二・三分内にて、頭廻りの寸法に縫ひ締め、之れを頭廻り心の幅の中程に被ぶせて縫ひ附く。



三、**裏布**　裏布を頭廻りの寸法だけに縫ひ合せ、縫ひ目を割り、頭布と突き合せに、頭廻り心に綴ぢ附く。

四、**つば**　つば切れの兩端を縫ひ合せ、縫ひ目を割り、幅を二つに折り、折り山より二分程内に（兩端の縫ひ目の所を一寸程殘し）ミシンを掛け、籐蔓を通して、つば廻りを張り、藤蔓の先を細くし、一寸程交へて綴ぢ合せ、縫ひ殘しを縫ひ、つばの表裏を合せて假綴をなし、之れを十二等分して、頭廻りの寸法丈に襞を取り、假綴をなし、裏布の上より頭廻りに重ねて縫ひ附く。

五、**飾り**　頭廻りの縫ひ目の隱るゝ樣、飾り切れを附く。

六、**裏布**　裏布の内側を二分程折り、之れを六等分し、其の所を抄ひて絲を結び、各折り込みを同方に向け、折りを整へ、頭廻りの心に折り被ぶせ、心の奥に綴ぢ附け、前後の中間に於て、左右の内側にゴム紐を附くるなり。

第二節　雪帽子

第一　雪帽子(一・二一歳用)裁ち方

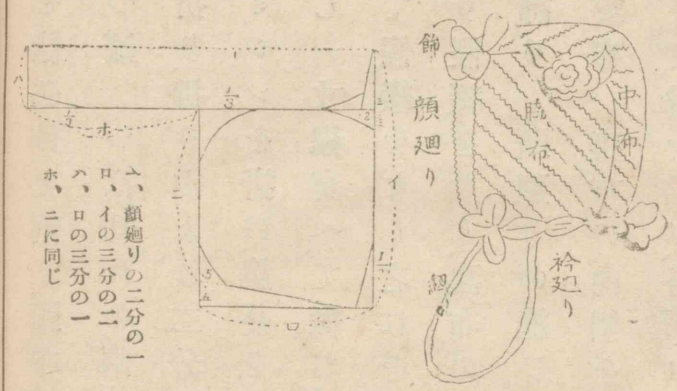
表布には薄地の絹、裏布には綿ネルの類を用ふ。

用布を裁つには、先づ圖の如く型紙を裁ち置き、之れを表裏の布に當て、縫ひ代を加へて、廻りを裁ち切るなり。

表布を縫ひ縮むるには、其の幅丈ともに裏布の一倍半を見込み置くべし。

紐は丈一尺五寸幅二寸許りとす。

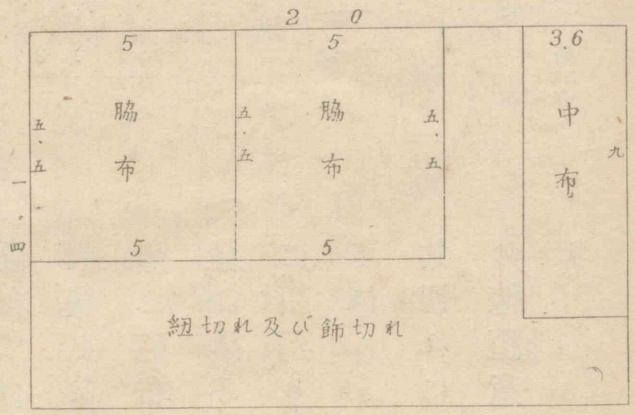
雪帽子の圖



第二　雪帽子(一・二一歳用)縫ひ方順序

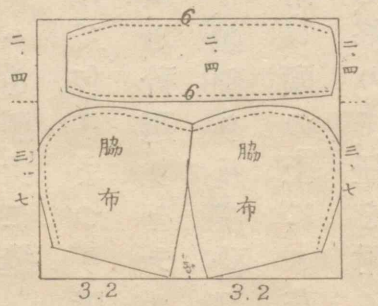
幅二尺丈一尺四寸にて

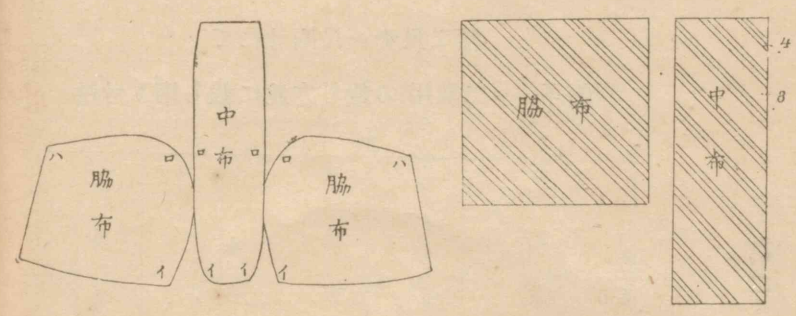
雪帽子(一・二歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法



幅六寸四分丈六寸一分にて

裏布の裁ち方並に裁ち切り寸法





表の脇布二枚中布一枚に、上圖の如く標をなし、標を山に五厘程摘み、極細かく縫ひ、裏布に合せて、程よく絲を引き締め、廻りに假綴をなし、裏布通りに裁ち切り、中布の兩脇に脇布を列べ、イ・ロ・ハを順次に縫ひ合せ、縫ひ込みをテップにて包みまつり附け、次に、顏廻りより引き續き、衿廻りをテップにて包み、ミシンを掛け、顏廻り及び衿廻りに共切れにて飾りを附け、頭の上にも、花形其の他隨意の飾をなし、終りて、紐を附くるなり。

附錄

第一章　女兒洋服

總說

凡そ服裝には二種の樣式あり。一は人類自然の體格に倣らへるものにして、男子の洋服の如き是れなり。他は一定の形式に依れるものにして、和服の如き是れなり。夫の女子の洋服の如きは、則ち兩者の折衷にして、上部は自然の體格に倣ひ、下部は一定の形式に依れるものなり。

一定の形式に依れるものは、其の形式に據りて、裁縫することを得れども、自然の體格に倣らへるものは、人々の體格に應じて、型を作る必要あり。されば洋服裁縫を學ばんと欲せば、先づ製

型法を知らざるべからず。

用布　用布は各人の好みに依りて、固より一定する所なしと雖も、一般に用ひらるゝものは、冬期用としてはセル・ネル・羅紗・カシミヤ等、夏期用としてはキャラコ・モスリン・印花布・麻布等、下着用としては白キャラコの類、裏地用としては、毛繻子・甲斐絹・スレキの類、心地用としては木綿・寒冷紗の類を用ふるなり。

用布の總尺は其の仕立方と年齢及び體格によりて、一様ならざれども、普通滿一・二歳ならば、二尺幅一ヤール半位にて足り、其れより、一歳を加ふる毎に半ヤール位づゝ増し、大人ならば、二尺幅七ヤール位を要するなり。

用具　用具は和服裁縫に必要なるものゝ外、メートル尺・三角定規・長定規・ルレット等なり。

ルレットの用途は和服裁縫用の箆の如く、地薄の布に標を附くるに用ひ、羅紗の如き地厚の類にはチョークを用ふ。

尺度　洋服に用ふる尺度には英國のインチ尺と佛國のメートル尺との二種あり。今英佛二ケ國の尺度と我國の鯨尺とを比較すれば左の如し。

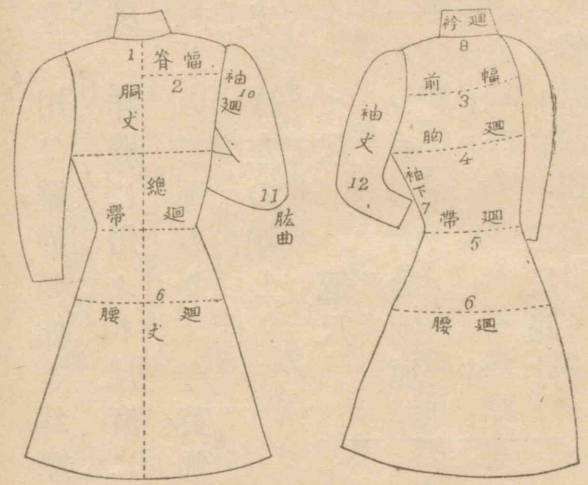
インチ尺	鯨尺	メートル尺	鯨尺
一インチ	六分七厘	一サンチ、メートル	二分六厘
一フート	八寸	十サンチ、メートル	二寸六分四厘
一ヤード	二尺四寸	一メートル	二尺六寸四分

以下用ふる尺度はサンチ(一サンチメートルの略稱)を以て單位とす。

第一節　女兒洋服寸法取り方

左の順序に依りて、寸法を度るべし。

女兒洋服寸法取り方



一　身頃

1. 胴丈　衿元より帶廻まで
2. 脊幅　後兩袖附の間
3. 前幅　前兩袖附の間
4. 胸廻　胸部の高き所の周圍
5. 帶廻　腹部の細き所
6. 腰廻　腰部の太き所
7. 袖下　腋下の袖附より帶の所まで
8. 衿廻　衿元の周圍
9. 總丈　衿元より下脚の中程まで

二　袖

10. 袖廻　袖附の周圍
11. 肱曲（ひぢまがり）　袖丈の内、肱の曲りまで
12. 袖丈　袖附より手頸まで

以上の如く寸法を取るものなれども、型は半身にて足れるを以て、通常、幅と周圍とは其の寸法の二分の一を用ふるなり。

女兒洋服標準寸法

各部の名稱＼年齡	二・三歳	四・五歳	六・七歳	八・九歳
胴丈	二〇	二三	二五	二七
脊幅	二〇	二二	二四	二六
前幅	二〇	二二	二四	二七
胸廻	四八	五二	五六	六四
帶廻	五二	五五	五七	六〇
腰廻	六八	七二	七八	八四
袖下	九	一〇	一一	一二
衿廻	二六	二八	三〇	三二

總丈	五二
袖廻	二六
肱曲	一五
袖丈	二八

總丈	五九
袖廻	二八
肱曲	一六
袖丈	三〇

總丈	六六
袖廻	三〇
肱曲	一八
袖丈	三二

總丈	七五
袖廻	三二
肱曲	二〇
袖丈	三五

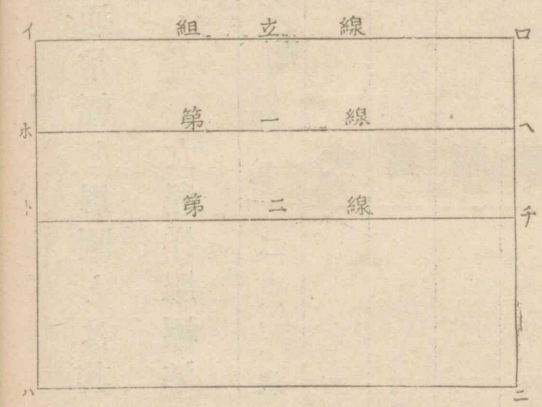
第二節　女兒洋服製型法

第一　身頃元型

元型を作るには洋紙の如き厚紙を用ひ、先づ第一圖の如く組立線を描き、次に、第二圖の如く、各部分の寸法を割り出し、此の組立線上に標をなすなり。

女兒洋服身頃元型の組立線

第一圖

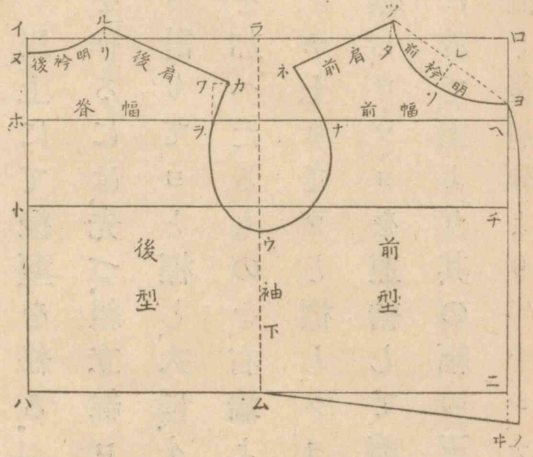


$\overline{イハ}$＝胴丈＋1　$\overline{イロ}$＝胸廻$\frac{1}{8}$＋2

$\overline{イホ}$＝$\overline{イハ}\frac{1}{4}$　$\overline{ホト}$＝$\overline{イハ}\frac{1}{2}$

女兒洋服身頃元型の割り出し方

第二圖



$\overline{イリ}$＝衿廻$\frac{1}{8}$

$\overline{イヌ}$＝1

$\overline{リル}$＝.5

$\overline{ホヲ}$＝脊幅$\frac{1}{2}$

$\overline{ラワ}$＝$\overline{イリ}$－1

$\overline{ワカ}$＝1

$\overline{ロヨ}$＝衿廻$\frac{1}{8}$

$\overline{ロタ}$＝衿廻$\frac{1}{8}$＋2

$\overline{ツタ}$＝1

$\overline{レソ}$＝1.5

$\overline{ネ}$＝組立線$\overline{イロ}$と第一線との間にて上より三分の一

$\overline{ツネ}$＝後肩幅－.5

$\overline{ヘナ}$＝前幅$\frac{1}{2}$

$\overline{ラム}$＝$\overline{カネ}$を二等分したる垂直線

$\overline{ウム}$＝袖下

$\overline{ニキ}$＝(胴丈＋1)$\frac{1}{10}$

$\overline{キノ}$＝.5

割り出し方說明　最初にイ・ロの組立線上に於てイより衿廻の六分の一を計りて、リを標し、イより一サンチ下りて、ヌを標し、又リより半サンチ上りて、ルを標し、少しく弓狀にヌ・ルを連結すべし。是れ後衿明なり。次に、脊幅の二分の一を第一線上に、左端

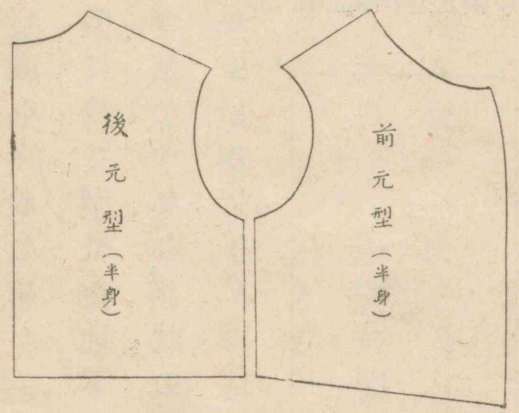
より計りて、ヲを標し、ヲより垂直に引き上げ、イリより一サンチ減じたる寸法を以てワを標し、之れより一サンチ右脇に寄りて、カを標し、ル・カを連結して直線を引くべし。是れ卽ち後肩幅なり。更にカよりヲ迄少しく刳りて、曲線を引けば、後の袖附となるなり。以上にて後型を終る。

前型を作るには、先づ、組立線ロ・ニの線上に、衿廻の六分の一を、上端より計りて、ヨと標し、次に、イ・ロの線上に衿廻の六分一に二サンチを加へたるものを、右端より計りて、タと標し、タより眞直に一サンチ上りてツと標し、ツヨの中央より一サンチ半程入りて、ソと標し、ツ・ソ・ヨを連結して、前衿明を作り、次に、イロと第一線との間に於て、上より其の幅の三分の一下りたる所に、假に横線を引き置き、後肩幅より半サンチ減じたる寸法をツより此の假

線にかけて計り、ネと標せば、ツネは卽ち前肩なり。次に、前幅の二分の一の寸法を、第一線上に、右端より計りて、ナを標し、少しく丸みを附けて、ネ・ナを連結する時は前の袖附となるなり。更にカネを二等分する垂直線ラムを作り、袖下の寸法を、此の線上に、下端より計りて、ウを記し、其れより、圖の如くヲ・ウ・ナを連結すべし。之れに前型を終る。

次に、ロニの組立線上にて、ロニの十分の一下りて、キを標し、ム・キを連結し、更にキより外へ半サンチ出して、ノと標し、ヨ・ノを連結する線を引くべし。之れ卽ち前下りなり。以上にて全く

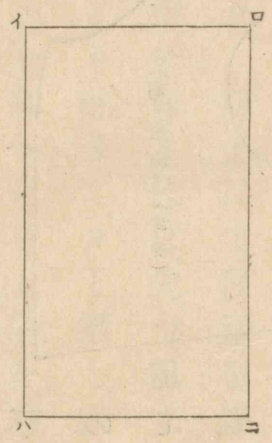
女兒洋服身頃元型



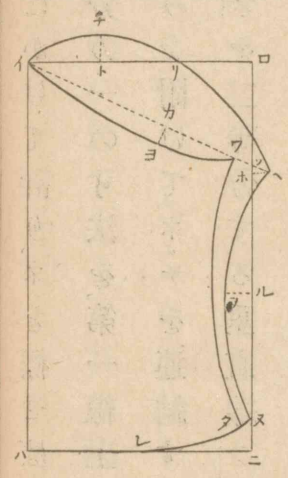
製型法を終るなり。

爰に於て、型紙を袖下より前後二つに分解し、前元型、後元型の二つとなすなり。此の方法は一・二歳より十一・二歳位まで用ひらるゝものなり。

女兒洋服
袖元型の組立線



女兒洋服
袖元型の割り出し方



$\overline{イハ}$＝袖丈

$\overline{イロ}$＝袖廻$\frac{1}{2}$＋2

$\overline{ロホ}$＝$\overline{イロ}\frac{1}{2}$

$\overline{ホヘ}$＝1

$\overline{イト}$＝$\overline{イロ}\frac{1}{3}$

$\overline{トリ}$＝$\overline{イロ}\frac{1}{3}$

$\overline{トチ}$＝2

$\overline{ヌニ}$＝$\overline{ホニ}\frac{1}{10}$

$\overline{ルヲ}$＝$\overline{イロ}\frac{1}{8}$

$\overline{ソソ}$＝1

$\overline{ソカ}$＝$\overline{イワ}\frac{1}{3}$

$\overline{カヨ}$＝1.5

$\overline{タヌ}$＝.5

$\overline{レニ}$＝$\overline{ハニ}\frac{1}{2}$

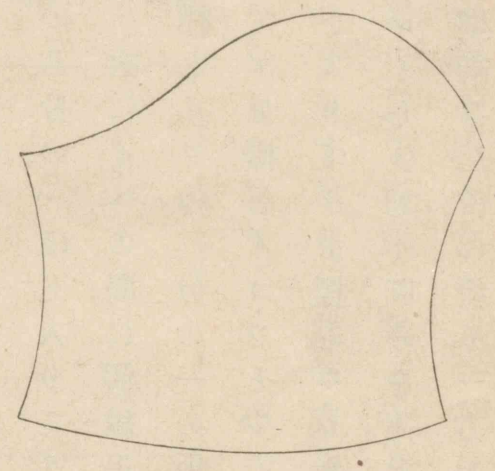
第二　袖元型

袖元型の組立線及び各部の割り出し方は次の如し。

割り出し方説明　先づ、組立線ロヘの線上に於て、ロホをイロの二分の一となし、ホより一サンチ外に出して、ヘと標しイロの三分の一をトとし、トより二サンチ上りてチと標し、又三分の二をリとし、圖の如く、イ・チ・リ・ヘを圓形に連結するなり。　次に、ニよりホニの十分の一上りて、ヌと標し、ヘヌの中央にて組立線よりイロの八分の一ほど入りて、ヲと標し、ヘ・チ・ヌを少し丸く連結すべし。　次に、イ・ヘの間に假線を引き、組立線より一サンチ入りて、ワと標し、イワの三分の一の所をカとし、之れより一サンチ半程入りて、ヨを標し、イ・ヨ・ワと少しく刳りて線を描き、尚ほヌより半サンチ入りてタを標し、タ・ワを連結して、圖の如く刳り、ハニの中央をレとし、少しく圓みを附けて、ヌ・タ・レを連結するなり。

型紙を二枚に折り一方を輪となし置き、上述の如く、各部の割

圖るたきを開型元袖服洋兒女



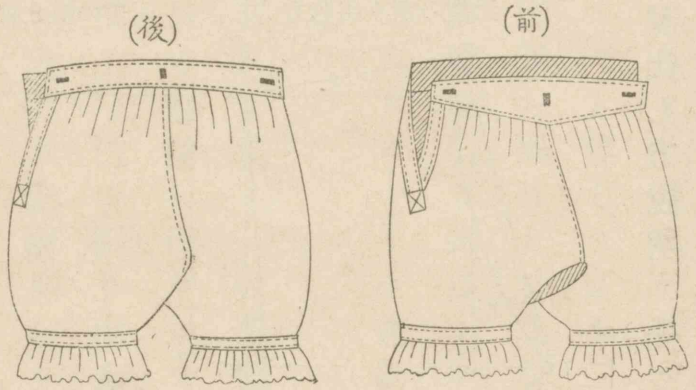
り出しを終らば、先づ、イ・チ・ヘ・チ・ヌ・レを切り、次に、上の一枚だけをイ・ヨ・ワ・タと切り、之れを開く時は上圖の如くなるなり。

第三節　女兒股引

第一　女兒股引寸法取り方

左の順序に依りて、寸法を取るべし。

女兒股引



一、丈　帶廻より膝まで
二、腰廻　腰部の太き所
三、帶廻　腹部の細き所

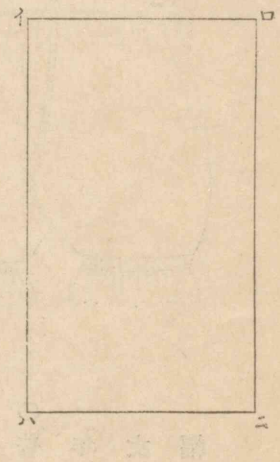
第二　女兒股引製型法

女兒股引元型の組立線及び各部の割り出し方は次の如し。

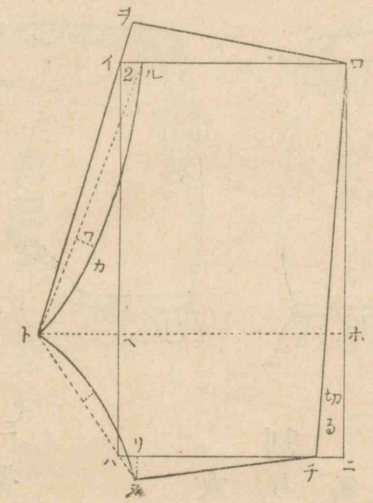
便宜の爲、組立線のイ|ハ・イ|ロ卽ち股引の丈・幅の普通寸法を掲ぐれば左の如し。

年齡	二・三歳	四・五歳	六・七歳	八・九歳
丈	三〇	三二	三五	四〇
幅	二一	二三	二五	二六

女兒股引
元型の組立線



女兒股引
元型の割り出し方



$\overline{イハ}$＝丈
$\overline{イロ}$＝幅

$\overline{ロホ}$＝$\overline{イロ}$
$\overline{ヘト}$＝$\overline{イロ}\frac{1}{3}$＋2
$\overline{ニチ}$＝$\overline{イロ}\frac{1}{8}$
$\overline{リハ}$＝$\overline{イロ}\frac{1}{8}$
$\overline{リヌ}$＝2
$\overline{イル}$＝2
$\overline{ソカ}$＝$\overline{トル}\frac{1}{3}$の所にて2
$\overline{イヲ}$＝$\overline{イロ}\frac{1}{6}$

割り出し方說明　先づ、組立線ロニの上に、イロと同寸法を以てホを標し、イロと平行にホヘ線を引き、ヘよりイロの三分の一に

二サンチを加へたる寸法を外へ出して、ヘトを引くなり。次に、ニよりイロの八分の一入りて、チと標し、又ハより同じく内に入りて、リと標し、リより二サンチ下りて、ヌと標し、チ・ヌを結び合すれば、卽ち裾口となるなり。又トヌの中央に於て一サンチ刳りて曲線を引き、次に、ト・ルの間トより三分の一の所にて、二サンチ内に入り、ル・カ・トを連結して曲線を引き、これにて前の部分を終るなり。

其れより、イロの五分の一の寸法だけ、イ點より上り、ト・イ・チを結びて直線を作り、ロ・ヲを連結する時は、後の部分となる。

以上寸法の割り出しを終り、型紙のト・ヲ・ロ・チ・ヌを裁ち切れば、則ち股引の元型となるなり。

〔注意〕八・九歳未滿の小兒用には、圖の如く、リの下へ二サンチ出して、チより斜線を

引くなり。是れ八九歳未滿の小兒の胯下は比較的短きが故なり。

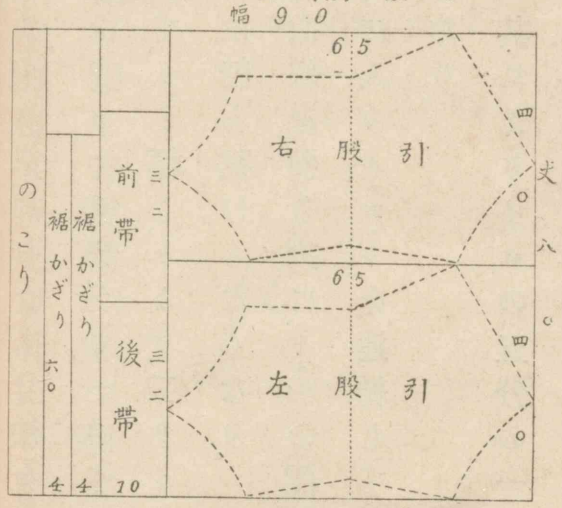
第三　女兒股引(四・五歳用)積り方・裁ち方

積り方　用布の丈は股引の丈の二倍に縫ひ代を加へたるものにて、其の幅は元型トホの二倍に縫ひ代を加へ、更に帶幅・裾飾等に要する布幅を加へたるものなり。

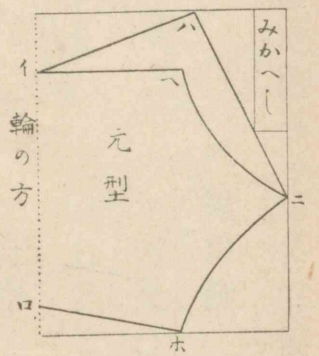
裁ち方

一、**身頃**　身の部分を切り放し、其の丈を二つ切りとなし、此の二枚を中表に重ね、更に幅を二つに折り、第一圖の如く、輪の方に、型紙のイ・ロの所を載せ、先づ外側のイ・ハ・ニ・ホ・ロを裁ち、次に、上の二枚だけイ・

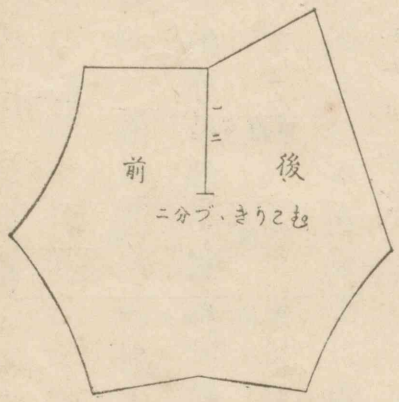
女兒股引(四・五歳用)の裁ち方



女兒股引元型の置き方
第一圖



女兒股引の身の開きたる圖
第二圖

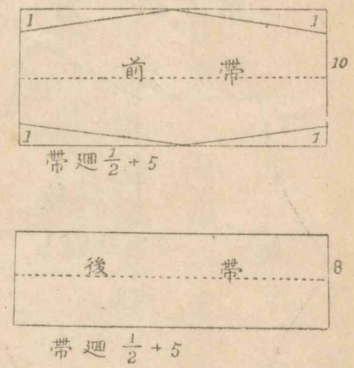


ヘ・ニと裁ち、之れを開く時は、第二圖の如くなるなり。其れより、前後の中央に、十二サンチ程縦に切り込みをなすべし。此の切り込みは年齡と共に増し行けども、十五サンチ位を程度とす。

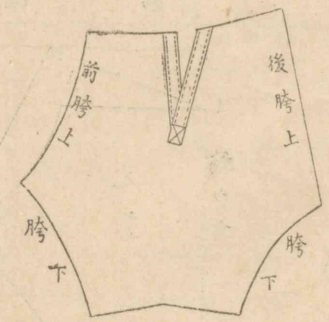
二、**帶**　帶の丈は前帶・後帶ともに、帶廻の二分の一に五サンチ位を加へ、前帶の幅を十サンチとして、四方の角を一サンチ裁ち落し、後帶の幅を八サンチとして、裁ち切るなり。

第四　女兒股引縫ひ方順序

帶の裁ち方



持出しの附け方

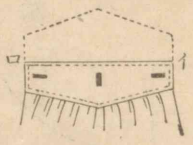


一、持出し切れ　中央切り込みの下を、更に左右へ二分程づつ切り込み、之れに持ち出しを附くるなり。其の出來上り幅は、左右の切り込みを合したる寸法とし、兩脇にミシンを掛け、後持ち出しを上にし、前持ち出しを前身頃の内に入れて、身頃を挾み、後持ち出しの先を折り曲げて、圖の如く留めミシンを掛く。

二、前後の胯上・胯下　前後の胯上を縫ひ合せ、縫ひ目は向ひ合ひになる樣、細く折り伏せてまつり、次に、前後の胯下を縫ひ合せ、縫ひ目は前に伏せてまつり置く。

裾口飾の附け方

帶の附け方



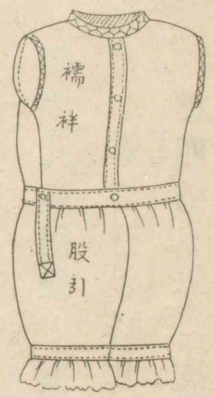
三、裾口飾　裾口飾の附け方は、裾口の二倍だけのレース又は共布を縫ひ縮めて、裾口の廻りに附け、其の上を七分位の見返し切れにて挾み、表よりミシンを掛く。

四、帶附　前帶の附け方は、前の上部を縫ひ縮め、帶布の尖りたる方を下に向けて附け、表よりミシンを掛け、帶幅を折りて、裏をまつり附け、上と兩脇とにミシンを掛く。後帶も亦後布を縫ひ縮め、前帶と同樣に附くるなり。

五、釦孔　釦の孔は前後とも帶の中央と左右の三個所に穿ち、上部に襦袢を着したる時、其の帶の釦に掛くるなり。

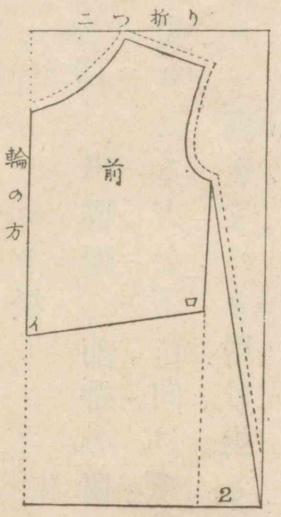
第四節　女兒襦袢

女兒襦袢の圖

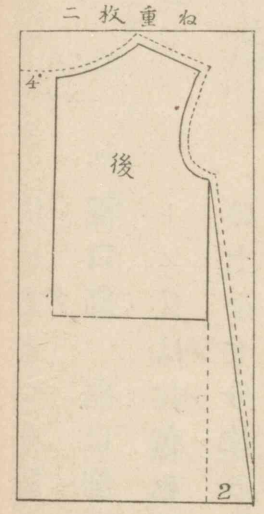


女兒襦袢の裁ち方

第一圖



第二圖

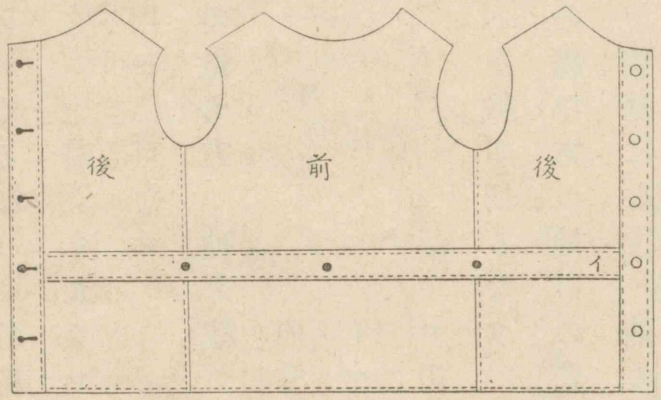


第一　女兒襦袢裁ち方

第一圖の如く、用布を二つ折りとなし、輪の方に前の元型の顎下の方を載せ、丈は元型より胴丈の寸法だけ延ばし、下脇は前幅イ|ロより二サンチ程延して、袖下より斜に線を引くべし。

次に、後布を二枚重ね、第二圖の如く、後の元型を布端より四サンチ程内に据ゑ、前身の如く、丈・幅を延し、縫ひ代を附けて裁ち切るなり。

女兒襦袢縫ひ合せの圖



第二　女兒襦袢縫ひ方順序

先づ前後の袖下を縫ひ合せ、後身の方へ折り、縫ひ込みを折り伏せてまつり、圖の如く、元型の下方に標を附け、其の上に四分幅程のテップ或は共布の帶を附け、兩脇にミシンをかけ、次に、後身頃の四サンチ持ち出しの端を一分折りて、表へ二サンチの幅に折り返し、兩脇にミシンをかけ、其れより、前後の肩を縫ひ合せ、後身の方へ折り伏せてまつり、裾は細く三つ折りにしてミシ

ンをかくるなり。冬着には袖を附くることあり、此の場合には、袖丈は上着より五サンチほど短くし、其の幅は標準寸法の袖幅を用ひて可なり。

袖の裁ち方　袖を裁つには、用布の幅を中表に二つに折り、各部の寸法を標し、圖の如く裁ち切るなり。即ちイロを袖廻の二分の一、イハを袖丈、イホをイロの三分の一、ハヘをイロの四分の一とし、ロ・ホ・ヘを裁ち切るなり。

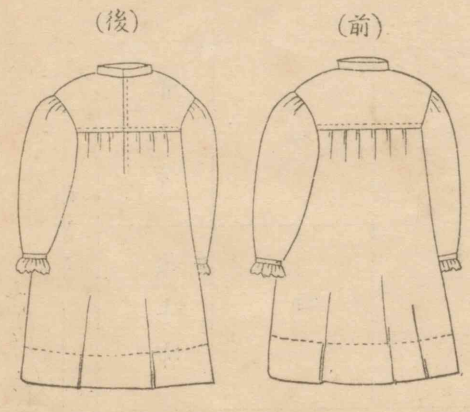
袖の縫ひ方　袖口の先にレースを附け、又は三つ折りになし、袖下を袋縫になす。袖の附け方は、袖下の縫ひ目を、身頃の脇の縫ひ目より、三サンチ程前身の方へ出して、待針を打ち、其れより、左右へ割りて、平に躾をかけ、袖幅の餘りたる所は左右の肩の縫ひ目の所にて、縫ひ縮め置くなり。

第五節　胸繼形女兒洋服(四・五歳用)

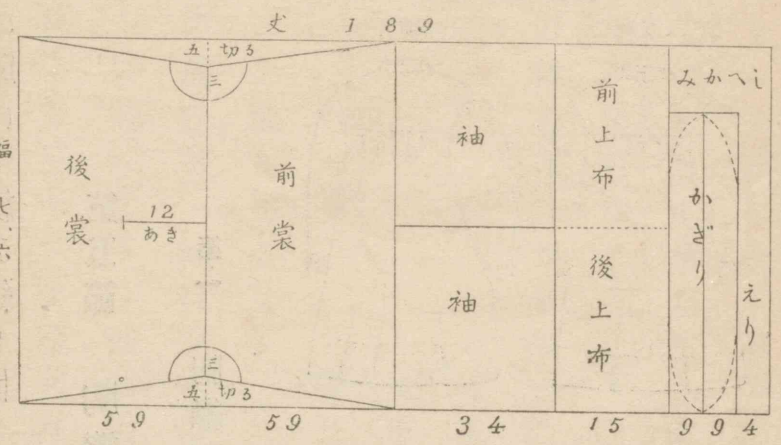
第一　胸繼形女兒洋服積り方

用布を積るには、前に掲げたる標準寸法の總丈五十九サンチ、腰廻七十二サンチ、袖丈三十サンチを知り、之れを基礎として、用布を割り出すなり、其の方法は次の如し。

胸繼形女兒洋服



胸繼形女兒洋服の積り方



積り方

裳丈×2＋袖丈＋前後上布＋飾布＋衿＝用布の總尺
59 ×2× 34 ＋ 15 ＋ 18 ＋ 4 ＝ 189

裳の丈＝總丈
59

裳の幅＝腰廻×2＝144
72 ×2

袖丈＝袖丈＋弛み＝34
30 ＋ 4

袖幅＝袖廻＋弛み＝38
28 ＋ 10

前上布丈＝胴丈$\frac{1}{2}$＋弛み＝15.5
23×$\frac{1}{2}$＋ 4

前上布幅＝前幅＋弛み＝30
22 ＋ 8

後上布丈＝胴丈$\frac{1}{2}$＋弛み＝15.5
23×$\frac{1}{2}$＋ 4

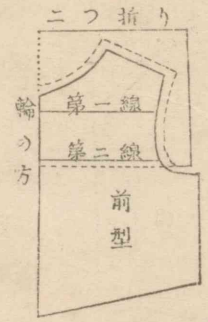
後上布幅＝背幅＋弛み＝32
22 ＋ 10

〔注意〕凡べて裳の丈は標準寸法の總丈に依ると雖も、若し、身頃を長くする時は裳を短くすべし。胸繼形の如く、胸の所卽ち胴丈の二分の一の所に、裳を附くるには、裳はそれだけ長く裁ち切るなり。

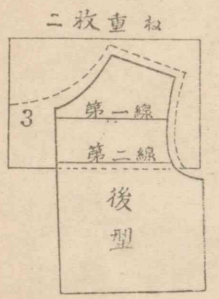
第二　胸繼形女兒洋服裁ち方

一、前上布　先づ前圖の如く各部分の布を裁ち切り、其れより、前上布の幅を二つに折り、圖の如く輪の所に前元型の顎下を合せ、下方に第二線を合せて、元型を据ゑ、チョークにて標をなし、廻りに縫ひ代を加へて、裁ち切るなり。

前上布の裁ち方



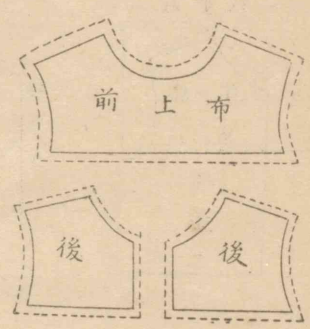
後上布の裁ち方



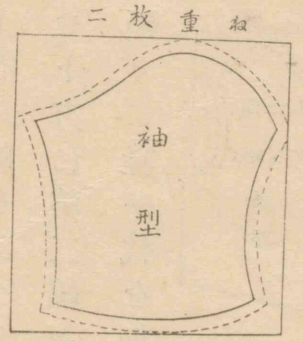
二、後上布　後上布を二つに折り、布端より三サンチ入りて後元型を据ゑ、前布の如く、第二線まで縫ひ代を附けて裁ち切るなり。裏は別布とし、前後ともに、表布に合せて裁ち切るなり。

三、裳　前圖中、前後裳の中間の線は卽ち胸布に縫ひ合す所にして、其の兩脇を、五サ

圖　前後の布を開きたる



方ち裁の袖



ンチ程づつ、裾より斜に裁ち落し、再び其の所を三サンチづつ丸く裁ち込みて、袖明となすなり。

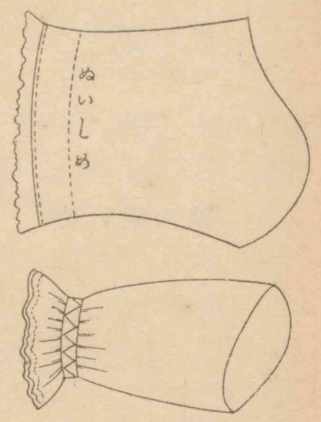
四、袖　二枚の布を重ねて、其の上に袖元型を載せ、標をなし、縫ひ代を附けて、裁ち切るなり。

第三　胸繼方女兒洋服縫ひ方順序

一、袖　袖口を三つ折りとなし、先づレースを附け、三サンチ入りたる所に於て、凡そ五寸程に縫ひ縮め、其の上に縫取テップを附け、兩脇をミシンにて押へ、其れより、袖下を合せて袋縫になすなり。

或は共布を三分程の幅に

方ひ縫の袖



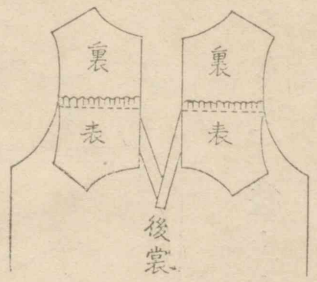
方け附の布上前

二、上布と裳　前裳の上部を縫ひ締め、表裏の前上布に挾みて、之れを縫ひ合せ、次に、後裳の中央を十二サンチ程縦に切り込み、左の方に持ち出し、右の方に見返しを附け、(出來上り幅は一サンチ半位とす)前裳と同樣に後裳の上部を縫ひ締め、(後上布は、打ち合せとして、脊幅より三サンチ程廣く裁てるを以て、後裳も亦脊幅より左右各、一サンチ半程廣く縫ひ縮むるなり。)後上布と縫ひ合せ、其れより、前後の裳の兩脇を袋縫になし、後身の方へ折り、裾廻を五・六サンチの幅に折り伏せて、ミ

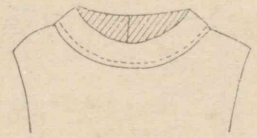
シンをかけ、終りて、前後の肩を表裏別々に縫ひ合せ、縫ひ目を開くなり。

三、**衿附**　衿は斜に裁ち切り、縫ひ代を折りて身頃の上に載せ、表よりミシンをかけ、幅は二サンチ程とし、裏へ折り伏せてまつるなり。

後上布の附け方

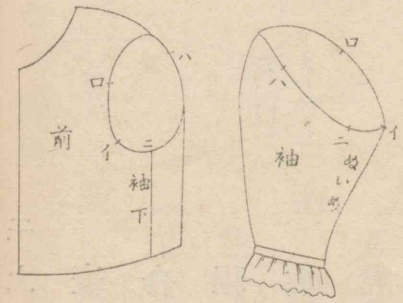


衿の附け方



四、**袖附**　圖中袖のイは縫ひ目の所にて前袖となり、ニは之れより四・五サンチ入りたる所にして、ロは上袖となり、ハはニより續きて下袖となるなり。

袖の附け方



先づ、袖のニを身頃袖下のニに合せて待針を打ち、袖の縫ひ目イを身頃のイに合せ、ロ(肩より前へ六・七サンチ下りたる所)まで袖を附け行き、次に、ロよりハ(肩より三・四サンチ後身の方へ下りたる所)に到る間に躾をかけ、殘りの袖幅を前肩・後肩の所にて縫ひ縮めて附け、縫ひ目にはミシンをかけ、テップ或は細き布にて緣を取るなり。

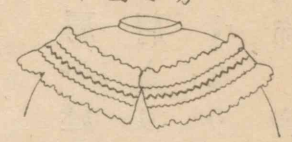
〔注意〕袖附は極めて複雜なるを以て、能く注意せざる可からず。袖の凹形の所は前より上袖となる方にして、凹形の所は袖下より後袖廻に附く方なり。

肩の縫ひ縮めは袖の刳り方により多少の差はあれども、通常肩より前の方を六・七サンチ許りとし、後の方を其の半分となすなり。

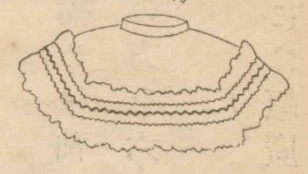
五、**胸飾**　胸飾には幅廣のレース又は共布を用ひ、胸明は元型の

方け附の飾胸

圓き方



角の方



第二線の邊に止め、圓く又は角に附くるなり。胸飾の幅は出來上り九サンチ位、長さは胸廻の二倍と見積れば十分なり。

第二章　男兒洋服

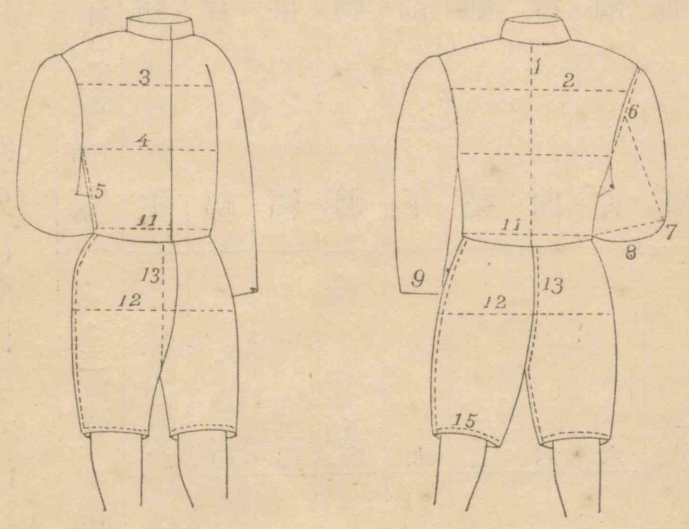
第一節　男兒洋服寸法取り方

一　身頃

1 胴丈　衿廻より腹廻の所まで
2 脊幅　後兩袖附の間
3 前幅　前兩袖附の間
4 胸廻　胸部の周圍
5 袖下　脇下袖附より帶の所まで

二　袖

男兒洋服寸法取り方



6 袖廻　袖附の周圍
7 肱曲　袖丈の內、肱の曲り迄
8 袖丈　袖附より手頸まで
9 袖口　掌の周圍に二サンチの弛みを加ふ

三　半ズボン

10 脇丈　腹廻の所より下脚の中程まで
11 帶廻　腹部の周圍
12 腰廻　腰の太き所の周圍
13 胯上　前帶より後帶までメートルを當てゝ其の二分の一を取る
14 胯上　胯上以外の丈
15 裾口　下脚の周圍に十サンチの弛みを加ふ

男兒洋服標準寸法

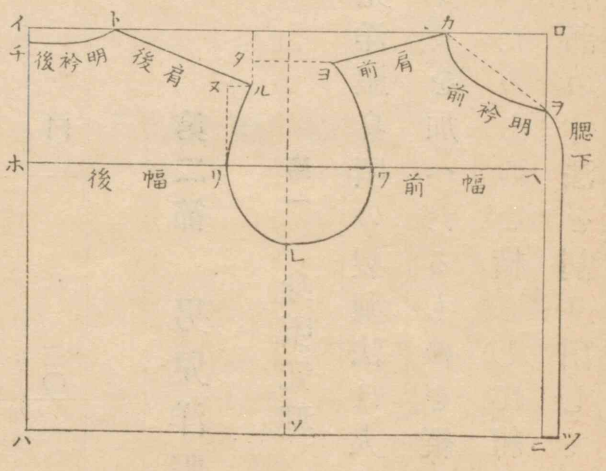
各部の名稱＼年齡	二・三歲	四・五歲	六・七歲	八・九歲
胴丈	二〇	二四	二六	二八
脊幅	二〇	二二	二四	二五
前幅	二〇	二二	二五	二六
胸廻	五〇	五六	六二	六六
袖下	九	一〇	一一	一二
袖廻	二七	二九	三〇	三二
肱曲	一六	一八	一九	二二
袖丈	二六	三〇	三四	三六
袖口	一八	二〇	二二	二四
脇丈	三七	四〇	四五	五〇
帶廻	五六	五八	六〇	六二
腰廻	六〇	六四	六八	七八
胯上	二〇	二一	二二	二三
胯下	一七	一九	二三	二七
裾口	三〇	三二	三四	三四

第二節　男兒洋服製型法

第一　身頃元型

男兒洋服身頃の製型法は大略女兒洋服に同じ。先づ、胴丈に一サンチを加へたるものを縦とし、胸廻の二分の一に三サンチを加へたるものを横として、組立線を描き、次に、此の線上に、圖の如く各部の寸法を割り出して、元型を作るなり。

方し出り割の型元頃身服洋兒男



$\overline{イロ}$＝胸廻$\frac{1}{2}$＋3

$\overline{ホヘ}$＝$\overline{イハ}$$\frac{1}{3}$

$\overline{イチ}$＝1

$\overline{リヌ}$＝$\overline{イト}$

$\overline{ヘソ}$＝前幅$\frac{1}{2}$

$\overline{ロカ}$＝$\overline{ロヲ}$＋2

$\overline{カヨ}$＝後肩－.5

$\overline{ニツ}$＝1

$\overline{イハ}$＝胴丈＋1

$\overline{イト}$＝脊幅$\frac{1}{6}$＋5

$\overline{ホリ}$＝脊幅$\frac{1}{2}$

$\overline{ヌル}$＝1

$\overline{ロヲ}$＝前幅$\frac{1}{4}$－1

$\overline{タヨ}$＝$\overline{イロ}$とルとの間を二分したる線

$\overline{レソ}$＝袖下

割り出し方説明　先づ、組立線イ・ロ・ハ・ニを描き、上方よりイハの三分の一の所にホヘの線を引き、次に、脊幅の六分の一に半サンチを加へてイよりトを標し、イより一サンチ下りたるチと少し

く圓く結びて後衿明を作り、ホ・ヘ線上に脊幅の二分の一の寸法を以てリを標し、リより垂直に上り、イトと同寸にヌを標し、右へ一サンチ出してト・ルを結べば後肩となる。其れより、ル・リを刳りて後袖附を作り、之れにて後型を終る。

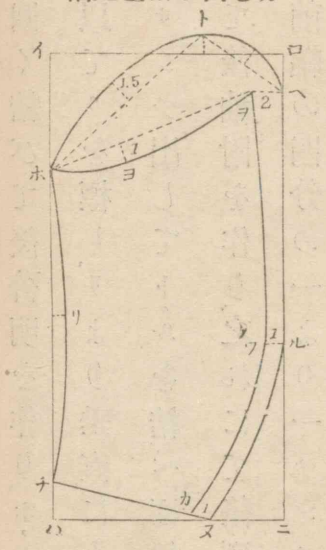
前幅の四分の一より一サンチを減じて、ロヲを標し、ロチに二サンチ加へてロカを標し、カヲの中央にて一サンチ半程刳りて前衿明を作り、次に、イロ線とルとの間を二分してタヨ線を引き、カより此の線にかけ、後肩より半サンチ減じたる寸法を計りてヨを標せば、カヨは卽ち前肩なり。其れより、前幅の二分の一をヘワと標し、ヨワを刳りて前袖附を作り、ヨ・ル間を二等分したる垂直線を作つて、其の線上にレソと袖下を度り、ワ・レ・リと袖刳りの所を連結し、ニより一サンチ外へ出してチ・ツを結べば、之れに

て、前型を作り終れるなり。後ち、袖下より分解して、前元型・後元型の二つとなすなり。

第二　袖元型

先づ、袖廻の二分の一をイロとし、袖丈にイロの六分の一を加へたるをイハとして、組立線を描き、此の線上に、圖の如く、割り出し寸法の標をなすなり。

男兒洋服
袖元型割り出し方



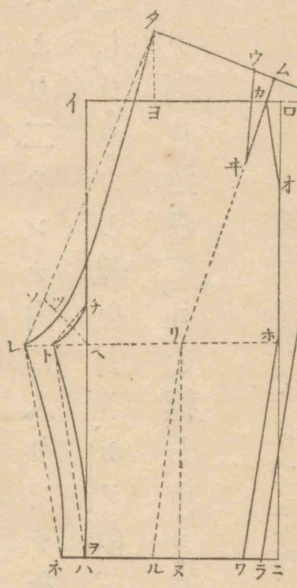
イロ＝袖廻$\frac{1}{2}$
イハ＝袖丈＋イロ$\frac{1}{6}$
イホ＝イロ$\frac{1}{2}$
ロヘ＝イロ$\frac{1}{6}$
ロト＝イロ$\frac{1}{3}$にて1上る
チハ＝ホハ$\frac{1}{10}$
リ　＝ホチ中央にて1入る
チヌ＝袖口$\frac{1}{2}$
ヘル＝肱曲
ヘワ＝2
ワル＝1
カヌ＝1
ヨ　＝ホワの$\frac{1}{3}$にて1入る

割り出し方説明　先づ、イロの二分の一の寸法を以て、イホを標し、イロの六分の一を以てロヘを標し、次に、ロよりイロの三分の一の所に、一サンチ上りてトを標し、トホ・トヘの中央にて、左は一サンチ半、右は一サンチ刳りて、ホ・ト・ヘを圓形に結び合せ、次に、ホハの十分の一をチハとし、ホチの中央リの所にて一サンチ刳りて、ホ・リを連結し、チヌを袖口、ヘルを肱曲の丈とし、ル・ヌを少しく丸みを附けて結び、之れにて外袖を終る。

ヘより二サンチ内に入りてチを標し、ル・ヌの一サンチ内をワ・カとし、チ・ワ・カの線を引き、ホヲの三分の一ホに寄りたる所を一サンチ刳り込みて、ヨを標し、ホ・ヨ・チを結び、内袖を終るなり。

第三　半ズボン元型

半ズボン
元型の割り出し方



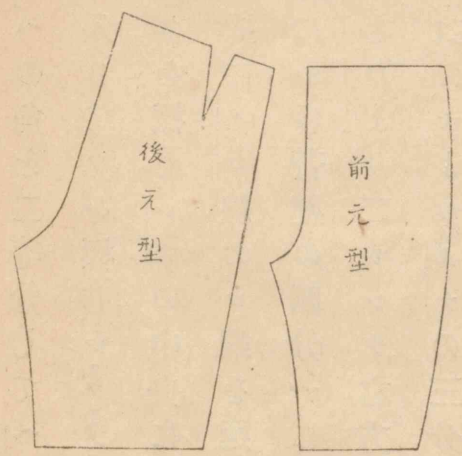
イロ＝腰廻$\frac{1}{4}$
イハ＝脇丈寸法
ロホ＝胯上寸法
ヘト＝イロ$\frac{1}{4}$
ヘチ＝イロ$\frac{1}{4}$
ホリ＝イロ$\frac{1}{2}$
ニヌ＝イロ$\frac{1}{2}$
ヌル＝イロ$\frac{1}{8}$
ヲワ＝裾口$\frac{1}{2}$－2
（ルを中央とす）
ロヲ＝ロホ$\frac{1}{3}$
ロカ＝1
イヨ＝イロ$\frac{1}{3}$
ヨタ＝イロ$\frac{1}{3}$
トレ＝イロ$\frac{1}{3}$
ソツ＝3
ヲネ＝2
タナ＝帶廻$\frac{1}{4}$＋5
ワラ＝2
ムナ＝タナ$\frac{1}{3}$
ムウ＝2
ウキ＝7又は8

先づ腰廻の四分の一をイロとし、脇丈をイハとして、組立線を描き、此の上に割り出し寸法を標すなり。

割り出し方説明　先づ、組立線の上に、胯上の寸法を以てロホを標し、イロと平行してホヘの點線を引き、ヘよりイロの四分の一づゝ計りて、ト・チを標し、チトの中央を一サンチ刳りて、曲線を作り、次に、ホリ・ニヌをイロの二分一として、リヌの點線を引き、更にヌよりイロの八分の一左に、ルを標し置き、裾口の二分の一より二サンチ減じたる寸法を更に二分して、ルの左右にヲ・ワを標し、トチの中央にて一サンチ刳り込み、次に、ロホの三分の一の所にオを標し、ロより一サンチ入りてカを標し、カ・オを結べば前の部は終る、即ちイ・カ・オ・ホ・ワ・ヲ・ト・チを連結すればズボンの前元型を得るなり。

後元型を作るには、先づ、イよりイロの三分の一の所にヨを標し、ヨよりイロの三分の一上りてタを標し置き、トの左へイロの五分の一出してレを標し、タレを結びて直線を引

半ズボン元型



き、への角を二等分してヘソ線を引き、其の交叉點ソより三サンチ入りてツを標し、レ・ツ・タを刳り、次に、チより二サンチ左へ出してネを標し、レネの中央にて一サンチ刳るなり。

次に、イロ線のロ端を延ばして、點線を引き置き、タより此の點線にかけ、帶廻の四分一に五サンチ加へたる寸法を計りてナを標し、ワより二サンチ右方へ出でたるラと連結するなり。

次に、ナよりタナの三分の一の所をムと標し(此の所にペンスを作るなり)之れよりリまで、點線を引き置き、更にムより二サンチ離れてウを標し、ウより七・八サンチの寸法をムリの點線上に計りて、キを標し、ウ・キ・ムの三角の所を撮むなり。以上にて後の部を終れり。即ちレ・ツ・タ・ナ・ラ・ネの諸點を連結すれば、ズボンの後元型を得るなり。

第三節　折衿男兒洋服(四・五歲用)

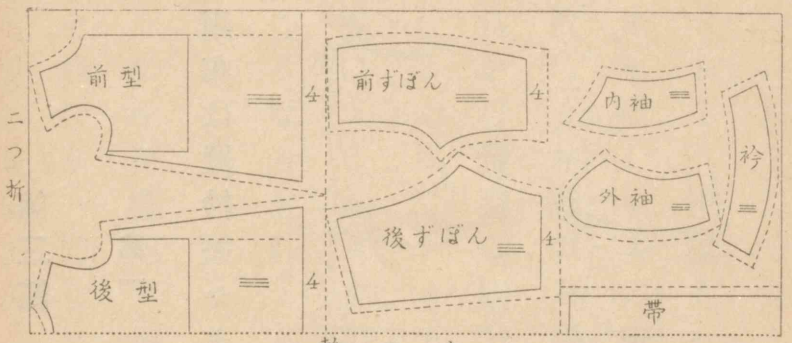
第一　折衿男兒洋服裁ち方

圖の(用歲五・四)服洋兒男衿折

用布は羅紗一ヤール半とし、幅を二つに折りて、左の如く裁ち切るなり。

一、**身頃**　輪の方へ後元型の脊の方を据ゑ、イロ・ハニの胴丈の寸法だけ延し、ニの脇に二サンチ、袖下の脇に一サンチ出して、直線を引き、チョークにて標をなし、周圍に縫ひ代を附け、裾は四サンチ許り長く取りて裁ち切るなり。

方ち裁の服洋兒男衿折

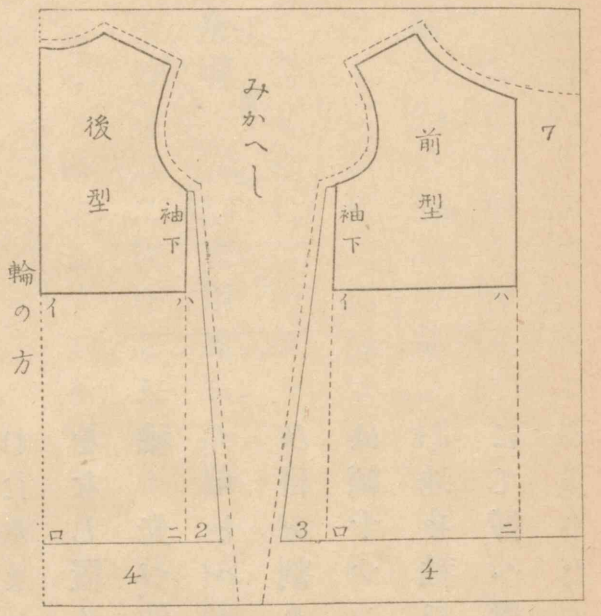


前身は前元型を布端より七サンチ内に据ゑ、イ・ロ・ハニを後丈と同じく引き延し、口の脇に三サンチ出し、袖下に一サンチ出して、直線を引き、イの脇に一サンチ刳り込み、周圍に縫ひ代を附け、裾を四サンチとして、裁ち切るなり。

二、**ズボン**　前後ズボンの元型を圖の如く据ゑ、各部に二サンチ位の縫ひ代を附け、裾を四サンチ位に裁ち切るなり。

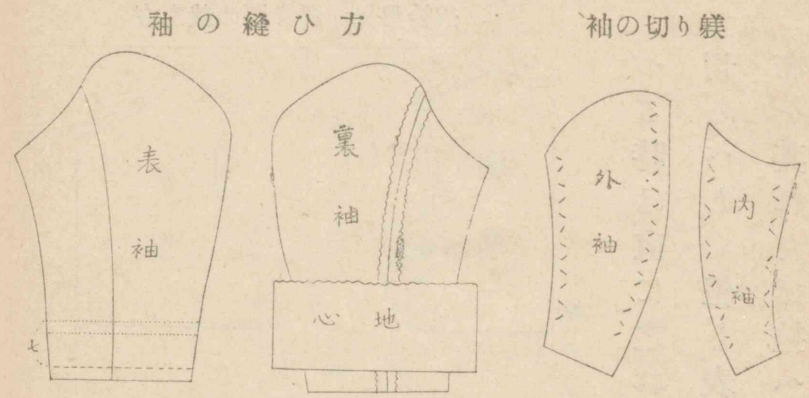
三、**袖・衿**　外袖・内袖に元型の如く標をなし、袖口に二サンチの縫ひ代を附けて、裁ち切り、衿は衿型を作り、型紙に倣ひ

方ち裁の頃身服洋兒男衿折



て標をなし、縫ひ代を附けて裁ち切るなり。

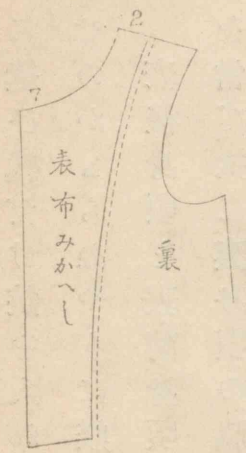
總べて、用布を裁つには、布地に明の生ぜざるやう型紙を置くべし。但し、型紙は布の縦目に沿ひて置くこと肝要なり。圖中|||印は竪目を示せるなり。毛織物には竪目と逆目とあり。手にて撫づる時は、直に之れを知り得べし。裏布は表布に倣ひて裁ち切るべし。但し、表布にて前身頃に見返しを附くるときは、裏布を其れだけ控へて裁ち切るなり。



第二　折衿男兒洋服縫ひ方順序

一、切り躾　裁ち切りたる布を二枚づつ重ねたるまゝ、チョーク標の通りに切り躾をなし置く。

二、袖　先づ、外袖と内袖との肱曲の方、即ちイロとハニとを合せて、ミシンをかけ、縫ひ目を割りて、少しく濕して鏝を當て、裏には幅十サンチ位の斜目のキャラコ又は心地を袖口の縫ひ代より上方に當て、躾にて押へ置き、袖口の縫ひ代より七サンチ上りたる所に一段、或は一サンチ位の



間隔にて二段に表よりミシンをかく。

次に、下袖を合せてミシンを掛け、縫ひ目を割りて鏝を當て、袖口先の表布の縫ひ代を折り返し、裏の心地に千鳥にて縫ひ附くるなり。裏袖は表袖の幅より少しく狹く、縫ひ合せ、表袖と合せ、袖口は一サンチ程短くして、まつり縫をなす。

三、身頃　先づ表用布にて前身頃の見返しを裁つ。見返しは用布の有無に依れども、衿より肩に二サンチ位かゝるを度とす。裾の方はせまくとも可なり。見返しを裁ち切らば、其の上に裏布を折り伏せ、ミシンにて縫ひ合せ、前身頃の表裏を合せ、衿先七サンチ持ち出したる所より、折れ曲りて裾まで、ミシンをかけ、七サンチの所

に縫ひ代だけ鋏を入れ、縫ひ目を割りて鏝を當て、縫ひ目に被せのかゝらぬやうに躾をかけ置く。

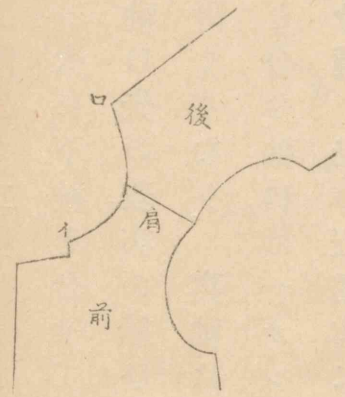
表後身頃と表前身頃との脇を縫ひ合ひ、縫ひ目を割りて鏝を當て、次に、裏身頃の脇を合せ、表身の弛まぬやう注意して縫ひ合すべし。

裾を折り伏せ、裾より一サンチ上りたる所に、表よりミシンをかけ、裏の裾を一サンチ短くして、まつり附く。

表布の肩を縫ひ合せ、縫ひ目を割り、裏布は前身を下に、後身を上にして折り伏せ、まつり縫をなす。

四、衿取り方　圖の如く、前切り込みの

方り取衿

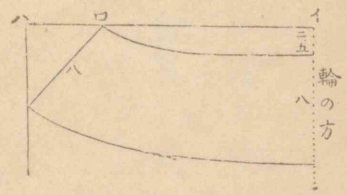


所(イ)より、後衿明の中央(ロ)までの寸法を度りて、型紙にイロを標し、ロハをイロの四分の一とし、イとハとより垂直線を引き、イの下に二サンチ半下り、ロまで弓狀に線を引き、ロよりハの垂直線にかけて八サンチを標し、同幅にてイの垂直線まで連結するなり。

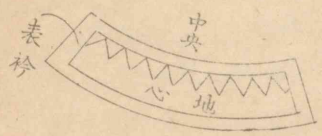
此の型紙によりて、心地一枚を裁ち、廻りに縫ひ代を附けて表衿二枚を裁つ。

衿附　一枚の表衿に心地を當て、躾にて押へ、圖の如く、衿元に山形に飾ミシンをかけ、其の中央を後衿肩明の中央に合せて、待針を打ち、前身の切り込みまで、左右へ躾をかけ、ミシンにて縫ひ合せ、縫ひ目を割りて鏝を當て、他の一枚の表衿を取りて、之

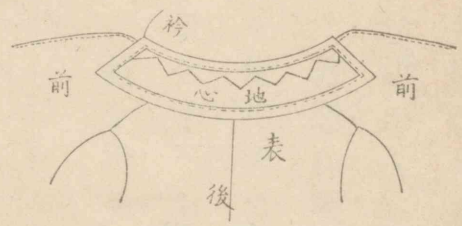
方り取衿



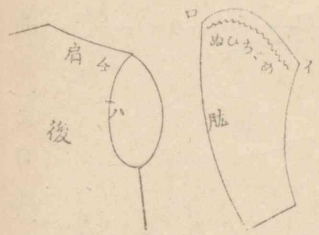
方け附の衿



方け附の衿



方け附の袖



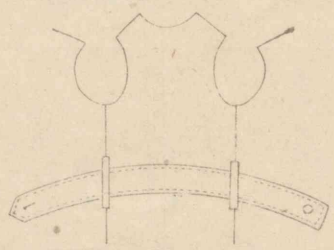
れを中表に合せ、心地の際の廻りにミシンをかけ、折り返して、衿先の縫ひ目に綴ぢ附け、裏身頃を其の上に載せてまつり、表衿廻りの一サンチ内に、飾ミシンを掛く。

五、**袖附**　先づ袖山の所を細かに縫ひ縮め置き、肱の縫ひ目を後身頃の肩より四サンチ下りたる所(ハ)に合せ、其れより前身に向け、少しく内袖を弛めに躾をかけ、袖山の縫ひ締めの絲を引き、縮みの目立たぬやう消して縫ひ、袖の方へ折り、裏袖を折り伏せてまつる。裏袖をまつるには、能く注意して、表裏の肱の縫ひ目を合すべし。

六、**帶つり紐**　袖下十二サンチ程下りたる左右の脇の縫ひ目に、一サンチ幅の紐を、帶幅より少し廣くして附く。帶は此の中を通し前にて合すなり。

七、**釦孔**　右上前に三個所、二寸五分程の間隔に釦孔を穿ち、下前に釦を附け、左の三個所には飾釦を附け置くなり。釦を附くるには、衿をよく合せ、孔の位置に相對するやう注意すべし。

紐つりび及帶

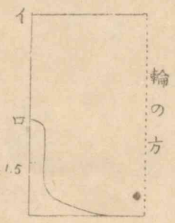


八、**帶**　帶は心地を五サンチの幅に、丈を帶廻りの寸法より十サンチ許り加へて裁ち切り、一端を三角に切り、表布にて心地を包み、躾をかけ、周圍に二段の飾ミシンをかけ、三角の方へ釦孔を穿つなり。

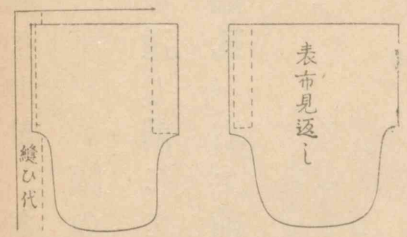
九、**ズボン**

隱し・見返し・脇縫　隱し切れの丈は胯上の寸法に三サンチを加へたるものとし、幅は腰廻の三分の一とす。先づ、裏布にて、隱し切れ二枚を裁ち、其の幅を二つに折り、袖口の寸法より四サンチ加へてイロを標し、下方を一サンチ半切り込み、角の所を圓形に裁ち切り、次に、布を開きて、一方のイロに、表布にて二サンチ半ほどの見返しを附け、周圍にミシンをかけ、前ズボン脇縫ひ代の一分ほど外に、隱しの他方のイロを縫ひ附け、ズボンの縫ひ代より裏に折り伏せて、表の上より三サンチ下りてロの所まで、圖の如く、隱し切れと共に飾ミシンをかけ、其れより、隱しの底を見返しの內になるや

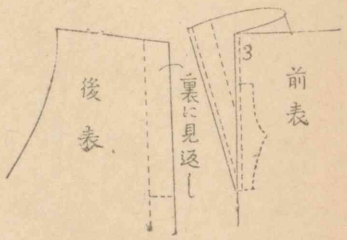
隱し切れの裁ち方



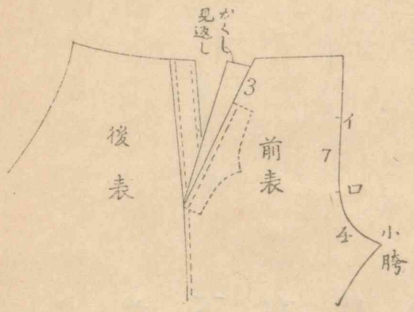
隱しの附け方
第一圖



隱しの附け方
第二圖



脇及び前ひ合せの縫上胯方

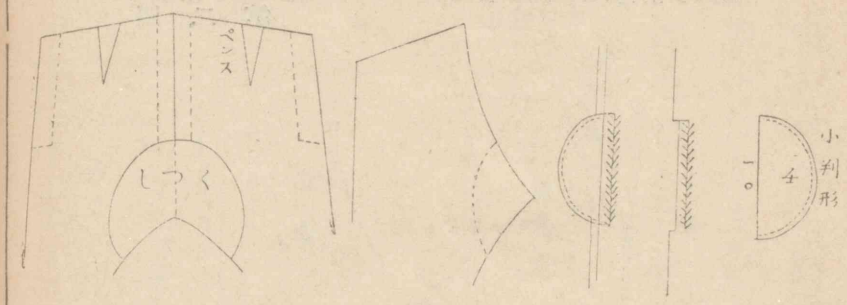


う袋縫になす。

次に、後ズボンの脇縫ひ代の裏に、上より隱しのイロの寸法だけ、裏布にて見返しを附け、(幅は脇縫ひ代いつぱいとす。)然る後ち、ズボン見返しの下部に、前ズボンの飾縫の終りを載せ、前ズボンの縫ひ代標より折り伏せ、後ズボンの縫ひ代標に合せて躾をかけ、飾ミシンの終りより續きて裾まで、ミシンをかく。

前・胯・上・前ズボンを合せて、小胯の曲りたる所に、四サンチミシンをかけ、イロを七サンチ程あけて、イより上に亦ミシンをかけ、

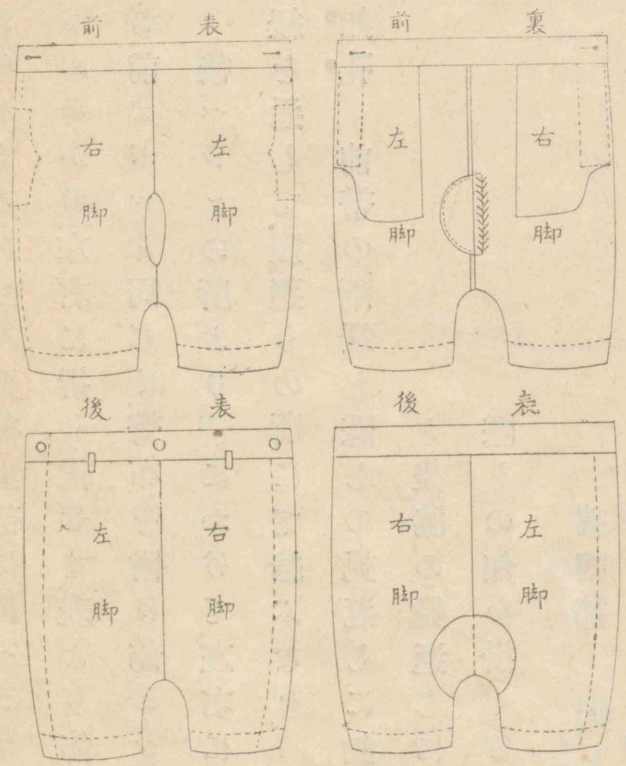
小判形の當て方　　シックの附け方



次に、表布にて圖の如く小判形二枚を裁ち切り、之れを合せて、圓き方へミシンをかけ、前ズボンの縫ひ目に向つて、右の一枚に、イ・ロの上下一サンチ程離れて、横に鋏を入れ、切り目を右方に折り伏せて、千鳥縫になし、上下の縫ひ代は左方の縫ひ代と一緒になし、小判形を此の口に蓋の如く當て、縫ひ代に鰐をかけ、小判形と共に、縫ひ代を細き縁切れにて包み縫ひになす。

後・胯・上・胯・下・　後胯上を縫ひ合せ、縫ひ目を割りて鏝を當て、シックの丈を後胯上イ—ロの三分の一として、圓形にシックを取り、之れを胯

半ズボン出來上りの圖



上の縫ひ目の上に當て、周圍をまつり、下端を少しく殘し置き、胯下を合せて、ミシンをかけ、縫ひ目を割りて鏝を當て、縫ひ込みの上に、シックを折り伏せてまつり、裾を標より折り伏せて、千鳥縫になすなり。

帶・　前上部には隱しと共に帶布を附くるなり。帶布の幅は三サンチ位にして、四方へ飾ミシ

ンをかくるなり。又後上部にはペンスを一サンチ撮みてミシンをかけ、左右に折り伏せて、表より飾ミシンをかけ、然る後ち、前ズボンと同じく、帶布を附け、飾ミシンをかくるなり。

後ペンスの所より帶にかけて、左右に紐つりを附け、之れに紐を通して、腹廻りの所にて結ぶなり。

釦孔　前帶の兩端と隱しの見返しに、釦孔を穿ち、後帶の兩端と後脇の見返しに、釦を附け、着用の後ち、隱しの釦を掛くるなり。

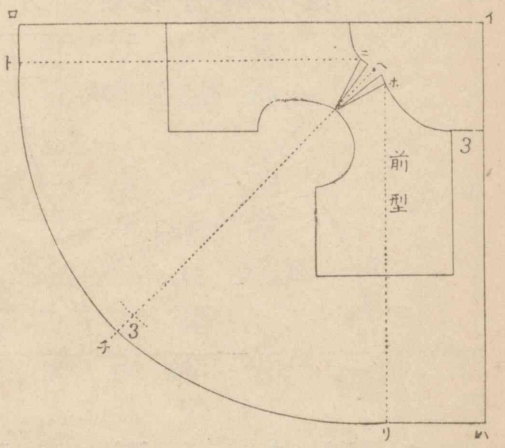
第四節　廻し外套

第一　廻し外套裁ち方

型紙の作り方　圖の如く、直角にイロ・イハの二線を引き、イロ線に後元型、イハ線に前元型を合せ、兩肩の端を突き合せ、後肩のニと前肩のホを一サンチ半づつ延し、ニより適宜の寸法を計りてトを標し、ニホの中央にヘを標し、ヘより肩先の合せ目に定規を當て、點線を下方に引き、ニトより三サンチ增してチを標し、後丈ニトと同じく前丈のホリを標し、ト・チ・リを圓形に連結するなり。後のトロと前のリハの間は平に線を引き、前に三サンチ打ち合せの幅を取り、ヘよりチを裁ち切りて、二枚となすなり。

圖の套外し廻

方り作紙型套外し廻

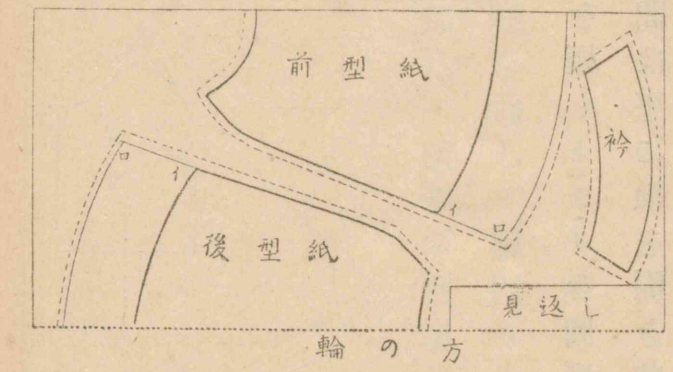


裁ち方　身丈は兒童の身長によりて一定せず。短き時は一枚

の布にて、型紙のイロを布の輪の方に合せて、兩型紙を据ゑ、型紙の如く裁ち切り、ホニを縫ひ合せてベンスを作り、への所を裁ち切り、縫ひ目を開き置くなり。長き時は次圖の如く後型紙を布の輪の方に當て、裾の方は適宜の長さに、型紙の下部をイロと引き延し、前型紙を逆に据ゑ、型紙の下部は後と同じくイロと引き延すなり。

但し、羅紗に逆目ある時は、此の裁ち方を用ひがたし。然る時は竪目に沿いて型紙を据ゑ、其の餘地にて衿・頭巾・見返しを取るべし。

衿は折衿にして、衿幅は九サンチより

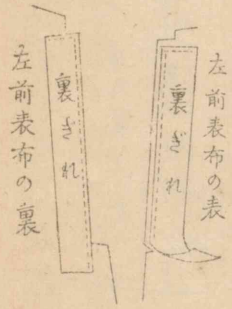


方ち裁の套外し廻

十サンチ位とす。折衿の取り方は既に述べたる如し。

第二　廻し外套縫ひ方順序

一、見返し・左身頃　先づ、裏身頃兩前に、表布にて幅十サンチ位の見返しを附け、裏布の方へ折り返して、裏布の上にミシンをかけ、次に、裏布にて幅五サンチ、丈三十五サンチ位の見返し二枚を裁ち、一枚を左前表布の表の方に當て、三サンチ持ち出しの角より折れ曲りて、下方三十二サンチ程の所まで、縫ひ合せ、上方の折れ曲りたる所に鋏を入れ、下方も縫ひ代の所を横に切り込み、他の一枚を左前裏布見返しの表より、表身頃と同じ方法に縫ひ合せ、兩方とも表より飾ミシ



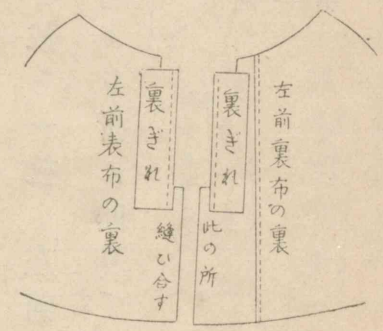
裏表前左方
見返しの縫ひ
第一圖

ンをかけ、次に、下方の切り込みより、表裏の身頃を縫ひ合せ、縫ひ目を割りて鏝を當て、第三圖の如く表裏を合せ、見返しの奥三サンチほどの所に、表よりミシンを掛く。

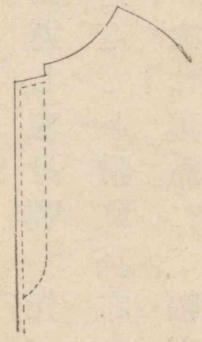
二、右身頃・裾　次に、右身頃の表裏を合せ、左身頃の如く三サンチの所より折れ曲りて、裾までミシンをかけ、縫ひ目を割りて鏝を當て、表より躾にて押へ置き、裾廻りを二サンチほど折り伏せ、一サンチ内に入り、表よりミシンをかけ、裏裾は表より一サンチ短くしてまつり附け、又は表裾の如くミシンをかけ、所々をまつり置き、其れより、左右

方ひ縫の返し見裏表前左

第二圖



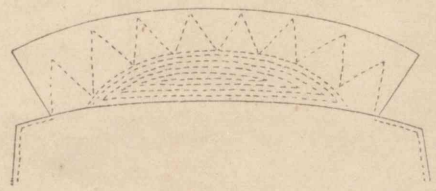
第三圖



前の縫ひ目に飾ミシンをかく。

三、衿　衿心を一枚の表衿に合せて躾をかけ、圖の如く、刺縫をなし、之れを表身頃の後衿明の中央に當てゝ待針を打ち、前の切り込みの所まで、衿廻りに合せてミシンをかけ、縫ひ目を割りて鏝をあて、他の一枚の表衿を中表に合せて、心地の廻りにミシンをかけ、引き返して廻りに躾をなし、衿元の所は縫ひ込みに綴ぢ附け、裏身頃を折り伏せ、其の上にまつり附け、表衿の廻りに、一サンチ内に入り、飾ミシンをかく。

方け附の衿



四、釦孔　左見返しに三ヶ所の釦孔を穿け、右表身頃の重り代に釦を附け、左右の衿先にはホツクを附く。

左前表裏の見返しを合せ、釦孔の間に、一個又は二個の留め

をなし置くなり。

裁縫新教科書下卷終

精華高等技藝女子校
山根鶴子

裁縫新教科書下卷

定價金七拾參錢
大正十一年度臨時定價金壹圓參拾九錢

大正七年八月十一日印刷
大正七年八月十四日發行
大正八年四月十五日訂正印刷
大正八年四月十八日再版發行

著作者　共立女子職業學校　櫻友會裁縫研究部

發行者　東京市銀座一丁目廿二番地　大日本圖書株式會社
右代表者
專務取締役　宮川保全

印刷者　東京市小石川區久堅町百八番地　中西彥三郎

發行所　東京市京橋區銀座一丁目　振替口座東京二一九番　大日本圖書株式會社

不許複製

広島大学図書
0130449286